現代語古語辞典

岩坪　健

十年一昔どころか三年一昔と言われる現代においては、もう大昔のことになりますが、私が大学の一回生のとき、渡辺実先生（当時、京都大学教授）の講義を受け、その試験問題に古文の作文が出題され四苦八苦した覚えがあります。そのとき初めて、英語学習には英和辞典と和英辞典があるのに、古文の勉強には古語辞典だけで、現代語から古典語が引ける辞書がないことに気づきました。

月日が流れ、私が大学で教えるようになり、勤務校で古作文の課題を出したところ、ある学生から「和英辞典みたいに和古辞典があれば便利なのに」と言われたのが、この辞書を作る契機になりました。

その作成方法を以下、紹介します。まずテキストには次の三件を選びました。

シグマ標準古文単語（計四五〇語）仲光雄編　文英堂

ステップ古文単語（計三三三語）中村幸弘・西光寺実編　日験

必修古文単語（計四五〇語）島田欣一編　桐原書店

このテキストをコピーして必要な箇所のみ切り取り、語釈の数ごとに分けました。たとえば「あいぎゃう（愛敬）」の訳は「かわいらしさ・魅力・愛らしさ・やさしさ・思いやり」の五つ、「ふみ（文）」の訳も「書物・文書・手紙・学

問・漢詩」と五つあるので、一緒にまとめました。それからゼロックスラベル用紙に訳の数だけコピーして一項目ごとに剝し、一つの単語に口語訳を一つだけ残して他は除いたりしてカードに貼りました（160頁のサンプル参照）。そしてカードを現代語の五十音順に並べ、普通紙にコピーして原稿を作りました。三種類のテキストは表記方法がまちまちなので統一しましたが、見落としがあるかもしれません。ミスを指摘していただければ幸いです。また、さらに良い作成方法があればお教えください。

凡例

本稿は、現代語から古典語を引く辞書です。古文で作文するときに利用できます。

国語辞典と同じように、現代語が五十音順に並んでいます。たとえば「愛らしさ」を古語でどう言うか知りたいならば、まず一字めの「あ」の項（162頁から165頁）を見ます。さらに二字めの「い」を五十音順で捜すと、次のように載っています。

愛らしさ＝あいぎゃう（愛敬）［名］例 愛敬こぼるるばかりにておはする。［宇津保］訳 愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。

最初に現代語の「愛らしさ」、そしてイコール記号（＝）のあとに古典語の「あいぎゃう」。その下の（　）の中は古語の漢字表記です。漢字の当て方が二種類以上ある場合は、・を置いて並べています。次の［　］の中は品詞名と活用の種類の略号です。

［名］名詞　［代名］代名詞　［副］副詞　［連体］連体詞　［感動］感動詞　［接続］接続詞　［助］助詞　［助動］助動詞

［形・ク］形容詞ク活用　［形・シク］形容詞シク活用　［形動・ナリ］形容動詞ナリ活用　［形動・タリ］形容動詞タリ活用

［動］動詞　動詞の活用の種類の略号は以下の通り。

［四］四段　［上一］上一段　［上二］上二段　［下一］下一段　［下二］下二段　［カ変］カ行変格活用　［サ変］サ行変格活用　［ナ変］ナ行変格活用　［ラ変］ラ行変格活用

なお活用の種類が二つある時は、／を置いて並べました。たとえば「しのぶ」には四段活用と上二段活用があるので、［動・四／上二］としました。

最後に古語（先の例では「あいぎゃう」）を使った例文（例以下）と、その口語訳（訳以下）があります。訳の「愛らしい魅力」は、見出し語の「愛らしさ」と一致しませんが、これはテキストのままにして、直していないからです。

例文の末尾にある［宇津保］は、古文の出典名です。略称を用いた作品名は、次の通りです。

〈上代〉書紀＝日本書紀　万葉＝万葉集

〈中古〉竹取＝竹取物語　伊勢＝伊勢物語　古今＝古今和歌集　土佐＝土佐日記　後撰＝後撰和歌集　大和＝大和物語　宇津保＝宇津保物語　蜻蛉＝蜻蛉日記　落窪＝落窪物語　枕＝枕草子　源氏＝源氏物語　和泉＝和泉式部日記　拾遺＝拾遺和歌集　紫日記＝紫式部日記　栄花＝栄花物語　堤中＝堤中納言物語　更級＝更級日記　今昔＝今昔物語　後拾遺＝後拾遺和歌集　讃岐＝讃岐典侍日記　金葉＝金葉和歌集　詞花＝詞花和歌集　深塵＝深塵秘抄　千載＝千載和歌集　山家＝山家集　とりかへ＝とりかへばや物語

〈中世〉新古今＝新古今和歌集　方丈＝方丈記　宇治＝宇治拾遺物語　平治＝平治物語　平家＝平家物語　建礼＝建礼門院右京大夫集　東関＝東関紀行　十訓＝十訓抄　著聞＝古今著聞集　十六夜＝十六夜日記　徒然＝徒然草　義経＝義経記

〈近世〉野ざらし＝野ざらし紀行　五人女＝好色五人女　鹿島＝鹿島紀行　雨月＝雨月物語　玉の小櫛＝源氏物語玉の小櫛

テキスト

名　**あいぎゃう**（愛敬）

① かわいらしさ・魅力・愛らしさ

② やさしさ・思いやり

若い人の、顔つき、そぶりがにこやかで、上品、魅力的な感じをいう。派生動詞「あいぎゃうづく」は〈かわいらしくなる・魅力的な愛らしさが備わる〉の意。

例 ① **愛敬**こぼるるばかりにておはする。〔宇津保〕

愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。

② ものうち言ひたる、聞きにくからず、**愛敬**ありて…〔徒然〕

ちょっとものを言ったのが、聞き苦しくなく、やさしい思いやりがあって

類例 まみ、口つき、いと**愛敬づき**…〔源氏〕

目もとや口もとに、とても**魅力が備わり**

カード（上のテキストから作成した五枚のカード）

かわいらしさ＝あいぎゃう（愛敬）

名

魅力＝あいぎゃう（愛敬）

名

例 愛敬こぼるるばかりにておはする。〔宇津保〕

訳 愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。

愛らしさ＝あいぎゃう（愛敬）

名

例 愛敬こぼるるばかりにておはする。〔宇津保〕

訳 愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。

やさしさ＝あいぎゃう（愛敬）

名

例 ものうち言ひたる、聞きにくからず、愛敬ありて…〔徒然〕

訳 ちょっとものを言ったのが、聞き苦しくなく、やさしい思いやりがあって

思いやり＝あいぎゃう（愛敬）

名

例 ものうち言ひたる、聞きにくからず、愛敬ありて…〔徒然〕

訳 ちょっとものを言ったのが、聞き苦しくなく、やさしい思いやりがあって

最後になりましたが、この一連の面倒な作業を快く引き受けてくれた岩坪ゼミの学生諸君の芳名を挙げて、感謝の印に代えさせていただきます。

足立清美　内川直美　大野昭子　桐原なおこ　好田博子　児玉京子　治部彰子　田谷恵　常深章子　藤田貴久子
宮垣美紀　三宅真澄　森みすず　山本佳代
青木知子　足立典子　井上綾子　大倉香織　岡田知子　於勢あき子　北本裕子　楠王惠　楠瀬千恵　國定合歓
佐々木美和　佐田明子　篠田優子　城村知子　砂川知子　谷川かおり　中野由美子　牟田由紀子　望月暁子
山口美登利

あ

あ＝あなかま［連語］

ああいやだ＝あなにく（あな憎）［連語］

例 あなにく、例の御くせぞと見たてまつる。［源氏］訳 ああいやだ、いつものお癖が出たとお見受けする。

ああ、うるさい＝あなかま（あな喧）［連語］

ああ恐れ多い＝あなかしこ［連語］例 あなかしことしりへざまにゐざり［源氏］訳 ああ恐れ多いと座ったまま後ずさりして

ああ困ったことだ＝あなにく（あな憎）［連語］例 あなにく、例の御くせぞと見たてまつる。［源氏］訳 ああいやだ、いつものお癖が出たとお見受けする。

ああ憎らしい＝あなにく（あな憎）［連語］例 あなにく、例の御くせぞと見たてまつる。［源氏］訳 ああいやだ、いつものお癖が出たとお見受けする。

あいかわらず＝なほ（猶・尚）［副］

挨拶＝せうそこ（消息）［名］

あいさつする＝あへしらふ［動・四］

愛すべきだ＝めでたし［形・ク］例 うぐひすは、ふみなどにもめでたきものに作り…［枕］訳 うぐいすは漢詩などにも愛すべきものとして詠み

愛すべきである＝めづらし（珍し）［形・シク］例 いやめづらしき梅の花かも［万葉］訳 いよいよ愛すべき梅の花よ。

愛する＝めづ（愛づ・賞づ）［動・下二］

あいだ（時間的に）＝ほど（程）［名・助］

間をあけて道をつける＝わく（分く・別く）［動・下二］

相手に気の毒だ＝こころぐるし（心苦し）［形・シク］

あいにくだ＝あやにくなり［形動・ナリ］例 出でむとするに時雨といふばかりにもあらず、あやにくにあるに…［蜻蛉］訳 出掛けようとすると、時雨という程度ではなく、あいにくひどい雨が降るので

愛らしい＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］例 なにもなにも、小さきものはみなうつくし。［枕］訳 なにもかも、小さいものはみんなかわいらしい。

（けだかくて）**愛らしい**＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

愛らしさ＝あいぎゃう（愛敬）［名］例 愛敬こぼるるばかりにておはする。［宇津保］訳 愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。

（人に）**会う**＝みゆ（見ゆ）［動・下二］

会う＝みる（見る）［動・上一］

葵祭り＝まつり（祭り）［名］

明るい＝あかし（明かし）［形・ク］例 桂川、月のあかきにぞわたる。［土佐］訳 桂川を、月の明るい時に渡る。

明るくする＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

（心を）**明るくする**＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

明らかにする＝あきらむ（明らむ）［動・下二］例 事のくはしきありさまも明らめ…［源氏］訳 その事の詳しい様子も明らかにし 例 おほかた、古を考ふること、さらにひとりふたりの力もて、ことごとくあきらめつくすべくもあらず。［玉勝間］訳 だいたい、昔のことを考えるということは、まったく一人二人の力で、すべて明らかにしつくせるはずもない。

あきる＝うんず（倦んず）［動・サ変］

飽きることがない＝あかず（飽かず）［連語］例 言葉多からぬこそ、あかず向かはまほしけれ。［徒然］訳 口数の少ないような人とは、飽きることなく対座していたいものだ。

あきれたことだ＝めざまし（目覚まし）［形・シク］例「我は」と思ひあがり給へる御方々、めざましきものに、おとしめそねみ給ふ。［源氏］訳「自分こそ」と思いあがりなさった方々は、（桐壺の更衣が帝から寵愛されるのを）あきれたこととして、さげすみそねみなさる。

あきれたものだ＝あさまし［形・シク］例 言ひ返すべうもあらずあさまし。［堤中］訳（両親も）反論しようもなく（心の中では）あきれている。

あきれる＝あさまし（浅まし）［形・シク］

あきれる＝あさむ（浅む）［動・四］

あきれるほどだ＝なさけなし（情けなし）［形・ク］

悪事＝ひがこと（僻事）［名］例 ひがことをのみ罪せむよりは…［徒然］訳 悪事（をした人）ばかりを罰したりするよりは

明くる朝＝あした（朝）［名］

（年が）**あける**＝あく（明く）［動・下二］例 あけむ年、よそぢになり給ふ…［源氏］訳 年があけると、四十におなりになる

あさ＝あした（朝）［名］例 あしたに死に、夕べに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。［方丈］訳 朝に死ぬ人があるかと思えば、夕方に生まれる子があるのは、まさによどみに浮かぶ泡に似ていたことだ。

朝から晩まで＝ひねもす（に）（終日）［副］

あざける＝あさむ（浅む）［動・四］

あさはかだ＝ふつつかなり（不束なり）［形動・ナリ］例 頭おろしなどふつつかに思ひたる…［徒然］訳 出家することなどをあさはかに考えた

朝早く＝つとに（夙に）［副］

朝夕＝あけくれ（明け暮れ）［名］

（お…）**あそばす**＝せたまふ（せ給ふ）［連語］

遊び＝あそび（遊び）［名］

与える＝やる（遣る）［動・四］

あたかも＝さながら（然ながら）［副］

頭にかぶせる＝かづく（被く）［動・下二］

頭にかかる＝かづく（被く）［動・四］例 黒き物をかづきて、この者の臥したまへるを…［源氏］訳 黒い物をかぶって、この君が横になっていらっしゃったところ

（自分の）**頭の上にのせる**＝かづく（被く）［動・四］

あたり（空間的に）＝ほど（程）［名・助］

あちこち移動する＝ありく（歩く）［動・四］例 舟に乗りて、海ごとにありきたまふに、［竹取］訳 舟に乗って、あちこちの海をこぎまわりなさるうちに、

あちらこちら動きまわる＝ありく（歩く）［動・四］

あっけない＝あへなし（敢へ無し）［形・ク］例 片時に消えたるも、いとあへなし。［源氏］訳 わずかの間に消えてしまったのも、実にあっけない。

あっさりしている＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］例 よき人はひとへに好けるさまにも見えず、興ずるさまもなほざりなり。［徒然］訳 身分や教養のある人はやたらと風流心を持っているようには見えないで、楽しむ様子もあっさりしている。

（…で）**あったろうに**＝てまし［連語］

（…で）**あってほしいなあ**＝もがな［助］

集まる＝つどふ（集ふ）［動・四］

集める＝あはす（合はす）［動・下二］

当てにさせる＝たのむ（頼む）［動・下二］例 我をたのめて来ぬ男。［梁塵］訳（来ると約束して）自分をあてにさせておいて来ない男。

あてにする＝たのむ（頼む）［動・四］例 頼まぬものの恋ひつつぞ経る［伊勢］ 訳（あなたの訪れを）あてにしてはいないけれども、（あなたを）恋しく思いながら過ごしている。例 人をたのめば身他の有なり。［方丈］ 訳 人を頼りにする（＝主人持ちになる）と、我が身はその人の所有するものになってしまう。

あてにならない＝はかなし［形・ク］

あでやかだ＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

あと＝かた（形）［名］

あどけない＝いはけなし［形・ク］例 いはけなくかいやりたる額つき、髪ざし、いみじううつくし。［源氏］ 訳 あどけなくかき上げた額の様子や、髪の様子は、たいそうかわいらしい。

後になる＝おくる（後る）［動・下二］

あなた（女性どうしで親しんで呼ぶ語）＝いも（妹）［名］

あなた（主に男性が女性に）＝いも［名］ 例 わが振る袖をいも見つらむか［万葉］ 訳 わたしが愛情こめて振る袖をあなた（＝妻）は見ていることだろうか。

あなた＝きみ（君）［代名］

あなどる＝あさむ（浅む）［動・四］

兄または姉＝このかみ（兄）［名］

あの＝ありつる［連体］

あますところがない＝くまなし（隈無し）［形・ク］例 くまなく見集めたる人の言ひしことは…［源氏］ 訳 余す所なく女性を知っている人の言ったことは

あまり…ない（打消を伴って）＝をさをさ［副］ 例 冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。［徒然］ 訳 冬枯れの景色の情趣は、秋の景色の情趣にあまり劣らないはずだ。

あまりに＝うたて［副］

あまりにひどい＝あさまし［形・シク］

あまりのことで情けない＝あさまし（浅まし）［形・シク］

あまりよくない＝わろし（悪し）［形・ク］

雨が降ったりやんだりする＝しぐる（時雨る）［動・下二］

誤り＝ひがこと（僻事）［名］

新たに＝さらに（更に）［副］

あらたまった態度でない＝しどけなし［形・ク］

改まって＝わざと（態と）［副］

あらたまる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

改めて＝さらに（更に）［副］ 例 元の住みかに帰りてぞ、更に悲しきことは多かるべき。［徒然］ 訳 元の家に帰って、改めて悲しいことは多いはずだ。

（様子を）表す＝けしきばむ（気色ばむ）［動・四］

（姿を）現す＝みゆ（見ゆ）［動・下二］ 例 「などか久しく見えざりつる。」［和泉］ 訳 「どうして長く（姿を）見せなかったの。」

（外に）現れる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

ありあけの月＝ありあけ（有明）［名］

ありさま＝けしき（気色）［名］

あります＝さうらふ（候ふ）［動・四］ 例 別の子細さうらはず。［平家］ 訳 特別な理由はありません。

あります＝さぶらふ（候ふ・侍ふ）［動・四］

あります＝はべり（侍り）［動・ラ変］ 例 「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ちはべらず」と答へしかば、［徒然］ 訳 「お子さんはいらっしゃるか」と尋ねたのに対して、「一人も持ってません」と答えたところ、

…ある［補助動詞］＝ものす（物す）［動・

サ変］例 なみなみの人にも、ものしたまはねば［源氏］訳 ひととおりの人ではいらっしゃらないので

あるかないかの様子だ＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］

歩きまわる＝ありく（歩く）［動・四］例 五月ばかりなどに山里ありく、いみじうをかし。［枕］訳 五月のころ山里を巡り歩くのは、大変おもしろい。

歩く＝ありく（歩く）［動・四］

…（て）**歩く**＝ありく（歩く）［動・四］

主＝あるじ（主）［名］

あれこれと＝とかく［副］例「蓬莱の玉の枝を、一つの所あやまたず持ておはしませり。何をもちて、とかく申すべき」［竹取］訳「蓬莱の玉の枝を、一点の違いもない形で持っていらっしゃった。（これでは）どういう理由で、あれこれと申せようか」

あれこれと考えるまでもない＝さうなし（左右なし）［形・ク］

（…が）**あればいいなあ**＝もがな［助］例 世の中にさらぬ別れのなくもがな［古今］訳 この世の中に死別というものがなければいいがなあ。

荒れはててしまった昔の都＝ふるさと（古里・故郷）［名］例 名のみ残れる志賀のふるさと［東関］訳 名前だけが残っている今は荒れはててしまった志賀の旧都

あれやこれやと＝とかく［副］

あわてる＝まどふ（惑ふ）［動・四］

安心だ＝うしろやすし（後ろ安し）［形・ク］例 人となして、うしろやすからむ妻などに預けてこそ、死にも心やすからむとは思ひしか、［蜻蛉］訳（道綱を）一人前の男とし、安心できるような妻に（世話を）まかせてはじめて、（自分が）死ぬにしても安心だろうとは思ったが、

安心だ＝こころやすし（心安し）［形・ク］例「今ぞ、心やすく黄泉路もまかるべき」［大鏡］訳「今なら、（思い残すことなく）安心してあの世へも行くことができる」

い

いいかげんだ＝おろかなり（疎かなり・愚かなり）［形動・ナリ］例「帝の御使ひをば、いかでおろかにせむ」［竹取］訳「天皇の御使者を、どうしておろそかにできようか、いやできないだろう」

いいかげんだ＝おろそかなり（疎かなり）［形動・ナリ］

いいかげんだ＝かりそめなり（仮初めなり）［形動・ナリ］

いいかげんだ＝なのめなり（斜なり）［形動・ナリ］例 世をなのめに書き流したる言葉の…［枕］訳 世の中のことをいいかげんに書き流した言葉が

いいかげんだ＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］例 なほざりに頼めおくめる一言を…［源氏］訳 いいかげんにあてにさせてくれた（約束してくれた）と思われる一言を

（大声で）**言い騒ぐ**＝ののしる（罵る）［動・四］例 日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに、夜ふけぬ。［土佐］訳 一日中、あれこれと忙しくして大声で言い騒いでいるうちに、夜がふけてしまった。

言いつける＝おきつ（掟つ）［動・下二段］

言いつける＝おほす（仰す）［動・下二］例「随身も弦打ちして、絶えず声づくれ、とおほせよ。……」［源氏］訳「随身も（物の怪を払う）弦打ちをして声を絶やすなと言いつけよ。……」

言いようがないほどひどい＝えもいはず（えも言はず）［連語］

言いようがないほど立派だ＝えもいはず（えも言はず）［連語］例 えもいはぬ匂ひの、さと薫りたるこそ、をかしけれ。［徒然］訳 言いようがないほどよい匂いが、さっと薫ってくるのは、趣深い。

（何とも）言いようがなくひどい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

言いようもない＝えもいはず（えも言はず）［慣用句］例 えもいはず茂りわたりて、いと恐ろしげなり。［更級］訳 言いようもなく、草木が一面に茂って、恐ろしそうな様子である。

言う＝あり（有り）［動・ラ変］

言う＝ものす（物す）［動・サ変］

言う価値がない＝いふかひなし（言ふ効無し・言ふ甲斐無し）［形・ク］例 ましてあはれに、いふかひなし。［源氏］訳（死別は）もっと悲しく、言ってもしかたがない。

言うまでもない＝いはゆる（所謂）［連体］

言うまでもない＝おろかなり（疎かなり・愚かなり）［形動・ナリ］例 あさましなど言ふもおろかなり。［増鏡］訳 意外だなどとは言うまでもないことだ。

言うまでもない＝さらなり（更なり）［形動・ナリ］例 夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。［枕］訳 夏は夜。月が出ているころは言うまでもないが、闇のころでもやはり、蛍が多く飛びかっているの。例 月花はさらなり。風のみこそ人に心はつくめれ。［徒然］訳 月や花は言うまでもない。風こそまさに、人に情趣を感じる心ばえを与えるもののようだ。

言うまでもない＝さらにも言はず・さらにもあらず［連語］

言うまでもないこととして＝さるものにて（然るものにて）［連語］

家柄＝きは（際）［名］

家柄＝しな（品）［名］例 品、かたちこそ生まれつきたらめ、心はなどか、賢きより賢きにも移さば移さざらん。［徒然］訳 家柄や、容貌は生まれつきだろうが、心はどうして、賢いが上にも賢く向上できないことがあろうか、いやできるはずだ。

家にばかりいる＝さとぶ（里ぶ・俚ぶ）［動・上二］

家の中から外を見る＝みいだす（見出す）［動・四］

家の中を外から見る＝みいる（見入る）［動・下二］

癒える＝やむ（止む・已む）［動・四］

意外だ＝あさまし［形・シク］例 あさましく稀有のことなり。［大鏡］訳 驚くほど意外で、きわめてまれなことである。

意外なことにあきれる＝あさまし（浅ましし）［形・シク］

行かせる＝つかはす（遣はす）［動・四］

行かせる＝やる（遣る）［動・四］例 山々に人をやりつつ求めさすれど、さらになし。［大和］訳 あちこちの山に人を行かせて（鷹を）探させるけれども、まったく見つからない。

いかにも実直（＝忠実で正直）**だ**＝まめまめし（実実し）［形・ク］

いかにも無骨だ＝こちごちし（骨骨し）［形・シク］

いかにもものずきだ＝すきずきし（好きし）［形・シク］

勢いがさかんだ＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

勢いが激しい＝たけし（猛し）［形・ク］

生きている＝あり（有り）［動・ラ変］

（死に対し）生きている状態＝うつつ

（現）［名］例 世に亡くなりて後に怨み……うつつのわが身ながら…［源氏］訳（死後ならともかく）生身のわが身のままで（怨念のこもった魂がさまよい）

行き届いている＝くまなし（隈なし）［形・ク］

行きとどいている＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

行きとどかないところがない＝くまなし（隅無し）［形・ク］

生きにくい＝ありがたし（有り難し）［形・ク］例 世の中はありがたくむつかしげなるものかな。［源氏］訳 世の中は生きにくくわずらわしいものよ。

行き渡らぬところがない＝くまなし（隈無し）［形・ク］

（口をすぼめて長く）**息を出す**＝うそぶく（嘯く）［動・四］

行く＝さる（去る）［動・四］

（都から地方に）**行く**＝まかる（罷る）［動・四］

行く＝ものす（物す）［動・サ変］例 いとしのびてものせむ。［源氏］訳 ごくこっそりと出かけよう。

行く＝わたる（渡る）［動・四］

いくらなんでも＝よも［副］＜「じ」を伴う＞例 御命失ふまでのことは、よも候はじ。［平家］訳 お命をなくされるほどのことは、いくらなんでもありますまい。

（…したら）**いけない**＝もぞ［連語］例 罪もぞ得たまふ。［源氏］訳 罪をお受けになるといけない。

意向＝けしき（気色）［名］

勇ましい＝たけし（猛し）［形・ク］

意地が悪い＝あやにくなり［形動・ナリ］例 惜しまれぬ身だにも世にはあるものをあなあやにくの花の心や［山家集］訳 惜しまれもしない私でさえもこの世にあるのに。惜しまれつつ散るとは、ああ意地悪な花の心よ。

意地が悪い＝さがなし［形・ク］

いじらしい＝いとほし［形・シク］例 いみじう死ぬばかり思へるがいとほしければ…［源氏］訳 ひどく今にも死にそうに思っているのがいじらしいので

いじらしい＝らうたし［形・ク］

以前＝はやく（早く）［副］

依然として＝なほ（猶・尚）［副］例 雨はやみたれど、風なほ吹きて…［更級］訳 雨はやんだけれども、風は依然として吹いて

以前に住んでいた所＝ふるさと（古里・故郷）［名］

以前によく通った所＝ふるさと（古里・故郷）［名］

以前の＝ありつる（在りつる）［連体］

以前のまま＝さながら（然ながら）［副］

急ぐこと＝いそぎ（急ぎ）［名］

痛い＝いたし（痛し）［形・ク］

（何かを）**いたす**＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］例「このはたおりをば聞くや。一首つかうまつれ」［十訓］訳「このきりぎりすの鳴き声が聞こえるか。（これを題にして）一首お詠みいたせ」

…**いたす**［補助動詞］＝つかまつる（仕る）［動・四］

…**いたす**（他の動詞の上につけて謙遜の気持ちをそえる）＝まかる（罷る）［動・四］

いたずらだ＝さがなし［形・ク］例「さがなき童どもの仕まつりける」［徒然］訳「いたずらな小僧たちのしわざでございます」

いただく＝うけたまはる（承る）［動・四］

いただく＝たまはる（賜る・給はる）［動・四］例 二条の后の宮にて、白き大袿を賜りて…［後撰］訳 二条の皇

后の御殿で、白い大桂（衣服の一種）をいただいて［例］忠岑も禄賜りなどしけり。［大和］［訳］忠岑も褒美をいただくなどした。

いたたまれない＝かたはらいたし（傍ら痛し）［形・ク］［例］なめきはかく言ふらむと、かたはらいたし。［枕］［訳］ぶしつけな言葉は、どうしてこういうのだろうと、いたたまれない。

いたわしい＝いたし（痛し）［形・ク］

一応そのとおりだが＝さるものにて（然るものにて）［連語］［例］それもさるものにて、今一際心も浮き立つものは、春の気色にこそあめれ。［徒然］［訳］それ（＝秋がすばらしいという説）はそのとおりだが、なお一層心が落ち着かないのは、春の情景であるようだ。

一時的だ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］

一時的だ＝かりそめなり（仮初めなり）［形動・ナリ］［例］はかなき小柴垣も、故ある様にしなして、かりそめなれど、あてはかに住まひなし給へり。［源氏］［訳］ささやかな小柴垣も、風趣をたたえた作りざまで、一時のお宿とはいえ、品よくお住まいになっていらっしゃる。

いちず＝ひたぶるなり［形動・ナリ］

いちずだ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］［例］人には聞かれじと、あながちにつつみ給ひしかど…［十六夜］［訳］人に聞かれまいと、いちずに包み隠しなさったけれども

いちずにする様子だ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

一段とまさって＝けに（異に）［副］

一日中＝ひねもす（に）［副］［例］雪こぼすがごと降りて、ひねもすにやまず。［伊勢］［訳］雪が、空からこぼしたように降ってきて、一日中やまない。

一人前として扱う＝かずまふ（数まふ）［動・下二］［例］かくわりなき齢過ぎはべりて、かならず数まへさせたまへ。［源氏］［訳］このようにたわいない年頃が過ぎましたうえで、必ず一人前としてお扱いになってください。

一人まえの男性＝をとこ（男）［名］

一部始終＝あらまし［名］［例］無事のあらましをも聞かせ申すべし。［五人女］［訳］無事だったことの一部始終を話して聞かせるのがよい。

一面に＝なべて（並べて）［副］［例］秋風の吹きと吹きぬる武蔵野はなべて草葉の色変はりけり［古今］［訳］秋風が吹きに吹いている武蔵野は、一面に草の葉が色変わりしてしまった。

一面に…（する）＝わたる（渡る）［動・四］［例］はるかに霞みわたりて…［源氏］［訳］はるかに（京のほうは）一面に霞がかかって［例］日の入りぎはの、いとすごく霧りわたりたるに、車に乗るとて［更級］［訳］日が沈みかけたころで、とてももの寂しく一面に霧がかかっている時に、車に乗ろうとして

意中＝けしき（気色）［名］

いっこうに…ない＝つやつや［副］［例］木の葉をかきのけたれど、つやつや物も見えず。［徒然］［訳］木の葉をかきわけてみたけれども、いっこうに何も見えない。

一生＝よ（世）［名］

一緒に行く＝ぐす（具す）［動・サ変］

一緒に…する＝あふ（合ふ）［動・四］

一緒になる＝あふ（合ふ）［動・四］

いっそう＝いとど［副］［例］散ればこそいとど桜はめでたけれ［伊勢］［訳］散るからこそいっそう桜はすばらしい。［例］その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど、ところどころ語るを聞くに、いとどゆかしさまされど［更級］［訳］この物語、あの物語、また光源氏の様子

など、ところどころ話すのを聞くと、（以前よりも）いっそう読みたい気持ちが強まるが

いっそう＝けに（異に）［副］

いっそう＝なほ（猶・尚）［副］

いったい＝されば（然れば）［接続／感動］例 こは、されば、何事さぶらふぞや。［平家］訳 これは、いったい、何事がございますのか。

一帯に＝なべて（並べて）［副］

（同じところを）**行ったり来たりする**＝いさよふ［動・四］

行ってしまう＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］例 いささかなることにつけて、世の中を憂しと思ひて、出でて往なむと思ひて［伊勢］訳 ちょっとしたことにつけて、夫婦の仲をいやだと思って、（家を）出て行ってしまおうと思って、例 この人を具していにけり。［徒然］訳 この人を連れて、行ってしまった。

言ってもしかたがない＝いふかひなし（言ふ甲斐なし）［形・ク］

いつになったら＝いつしか（何時しか）［副］

いつのまにか＝いつしか（何時しか）［副］例 鶯ばかりぞいつしか音した る。［蜻蛉］訳 うぐいすだけがいつのまにか鳴いている。

いつの間にか＝おのづから（自ら）［副］

いっぱいある＝しげし（繁し・茂し）［形・ク］例 荒れたる庭の露しげきをながめて…［源氏］訳 荒れている庭に露がいっぱい降りているのをぼんやりと見つめて

いっぱいだ＝ところせし（所狭し）［形・ク］

一般に＝おほかた（大方）［副］

一般に＝なべて（並べて）［副］例 なべて、心柔らかに情けあるゆゑに、人の言ふほどのこと、けやけく否びがたくて、［徒然］訳（都の人は）一般に、心が穏やかで人情があるために、人の頼むようなことを、きっぱりと断りにくいので、

一方では＝かつ（且つ）［副］例 よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、［方丈］訳 よどみに浮かぶ水の泡は、一方では消えたかと思うと他方では新しくできて、

いつも＝あけくれ（明け暮れ）［副］

いつもの＝れいの（例の）［連語］例 のおまし所にはあらで、廂におまし敷きて…［大和］訳 いつもの御座所ではなくて、廂の間に寝床を敷いて

いつものように＝れいの（例の）［連語］例 日暮るるほど、例の集まりぬ。［竹取］訳 日が暮れるころに、（五人は）いつものように集まった。例 例の、涙もとどめられず。［源氏］訳 いつものように、涙をとめることができない。

移動する＝ありく（歩く）［動・四］例 舟に乗りて、海ごとにありきたまふに、［竹取］訳 舟に乗って、あちこちの海をこぎまわりなさるうちに、

いとおしい＝らうたし［形・ク］例 ちごの、かいつきて寝たる、いとらうたし。［枕］訳 幼児が抱きついたまま寝てしまったのは、とてもいとおしい。

いとしい＝あはれなり［形動・ナリ］

（肉親関係の者に対して）**いとしい**＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］

いとしい＝うるはし（麗し・美し・愛し）［形・シク］例 うるはしと吾が思ふ妹を［万葉］訳 いとしいと思う私の妻を

いとしい＝かなし（愛し）［形・シク］例 まことに、かなしからむ親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。［徒然］訳 まったく、いとしい親のため、妻子のためには、

恥も忘れ、盗みもしかねないものである。

いとしい＝なつかし（懐かし）［形・シク］

（精神的に）**いとしい**＝らうたし（労甚し）［形・ク］

田舎＝あがた（県）［名］

田舎の人＝さとびと（里人）［名］

田舎ぶる＝さとぶ（里ぶ・俚ぶ）［動・上二］

（格別）**意に留めないようすだ**＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］例 なほざりにても、ほのかに見奉り通ひたまひし所どころ…［源氏］訳 格別意にとめるわけではなくても、わずかでもお会いしてお通いになったあちこちの女性の中には

命＝たまのを（玉の緒）［名］

祈る＝ねんず（念ず）［動・サ変］例 清水の観音を念じたてまつりても…［源氏］訳 清水寺の観音様にお祈り申し上げても

いばっている＝ところせし（所狭し）［形・ク］例 よろづに清らをつくしていみじと思ひ、所狭きさましたる人こそ、うたて、思ふところなく見ゆれ。［徒然］訳 万事に華美を尽くして（自分では）立派だと思い、あたり狭しといばりちらしているような人は、ひどく、無分別のように思われる。

（相手にされないで）**いまいましい**＝ねたし（妬し）［形・ク］

います＝さうらふ（候ふ）［動・四］

います＝さぶらふ（侍ふ・候ふ）［動・四］

います＝はべり（侍り）［動・ラ変］

今様歌（の略称）＝いまやう（今様）［名］

忌まわしい＝ゆゆし（由々し・忌々し）［形・シク］

今を盛りと栄える＝ときめく（時めく）［動・四］

意味＝こころ（心）［名］

意味がある＝こころあり（心あり）［連語］

意味がない＝あやなし（文無し）［形・ク］

いやがらせる＝うとむ（疎む）［動・下二］

いやがる＝うとむ（疎む）［動・四］

卑しい＝あし（悪し）［形・シク］

卑しい＝あやし（賤し）［形・シク］例 あやしの宿りに立ち寄りては、その家主が有様を問ひ聞き…［増鏡］訳 卑しい者の宿に立ち寄っては、その家の主人のようすを問い聞き

いやしい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

いやだ＝あさまし［形・シク］

いやだ＝うし（憂し）［形・ク］

いやだ＝うたてし［形・ク］例 こちたく酔ひののしりて、うたてくらうがはしきこともさしまじるべし。［栄花］訳 度を越して酔い騒いで、いやな感じで騒々しいことも、中にはあるにちがいない。

いやだ＝くちをし（口惜し）［形・シク］

いやだ＝こころうし（心憂し）［形・ク］

いやだ＝こころづきなし（心付き無し）［形・ク］

いやだ＝にくし（憎し）［形・ク］

いやだ＝むつかし（難し）［形・シク］

いやな感じだ＝いぶせし（鬱悒し）［形・ク］

いやに＝うたて［副］

いやにならない＝あかず（飽かず）［連語］

いやになる＝あく（飽く・厭く）［動・四］

いやになる＝うんず（倦んず）［動・サ変］例 貴なる女の尼になりて、世の中を思ひうんじて…［伊勢］訳 高貴な身分の女性が尼になって、世の中がいやになって

いやらしい＝うたてし［形・ク／シク］

いよいよ＝いとど［副］

（物事が）**いよいよ進むこと**＝すさび（荒び・進び・遊び）［名］

（普通と変わっていて）**異様だ**＝けし（怪し・異し）［形・シク］

異様だ＝けしからず（怪しからず）［連語］例 木精などといふけしからぬ形も現るるものなり。［徒然］訳 木の精などという異様なものも現れるものである。

（何かが隠れているようで）**異様で不気味だ**＝むくつけし［形・ク］

異様に＝うたて［副］

いらっしゃる＝います（坐す・在す）［動・サ変］例 かかる道はいかでかいまするとて言ふを見れば…［伊勢］訳 こんな道にどうしていらっしゃるのかと言うのを見ると

いらっしゃる＝います（在す）［動・四］例「行く春丹波にいまさば、もとよりこの情うかぶまじ」［去来抄］訳「晩春に（芭蕉が）丹波にいらっしゃったなら、もとよりこの心情は浮かばなかっただろう。

…（て）**いらっしゃる**［補助動詞］＝います（坐す・在す）［動・四／サ変］例 されば、帰りいましにけり。［竹取］訳 そこで、帰っていらっしゃった。→「…ていらっしゃる」参照

いらっしゃる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］例「翁のあらむかぎりは、かうてもいますがりなむかし」［竹取］訳「（この）翁が生きている間は、こうして（独身のままで）もいらっしゃることができよう」

いらっしゃる＝おはします（御座します）［動・四］例 むかし、惟高親王と申す親王おはしましけり。［伊勢］訳 昔、惟高親王と申し上げる親王がいらっしゃった。例 このおはします所は、人かれ里遠き島の中なり。［増鏡］訳 この（後鳥羽院が）いらっしゃる所は、人里を遠く離れた島の中である。

いらっしゃる＝おはす（御座す）［動・サ変］例 竹の中におはするにて知りぬ。［竹取］訳 竹の中にいらっしゃるので知った。例 右中将おはして、物語したまふ。［枕］訳 右中将がおいでになって（＝いらっしゃって）物語をなさる。

いらっしゃる＝ます（坐す・在す）［動・四］例 葎（むぐら）はふ賤（いや）しき屋戸（やど）も大君の坐（ま）さむと知らば…［万葉］訳 葎が這い茂るむさくるしいこの家も、大君がいらっしゃるだろうと知っているなら

…（て）**いらっしゃる**［補助動詞］＝ます（坐す・在す）［動・四］例 いと疲れませるによりて…［古事記］訳 とても疲れていらっしゃったので

いらっしゃる＝わたる（渡る）［動・四］

いる＝ものす（物す）［動・サ変］

…**いる**［補助動詞］＝ものす（物す）［動・サ変］例 なみなみの人にもものしたまはねば…［源氏］訳 ひととおりの人ではいらっしゃらないので

いる＝ゐる（居る）［動・上一］

いろいろ＝よろづ（万）［名］例 野山にまじりて、竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。［竹取］訳 野や山に入っては、竹を取り竹を取りして、その竹をいろいろのことに使っていた。

（もの思いをして）**いろいろと気をもむこと**＝こころづくし（心尽くし）［名］

いろいろの動詞の代わりに用いる＝す（為）［動・サ変］

色美しく輝く＝にほふ（匂ふ）［動・四］例 いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬるかな［詞花］訳 昔栄えていた奈良の都に美しく咲いていた八重桜が、今日は宮中で色美しく輝いて咲いたことよ。

色美しく映える＝にほふ（匂ふ）［動・四］例 いにしへの奈良の都の八重桜今日九重ににほひぬるかな［詞花］訳 昔、奈良の都で咲いていた八重桜が、今日は（この平安の都の）宮中で、色美しく映えていることだなあ。

色がさめる＝うつろふ（移ろふ）［動・四］

色好み＝すき（好き）［名］

色づいた草木の葉＝もみぢ（紅葉）［名］

（葉が）**色づく**＝もみづ（紅葉づ）［動・上二］

色に染まる＝にほふ（匂ふ）［動・四］

引率して行く＝ゐる（率る）［動・上一］

因縁＝ちぎり（契り）［名］

陰暦各月の始め数日間に出る月＝ゆふづくよ・ゆふづきよ（夕月夜）［名］

陰暦十六日の月＝いさよひのつき（十六夜の月）［名］

陰暦二月（現代の三月）＝きさらぎ（二月）［名］

う

（多くの人の）**上に立つ人**＝このかみ（兄）［名］

うかがう＝うけたまはる（承る）［動・四］「聞く」の謙譲語

うかがう＝さぶらふ（候ふ）［動・四］

うかがう＝まうづ（詣づ）［動・下二］

うかがう＝まかる（罷る）［動・四］

（様子を）**うかがう**＝まもる（守る）［動・四］

うかがう＝まゐる（参る）［動・四］

浮かれ歩く＝あくがる（憧る）［動・下二］

受け答えする＝あへしらふ［動・四］

動かないでいる＝ゐる（居る）［動・上一］

動きまわる＝ありく（歩く）［動・四］例 舟に乗りて、海ごとにありきたまふに、［竹取］訳 舟に乗って、あちこちの海をこぎまわりなさるうちに、

後ろ暗い＝うしろめたし（後ろめたし）［形・ク］例 うしろめたく二心（ふたごころ）あるまじきよし［増鏡］訳 後ろ暗く二心などあるはずがないことを

うそ（のことば）＝そらごと（虚言・空言）［名］

疑わしい＝あやし（怪し・奇し・異し）［形・シク］

疑わしい＝いぶかし（訝し・審し）［形・シク］

疑わしい＝おぼつかなし［形・ク］

歌などを詠む（よ）＝ながむ（詠む）［動・下二］

歌をうたうこと＝あそび（遊び）［名］（趣味などに）**打ちこむ**＝すく（好く）［動・四］

うちとけて親しくしている＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］例 ねむごろに相（あひ）語らひける友だちのもとに…［伊勢］訳 ごく親しく交際していた友だちのところに

美しい＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］（中世以降の用法）

美しい＝うるはし（麗し・美し・愛し）［形・シク］

美しい＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

美しい＝きよらなり（清らなり）［形動・ナリ］例 世になく清らなる玉の男皇子（をのこみこ）さへ生まれたまひぬ。［源氏］訳 この上なく気品があって美しい玉のような男の皇子までお生まれになった。

美しい＝なまめかし（生めかし・艶めかし）［形・シク］

美しい＝まばゆし（眩し・目映し）［形・ク］

美しい＝よし（良し・善し）［形・ク］

美しい＝をかし［形・シク］例 をかしの御髪（みぐし）や。［源氏］訳 美しい御髪である。

美しい様子が見える＝なまめく（生めく・艶めく）［動・四］

美しく輝く＝にほふ（匂ふ）［動・四］例 いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬるかな［詞花］訳 昔栄えていた奈良の都に美しく咲いていた八重桜が、今日は宮中で色美しく輝いて咲いたことよ。

訴える＝うれふ（愁ふ・訴ふ）［動・下二］

うっとうしい＝いぶせし［形・ク］

うっとうしい＝ところせし（所狭し）［形・ク］

うっとうしい＝むつかし（難し）［形・シク］例 女君は、暑くむつかしとて、御髪すまして［源氏］訳 女君は暑くてうっとうしいと言って、髪を洗って

移りかわる＝うつろふ（移ろふ）［動・四］

（時が）**移る**＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］

移る＝わたる（渡る）［動・四］例 舟に乗るべき所へわたる。［土佐］訳 舟に乗る予定の所へ移る。

（精神的に）**うとくなる**＝かる（離る）［動・下二］

うば（生母に代わって乳を飲ませて子どもを養育する女）＝めのと（乳母）［名］

うまくあてはまる＝あふ（合ふ・会ふ・逢ふ）［動・四］

生まれ故郷＝ふるさと（古里・故郷）［名］

梅の花＝はな（花）［名］

うらみごとを言う＝うらむ（恨む・怨む）［動・上二］

うらめしい＝うし（憂し）［形・ク］

恨めしい＝つらし（辛し）［形・ク］

うるさい＝あなかま（あな喧）［連語］

うるさい＝かしがまし（囂し）［形・シク］

うるさい＝こちたし（言甚し・事甚し）［形・ク］例 人言はまことこちたくなりぬとも…［万葉］訳 人のうわさは本当にうるさくなったとしても

うろたえる＝まどふ（惑ふ）［動・四］例 おびえまどひて御簾（みす）のうちに入りぬ。［枕］訳 恐れうろたえて御簾の中にはいってしまう。

浮気だ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］

うわさ＝こと（言）［名］

うわさされる＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］

うわさに聞く＝おとにきく（音に聞く）［連語］例 いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがなと、音に聞きめでて惑ふ。［竹取］訳 どうにかしてこのかぐや姫を手に入れたい、結婚したいと、うわさに聞き恋こがれて思い乱れる。

うわさをする＝ののしる（罵る）［動・四］

運が悪い＝つたなし（拙し）［形・ク］

運命＝ちぎり（契り）［名］

運命＝よ（世）［名］

え

絵＝かた（形）［名］

ええと＝いさ［感動］

宴会＝あそび（遊び）［名］

縁起が悪い＝いまいまし（忌々し）［形・シク］

円満でない＝かどかどし（角々し）［形・シク］

延暦寺＝やま（山）［名］

遠慮する＝つつむ（慎む）［動・四］

お

お…あそばす＝せたまふ（せ給ふ）［連語］

お与えになる＝たうぶ（賜ぶ・給ぶ）［動・四］例 御館より出でたうびし日より…［土佐］訳 国府のご庁舎からお出になった日から

お与えになる＝たまはる（賜る）［動・四］例 梶原には磨墨をこそ賜ってけれ。［平家］訳 梶原には磨墨（＝馬の名）をお与えになってしまったのだよ。

お与えになる＝たまふ（給ふ）［動・四］例 大御酒給ひ、禄給はむとて、つかはさざりけり。［伊勢］訳 お酒をお与えになり、引き出物をお与えになろうとして、お帰しにならない。

お与えになる＝たぶ（給ぶ・賜ぶ）［動・四］

おいでになる＝います（在す）［動・四／サ変］

おいでになる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］

おいでになる＝おはします［動・四］

おいでになる＝おはす［動・サ変］

おいとまする＝まかづ（罷づ）［動・下二］

（貴人の前から）**おいとまする**＝まかる（罷る）［動・四］例 憶良らは今はまからむ子泣くらむそれその母も吾を待つらむぞ［万葉］訳 私、憶良はもうおいとましよう。（家では）子供が泣いているだろう。そしてその母（＝私の妻）も私を待っているだろうよ。

お祈りする＝ねんず（念ず）［動・サ変］

老いぼれ（老人の謙称）＝おきな（翁）［名］

おうかがいする＝まうづ（参づ・詣づ）［動・下二］例 童よりつかうまつりける君、御髪おろしたまうてけり。正月にはかならずまうでけり。［伊勢］訳 子供のころからお仕えしていた主君が、出家なさった。正月には必ずおうかがいした。

おうかがいする＝まゐる（参る）［動・四］例 大納言殿の参りたまへるなりけり。［枕］訳 大納言殿が参上しなさったのであった。

お受けする＝うけたまはる（承る）［動・四］

近江（＝滋賀県）**の比叡山**＝やま（山）［名］

（…し）**おえる**＝あふ（敢ふ）［動・下二］

大がかりだ＝ことごとし（事々し）［形・シク］

大きな顔をしている＝ところせし（所狭し）［形・ク］

多くの人の上に立つ人＝このかみ（兄）［名］

お贈りになる＝つかはす（遣はす）［動・四］例 岡辺に文つかはす。［源氏］訳（源氏の君は）山の手の家にお手紙をお贈りになる。

おおげさだ＝おどろおどろし［形・シク］例「おどろおどろしく二十人の人ののぼりてはべれば」［竹取］訳「おおげさに二十人もの人がのぼっていますので」

大げさだ＝こちたし（言甚し・事甚し）［形・ク］

大げさだ＝ことごとし（事々し）［形・シク］

大げさだ＝ところせし（所狭し）［形・ク］例 ただ近き所なれば、車はところせし。［堤中］訳 すぐ近い所なので車は大げさだ。

大声で言い騒ぐ＝ののしる（罵る）［動・四］例 日しきりに、とかくしつつののしるうちに夜ふけぬ。［土佐］訳 一日

中、あれこれしながら大騒ぎするうちに、夜がふけた。

大声をあげて騒ぐ＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

お治めになる＝きこしめす（聞こし召す）［動・四］

お治めになる＝しろしめす（知ろし召す）［動・四］例 いま、すべらぎの、天の下しろしめすこと、四つの時、九のかへりになむなりぬる。［古今］訳 今、（醍醐）天皇が、世の中をお治めになることが、四季九回分（＝九年）になった。

お思いになる＝おぼしめす（思し召す）［動・四］例 先帝いとあはれにおぼしめしたりけり。［大和］訳 さきの帝はたいそうしみじみと悲しく思っていらっしゃった。例 目に見えぬものなれども、まことの心を致して、受け取りたりければ、仏、あはれと思しめしたりけるなめり。［古本説話集］訳 目に見えないものだが、誠意を尽くして、受け取ったので、仏は、感心だとお思いになったのであろう。例 船の中の御住居も、今は恋しうぞおぼしめす。［平家］訳 船の中のお住まいも、今は恋しくお思いになる。

お思いになる＝おぼす（思す）［動・四］例 かかる折にまうでむ志を、さりとも思しなむ。必ず仏の御しるしを見む。［更級］訳 こうした折にお参りする心がけを、（仏は）殊勝だとお思いになるだろう。必ず仏のご利益があるだろう。例 人よりはをかしうおぼされければ…［栄花］訳 他の人よりはかわいいとお思いになったので、例 丹後へつかはしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらん。［十訓］訳 丹後へ遣わした人は帰ってきたか。どんなに待ち遠しくお思いになっているだろう。

お思いになる＝おもほす（思ほす）［動・四］例 この君をば、私物に思ほしかしづきたまふこと限りなし。［源氏］訳（桐壺の帝は）この君（＝光源氏）のほうを、自分の大切なものとお思いになりだいじに育てなさることこの上ない。

おかげ＝かげ（影・陰）［名］

（過失を）**おかす**＝おこたる（怠る）［動・四］

お聞き入れになる＝きこしめす（聞こし召す）［動・四］

お聞きする＝うけたまはる（承る）［動・四］例 承る職事は、「いかなることにか」と恐れ思ひけれど［大鏡］訳（天皇の勅命を）お聞きする職事は、「どうなることだろう」と恐ろしく思ったが、例 撰集のあるべき由承りしかば…［平家］訳 勅撰和歌集の作成が予定されていることをお聞きしたので

お聞きになる＝きこしめす（聞こし召す）［動・四］例 笑ひののしるを、上にも聞こしめして渡りおはしましたり。［枕］訳（女房たちが）大声で笑い騒ぐのを、天皇もお聞きになって（こちらへ）おいでになった。例「皮の聖のもとにして出家したまへる」といふ事を聞こしめして…［栄花］訳「皮の堂の上人の所で出家なさった」ということをお聞きになって

お着せ申し上げる＝たてまつる（奉る）［動・四］

奥方（貴人の正妻の敬称）＝きたのかた（北の方）［名］

送ってくる＝おこす（遣す）［動・下二／四］例 すさまじきもの……人の国よりおこせたる文の物なき。［枕］訳 興ざめなもの……地方から送ってきた手紙に贈り物がついていないの。例 おこしたまへる物どもはよろこびてたま

はりぬ。[今昔] 訳 送ってくださいましたいろいろな物は、喜んでいただきました。

臆病だ＝をぢなし（怯なし）[形・ク]

奥ゆかしい＝こころにくし（心憎し）[形・ク] 例 初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうち解けて、[伊勢] 訳 初めのうちは奥ゆかしくとりつくろっていたけれども、今は気を許して やすらかなるこそこころにくしと見ゆれ。[徒然] 訳 落ちつきのあるのが奥ゆかしく思われるよ。

おくる＝おこす（遣す）[動・下二]

贈る＝つかはす（遣はす）[動・四]

（月日を）**送る**＝ふ（経）[動・下二]

（物を）**送る**＝やる（遣る）[動・四] 例 人のがり言ふべきことありて文をやるとて…[徒然] 訳 人のところへ伝えなければならないことがあって手紙を送ると言って

おくれる＝おくる（後る）[動・下二]

行う＝あり（有り）[動・ラ変]

…おさせになる＝せたまふ（せ給ふ）[連語]

おさない＝いときなし（幼きなし・稚きなし）[形・ク]

幼い＝いとけなし（幼けなし）[形・ク] 例 いとけなき子の、なほ乳を吸ひつつ臥せたるなどもあり。[方丈] 訳 幼い子が、それでも（母の）乳房を吸いながら横になっているようなこともある。

幼い＝いはけなし（稚けなし）[形・ク]

治める＝しる（領る）[動・四] 例 入道殿の世をしらせたまはむことを、帝いみじうしぶらせたまひけり。[大鏡] 訳 入道殿（＝藤原道長）が天下をお治めになることを、（一条）天皇はたいそうお渋りになった。

治める＝まつりごつ（政ごつ）[動・四]

惜しい＝あたらし（惜し・可惜し）[形・シク] 例 若くして失せにし、いといとほしく、あたらしくなむ。[増鏡] 訳 若くして亡くなってしまったのは、実に気の毒で残念で。

おじいさん＝おきな（翁）[名]

お…する[補助動詞]＝きこゆ（聞こゆ）[動・下二]

お…する[補助動詞]＝つかうまつる（仕うまつる）[動・四]

お…する[補助動詞]＝まうす（申す）[動・四] 例 いづこなるくすしの取りまうしたるぞ。[宇治] 訳 どこの医者がお取りしたのか。

おそばに控えている＝さうらふ（候ふ）[動・四] 例 御前にうとからぬ近習者達あまたさうらはれけるに…[平家] 訳 御前にいつもお側近くに伺候する近臣たちが大勢お仕えしておられるところで

おそばに控えている＝はべり（侍り）[動・ラ変] 例 御前の方に向かひて、後ろざまに、「誰々か侍る」と問ふほどこそをかしけれ。[枕] 訳 御前のほうに向かっていて、後ろ向きに「誰々は控えているか」と尋ねるときは、興がある。

恐るべきだ（下に打消を伴う）＝こころにくし（心憎し）[形・ク] 例 その者こころにくからず。[平家] 訳 その者（＝木曽義仲）は恐れるには足りない。

おそれ多い＝おほけなし [形・ク]

畏れ多い＝かしこし（賢し・畏し）[形・ク] 例 勅なればいともかしこし…[大鏡] 訳 帝の御命令なので、まことに畏れ多いことです。

おそれ多い＝かたじけなし（辱し・添し）[形・ク]

おそれ多い＝ゆゆし [形・シク]

恐ろしい＝いみじ [形・シク]

恐ろしい＝おどろおどろし [形・シク]

恐ろしい＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］例 北山になむ、なにがし寺といふ所に、かしこき行ひ人はべる。［源氏］訳 北山で、何とか寺という所に、優れた修行者がおります。

恐ろしい＝すごし（凄し）［形・ク］

恐ろしい＝むくつけし［形・ク］例 棺の上にふしたる弟の心いとむくつけし。（今昔）訳 棺の上に横たわった弟の心は本当に恐ろしい。

恐ろしい＝むつかし（難し）［形・シク］

恐ろしいほどすばらしい＝すごし（凄し）＝［形・ク］

穏やかだ＝おとなし（大人し）［形・シク］

おちついた心＝しづごころ（静心）［名］

落ちつく＝ゐる（居る）［動・上一］

落ちぶれる＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］

お仕えする＝さうらふ（候ふ）［動・四］例 御前にうとからぬ近習者達あまたさうらはれけるに［平家］訳 御前にいつもお側近くに伺候する近臣たちが大勢お仕えしておられるところで

お仕えする＝さぶらふ（候ふ・侍ふ）［動・四］例 炭櫃に火おこして、物語などして集まりさぶらふに、［枕］訳 いろりに火をおこして、お話などして集まり（中宮のそばに）お仕えしていると、例 故宮にさぶらひし小舎人童なりけり。［和泉］訳 亡き親王にお仕えした小舎人童なのであった。

お仕えする＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］例 昔、二条の后につかうまつる男ありけり。［伊勢］訳 昔、二条の后にお仕えする男がいた。例 深草の帝になむつかうまつりける。［伊勢］訳 深草の帝にお仕えした。

お仕えする＝はべり（侍り）［動・ラ変］例 この太秦殿にはべりける女房の名ども、一人は、ひささち、一人は、ことつち、……とつけられけり。［徒然］訳 この太秦殿にお仕えしていた女房の名前は、一人は、ひささち、一人は、ことつち、……とおつけになった。

お仕えする＝まゐる（参る）［動・四］

お仕え申し上げる＝つかまつる（仕る）［動・四］

お仕え申し上げる＝はべり（侍り）［動・ラ変］

おっしゃる＝おほす（仰す）［動・下二］例「少納言よ、香炉峰の雪いかならん」と仰せらるれば、［枕］訳「少納言よ、香炉峰の雪はどんなだろう」と（中宮が）おっしゃるので、

おっしゃる＝のたまふ（宣ふ）［動・四］例「まことにかばかりのは見えざりつ」と言高くのたまへば、［枕］訳「ほんとうにこのようなものは見たことがない」と大声でおっしゃるので、例 入道殿、「かの大納言、いづれの船にか乗らるべき」とのたまはすれば、「和歌の船に乗りはべらむ」とのたまひて…［大鏡］訳 入道殿が、「そこの大納言はどの船にお乗りになるのだろうか」とおっしゃるので（大納言は）「和歌の船に乗りましょう」とおっしゃって

夫＝せ（背・兄）［名］

夫＝をとこ（男）［名］

（仏教の）**お勤め**＝おこなひ（行ひ）［名］

男が女のもとに行く＝かよふ（通ふ）［動・四］

男と女の仲＝よのなか（世の中）［名］

男の子＝をのこ（男）［名］

男の子＝をとこ（男）［名］

おとずれ＝たより（頼り・便り）［名］

訪れてとりつぎをたのむこと＝せうそこ（消息）［名］

訪れる＝とふ（問ふ・訪ふ）［動・四］例 道ふみ分けてとふ人はなし［古今］訳 道をふみ分けて訪れてくる人はいないが）おっしゃるので、

訪れる＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・

四］例 蟬丸の翁があとをとぶらひ…［方丈］訳 蟬丸の翁の旧跡を訪れ

（予想よりも）劣っていて、がっかりする＝こころおとりす（心劣りす）［動・サ変］

劣っている＝つたなし（拙し）［形・ク］

劣っている＝をぢなし（怯なし）［形・ク］

（予想よりも実際の方が）劣って感じられること＝こころおとり（心劣り）［名］

大人びている＝おとなし（大人し）［形・シク］例 十一になりたまへれど、ほどより大きに大人しう…［源氏］訳 十一歳におなりになったが、年齢よりは大きく、大人びていて

大人らしい＝おとなし（大人し）［形・シク］

お取り寄せになる＝めす（召す）［動・四］例 御硯急ぎ召して…［源氏］訳 御硯を急いでお取り寄せになって

おとろえる＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］

（体がやせ）衰える＝やつる［動・下二］

驚きあきれる＝あさむ（浅む）［動・四］

驚くばかりだ＝あさまし［形・シク］例 車のうち覆りたる。…ただ夢のここちして、あさましうあへなし。［枕］訳 牛車がひっくり返ったの。…（そんな大きいものが転覆するとは）もう現実ではない感じがして、驚きあきれ張り合いがない感じだ。

驚くほどすばらしい＝めざまし（目覚まし）［形・シク］

驚くほどだ＝あさまし［形・シク］

音をたてる＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

お嘆きになる＝おぼしなげく（思し嘆く）［連語］

お…なさる＝います（在す）［動・四／サ変］

お…なさる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］

お…なさる＝おはします［動・四］

お…なさる＝おはす［動・サ変］

お…なさる＝おぼす（思す）［動・四］

お（ご）…なさる＝たぶ（給ぶ・賜ぶ）［動・四］

お…なさる＝たまふ（給ふ）［動・四］例 人々は帰したまひて、惟光の朝臣と、のぞきたまへば、［源氏］訳（お供の）人々はお帰しになって、惟光の朝臣といっしょに、おのぞきになると、

同じでない＝ことなり（異なり・殊なり）［形動・ナリ］

同じところを行ったり来たりする＝いさよふ［動・四］

お…になる＝います（在す）［動・四／サ変］

お…になる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］

お…になる＝おはします［動・四］

お…になる＝おはす［動・サ変］

お…になる＝おぼす（思す）［動・四］

お…になる＝せたまふ（せ給ふ）［連語］例 御格子あげさせて、御簾高くあげたれば、笑はせたまふ。［枕］訳 御格子を上げさせて、御簾を高く上げたところ、（中宮様は）お笑いになる。

お…になる＝たうぶ（賜ぶ・給ぶ）［動・四］

お（ご）…になる＝たぶ（給ぶ・賜ぶ）［動・四］例「頭になしたびたれば、参りてはべるなり」［大鏡］訳「（帝が私を）蔵人の頭におさせになったので、（宮中に）参上しております。」

お…になる＝たまふ（給ふ・賜ふ）［動・四］例 玉の男皇子さへ生まれたまひぬ。［源氏］訳 玉のような皇子までがお生まれになった。例 人々は帰したまひて、惟光の朝臣と、のぞきたまへば、［源氏］訳（お供の）人々はお帰し

になって、惟光の朝臣といっしょに、おのぞきになると、

お乗せ申し上げる＝たてまつる（奉る）［動・四］

お飲みになる＝きこしめす（聞こし召す）［動・四］

お飲みになる＝たてまつる（奉る）［動・四］

お飲みになる＝まゐる（参る）［動・四］

お乗りになる＝たてまつる（奉る）［動・四］

お乗りになる＝まゐる（参る）［動・四］

お乗りになる＝めす（召す）［動・四］例 人々みな御舟に召す。［平家］訳 人々は皆、お舟にお乗りになる。

おばあさん＝おんな（嫗）［名］

お引き受けする＝うけたまはる（承る）［動・四］

お弾きになる＝あそばす（遊ばす）［動・四］

お参りする＝まうづ（詣づ）［動・下二］

お命じになる＝おほす（仰す）［動・下二］

お召しになる＝たてまつる（奉る）［動・四］例 御装束（おんさうぞく）をも、やつれたる狩の御（おん）衣（ぞ）を奉り、［源氏］訳 お着物も、そまつな狩用のお着物をお召しになり、

お召しになる＝まゐる（参る）［動・四］

お召しになる＝めす（召す）［動・四］例 御直衣（なほし）召して…［源氏］訳 御直衣をお召しになって

（病気が）**重い**＝あつし（篤し）［形・シク］

思いがけない＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］例 もの心細く、すずろなる目を見ることと思ふに、［伊勢］訳 何となく心細く、思いがけない目にあうことだと思っていると、

思いがけない＝ゆくりなし［形・ク］例 ゆくりもなく、いさよふ月にさそはれて出（い）でなむとぞ思ひなりぬる。［十六夜］訳 思いがけず、十六日の月（＝いざよう月）に誘われて旅に出ようと思うようになってしまった。

思いがけなく訪問する＝おどろかす（驚かす）［動・四］

思い慕う＝しのぶ（偲ぶ）［動・四／上二］例 栗食めばましてしのはゆ［万葉］訳 栗を食べると、なおさら（子どものことが）思い慕われる。

思い出される＝おぼゆ（覚ゆ）［動・下二］例 うちある調度も昔おぼえて…［徒然］訳 ちょっと置いてある道具も昔が思い出されて

思いなさる＝おぼす（思す）［動・四］

思い悩む＝まどふ（惑ふ）［動・四］

思い悩む＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］

思いやり＝あいぎゃう（愛敬）［名］例 ものうち言ひたる、聞きにくからず、愛敬ありて…［徒然］訳 ちょっとものを言ったのが、聞き苦しくなく、やさしい思いやりがあって

思いやり＝こころ（心）［名］

思いやりがある＝こころあり（心あり）［連語］

思いやりがある＝なつかし（懐かし）［形・シク］

思いやりがない＝こころなし（心無し）［形・ク］例 心なき雨にもあるか…［万葉］訳（恋人とを隔てる）思いやりのない雨だなあ

思いやりのない人＝つらき人［連語］

お（ご）…申しあげる＝きこえさす（聞こえさす）［動・下二］例 楽府（がふ）という書二巻をぞ、しどけなながら、教へたてきこえさせてはべる［紫日記］訳 楽府（＝漢詩の一種）という書物二巻を、たどたどしいながらも、お教え申しあげております。

お…申し上げる［補助動詞］＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］例 竹の中より見付

けきこえたりしかど…［竹取］訳 竹の中からお見付け出し申し上げたけれど

お…申し上げる＝たてまつる（奉る）［動・四］例 かぐや姫を養ひたてまつること…［竹取］訳 かぐや姫をお養い申し上げることが

お…申しあげる＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］

お…申しあげる＝まうす（申す）［動・四］

お…申し上げる＝まゐらす（参らす）［動・下二］例 極楽浄土とてめでたきところへ具し参らせさぶらふぞ。［平家］訳 極楽浄土といって結構な所へお連れ申し上げますよ。

面影＝かげ（影・陰）［名］例 かげに見えつつ忘らえぬかも［万葉］訳 面影としてちらついて忘れられないことだ。

おもしろい＝をかし［形・シク］

おもしろくない＝あいなし［形・ク］例 人の、我が方にありつること、数々に残りなく語り続くるこそあいなけれ。［徒然］訳 人が、自分のほうにあったことを、いちいち残りなく語り続けるのはおもしろくない。

おもしろくない＝すさまじ（凄じ）［形・シク］

おもしろみがない＝あいなし［形・ク］訳 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆虚言（そらごと）なり。［徒然］訳 世の中に語り伝えられていることは、真実はつまらないのだろうか、たいていはみなうそだ。

主だっている＝おとなし（大人し）［形・シク］例 おとなしく物知りぬべき神官を呼んで［徒然］訳 主だった感じで物を知っているにちがいない神官を呼んで

おもだっている＝むねむねし（宗々し）［形・シク］

表立っている＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］

表向きに＝わざと（態と）［副］

趣＝けしき（気色）［名］

おもむき＝こころ（心）［名］

趣がある＝あはれなり［形動・ナリ］

趣がある＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

趣がある＝ゆゑゆゑし（故々し）［形・シク］例 扇、笏（さく）に取りて具したるさま、いとゆゑゆゑし［宇津保］訳 扇や笏を持って従っている様子は趣がある。

趣がある＝をかし［形・シク］訳 また、ただひとつふたつなど、ほのかにうちひかりてゆくもをかし。［枕］訳 また、（蛍が）たった一匹か二匹ばかり、かすかに光りながら飛んで行くのも趣がある。

趣がわからない＝こころなし（心無し）［形・ク］

趣がわかる＝こころあり（心あり）［連語］

趣深い＝おもしろし［形・ク］例 その沢に、かきつばたいとおもしろく咲きたり。［伊勢］訳 その沢に、かきつばたがとても趣深く咲いている。

例 春霞おもしろく、空ものどやかにかすみ…［更級］訳 春霞が趣深く、空ものどやかにかすんで

思わせぶりな様子だ＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

思われる＝おぼゆ（覚ゆ）［動・下二］例 われかしこに思ひたる人、憎くもいとほしくもおぼえはべるわざなり。［紫日記］訳 自分がかしこいと思っている人は、憎くも気の毒にも思われますことです。例 この木なからましかばと覚えしか。［徒然］訳 この木がなければ（よかったのに）と思われた。

（…と）思われる＝みゆ（見ゆ）［動・下二］〈「…とみゆ」の形で使う〉

親＝ほだし（絆）［名］

おやすみになる＝おほとのごもる（大殿籠る）［動・四］例 親王、大殿籠らで、明かし給ひてけり。［伊勢］訳 親王は、おやすみにならないで、夜をお明かしになってしまった。例 いまさらになる大殿籠りおはしましそ。［枕］訳 いまさら、おやすみなさいますな。

お遣りになる＝つかはす（遣はす）［動・四］

お呼びになる＝めす（召す）［動・四］例 御随身召して、遣水払はせたまふ。［紫日記］訳 警護役をお呼びになって遣水を手入れさせなさる。

お詠みになる＝あそばす（遊ばす）［動・四］

折＝かぎり（限り）［名］例 巡り会はむかぎりはいつと知らねども［新古今］訳 巡り会うような折がいつとはわからないけれども

折＝ついで（序）［名］

おります＝さぶらふ（候ふ・侍ふ）［動・四］

おります＝はべり（侍り）［動・ラ変］例 「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ちはべらず」と答へしかば［徒然］訳 「お子さんはいらっしゃるか」と尋ねたのに対して、「一人も持っていません」と答えたところ、

折目正しい＝うるはし（麗し・愛し・美し）［形・シク］

お礼をのべる＝かしこまる（畏まる）［動・四］

おろかだ＝かたくななり（頑なり）［形動・ナリ］

愚かだ＝つたなし（拙し）［形・ク］例 つたなき身にて、高き位をもちゐるべからず。［宇津保］訳 愚かな身でありながら、高い位を保持しているのはよくない。

おろかだ＝をぢなし（怯なし）［形・ク］

愚かなさまだ＝をこがまし（痴がまし）［形・シク］

愚かに見える＝をこがまし［形・シク］

おろそかだ＝おろかなり（疎かなり）［形動・ナリ］例 「帝の御使ひをば、いかでおろかにせむ」［竹取］訳 「天皇の御使者を、どうしておろそかにできようか、いやできないだろう」例 わづかに二本の矢、師の前にておろかにせんと思はんや。［徒然］訳 たった二本の矢、（しかも）師の前でその一本をおろそかにしようと思うだろうか。いや思うはずがない。

おろそかだ＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］

おわかりになる＝おぼしし る（思し知る）［連語］

終わってそのままになる＝やむ（止む）［動・四］

終わりにする＝やむ（止む・已む）［動・下二］

終わりになる＝はつ（果つ）［動・下二］

終わる＝はつ（果つ）［動・下二］例 物を聞きはてで、笑ふやうやはある。［十訓］訳 物を聞きおわらずに、あざ笑うということがあろうか、いや、それではだめだ。

終わる＝やむ（止む・已む）［動・四］

音楽などの才能＝ざえ（才）［名］

音楽などを奏して、詩歌をつくって楽しむこと＝あそび（遊び）［名］

音楽の催し＝あそび（遊び）［名］例 月のおもしろきに、夜ふくるまで遊びをぞしたまふなる。［源氏］訳 月が趣深いので、夜がふけるまで音楽の催しをなさっているようだ。

音信＝たより（頼り・便り）［名］

（一人前の）女＝をんな（女）［名］

か

…があればいいなあ＝もがな［助］例 世の中にさらぬ別れのなくもがな千代もと嘆く人の子のため［古今］訳 この世の中に死別というものがなければいいがなあ。（親に）千年も（生きてほしい）と願う子ども（＝私）のために。

かいがない＝あぢきなし（味気無し）［形・ク］

かいがない＝あやなし（文無し）［形・ク］

外国＝から（韓・唐）［名］

外出する＝ありく（歩く）［動・四］

外敵＝あた（仇・敵）［名］

（仏の）戒律（＝守ルベキ規律）**を受ける**＝いむ（斎む）［動・四］

概略＝あらまし［名］

害を与えるもの＝あた（仇・敵）［名］

かえって＝なかなか（中々）［副］例 なかなかいも寝られず。これは夢かとのみ覚ゆ。［成尋阿闍梨母集］訳（わが子にちらっと会ったがために）かえって寝られない。これは夢かとばかり思われる。例 ひたぶるの世捨て人は、なかなかあらまほしきかたもありなん。［徒然］訳 いちずに俗世間を捨てた人は、かえって望ましい面もあるだろう。

顔色＝けしき（気色）［名］

顔色に表す＝けしきばむ（気色ばむ）［動・四］

顔かたち＝かたち（形・貌）［名］

顔だち＝かたち（形・容貌）［名］例 盛りにならば、かたちも限りなくよく、髪もいみじく長くなりなむ。［更級］訳 年ごろになれば、顔だちもこの上なく美しく、髪もきっとすばらしく長くなるだろう。

かおる＝にほふ（匂ふ）［動・四］

（色美しく）輝く＝にほふ（匂ふ）［動・四］例 いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな［詞花］訳 昔栄えていた奈良の都に美しく咲いていた八重桜が、今日は宮中で色美しく輝いて咲いたことよ。

書き記す＝したたむ（認む）［動・下二］

書きぶり＝みづくき（水茎）［名］

書く＝ものす（物す）［動・サ変］

家具＝てうど（調度）［名］

学才＝ざえ（才）［名］例 ありがたきざえなり。年のわかきほどに試みむ。［宇津保］訳 めったにない学才だ。年が若いから試してみよう。

学習する＝ならふ（習ふ）［動・四］

かくす＝しのぶ（忍ぶ）［動・上二／四］

格別意に留めないようすだ＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］例 なほざりにても、ほのかに見奉り通ひたまひし所どころ…［源氏］訳 格別意にとめるわけではなくても、わずかでもお逢いしてお通いになったあちこちの女性の中には

格別すばらしい＝めざまし［形・シク］

格別だ＝おぼろけなり（朧けなり）［形動・ナリ］例 おぼろけの願によりてにやあらむ、風も吹かず。［土佐］訳 格別な祈願のおかげであろうか、風も吹かない。

格別だ＝ことなり（異なり・殊なり）［形動・ナリ］例 人よりはことなりしけはひかたちの…［源氏］訳 人よりは格別すぐれていたものごしや顔だちが

格別だ＝こよなし［形・ク］例 髪のうつくしげにそがれたる末も、なかなか長きよりもこよなう今めかしきものかな、［源氏］訳 髪がかわいらしく切られている端も、かえって長いのよりも格別に現代的だなあ、

格別だ＝なのめならず［連語］

格別だ＝やむごとなし［形・ク］
格別だ＝わりなし（理無し）［形・ク］
学問＝ざえ（才）［名］例 かたち、心ざまよき人も、ざえなくなりぬれば、品くだり、［徒然］訳 顔だちや、気だての優れた人でも、学問がないと、人品も劣り、
学問＝ふみ（文・書）［名］
学問的な才能＝ざえ（才）［名］
影がない＝くまなし（隈なし）［形・ク］
かげりがない＝くまなし（隈無し）［形・ク］例 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。［徒然］訳 桜は花盛りに、月はかげりがないのだけを見るものか、いや、そうではない。
苛酷である＝あやにくなり［形動・ナリ］
かこつける＝かこつ（託つ）［動・四］例 かこつべき故を知らねばおぼつかないかなる草のゆかりなるらむ［源氏］訳（自分を武蔵野の草に）かこつける理由を知らないので何のことかわかりません。どんな草のゆかりなのでしょう。例 嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なるわが涙かな［千載］訳 月が嘆けと言って物思いをさせるわけはないが、それでも悲しいのはあの月のせいさ、というかこつけがましい感じで流れる私の涙よ。
重ねて＝さらに…（ず）（更に）［副］
賢い＝うるせし［形・ク］例「いかにもうるせきものなり。世にあらむずるものなり」［十訓］訳「まったく賢い者である。将来ものの役に立つ者である」
賢い＝さかし（賢し）［形・シク］
賢い＝よし（良し・善し）［形・ク］
過失＝おこたり（怠り）［名］
過失＝とが（科・咎）［名］
過失をおかす＝おこたる（怠る）［動・四］
過失をわびること＝おこたり（怠り）［名］
かしらだっている＝おとなし（大人し）［形・シク］
数多く＝あまた（数多）［副］
数がとても多い＝ところせし（所狭し）［形・ク］
数に入れる＝かずまふ（数まふ）［動・下二］例 上の同じ御子たちの中に数まへきこえたまひしかば…［源氏］訳 帝が（こちらの姫君を）同じ自分の御子たちの数のにお入れ申しあげなさったので
（声が）**かすれる**＝かる（枯る）［動・下二］
方違えをする＝たがふ（違ふ）［動・下二］
形＝かげ（影）［名］
かたち＝かた（形）［名］
（ほんの）**形だけ**＝けしきばかり［連語］
片付ける＝したたむ（認む）［動・下二］例 行く末難なくしたためまうけて…［徒然］訳 先々問題がないようにきちんと片付けておいて
固まり生じる＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］
固まる＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］
価値＝しるし（験）［名］
価値がない＝いふかひなし（言ふ効無し・言ふ甲斐無し）［形・ク］
（予想よりも劣っていて）**がっかりする**＝こころおとりす（心劣りす）［動・サ変］
がっかりする＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
がっかりだ＝くちをし（口惜し）［形・シク］
かっこうをつける＝けしきばむ（気色ばむ）［動・四］
（一般に）**家庭で暮らすこと**＝さとずみ（里住み）［名］
悲しい＝あはれなり［形動・ナリ］

悲しい＝かなし（愛し・悲し）［形・シク］例 あはれにかなしき事なりな。［大鏡］訳 しみじみとかなしい事であるよ。

悲しみを訴える＝うれふ（愁ふ・訴ふ）［動・下二］

悲しむ＝うれふ（憂ふ）［動・下二］

必ず（下に意志・命令などの表現を伴う）＝かまへて…（な）（構へて）［副］

必ずしも＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

必ず…よう＝つべし［連語］〈「べし」が意志の場合〉

必ず…よう＝ぬべし［連語］例 今いととく、まかでぬべし。［蜻蛉］訳 今すぐ、必ず退出してしまおう。

かなりよい＝よろし（宜し）［形・シク］

かねてからの望み＝ほい（本意）［名］

かねてからの目的＝ほい（本意）［名］

…が…ので＝を…み［慣用句］例 瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞ思ふ［詞花］訳 川瀬の流れが速いので、岩にせきとめられる急流のように別れても後には必ず一緒になろうと思う。

かぶせる＝かづく（被く）［動・下二］

かぶる＝かづく（被く）［動・四］

がまんする＝しのぶ（忍ぶ）［動・四／上二］例 ながらへば忍ぶることの弱りもぞする［新古今］訳 生き長らえていると耐えているその心が弱って思いが外に出ると困る。

がまんする＝たふ（耐ふ・堪ふ）［動・下二］

がまんする＝ねんず（念ず）［動・サ変］例 ただ一人、ねぶたきを念じてさぶらふに、丑四つと奏すなり。［枕］訳 ただ一人、眠たいのをがまんしてひかえていると丑四つ（午前三時頃）と申し上げているようだ。例 いま一声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、［宇治］訳 もう一度呼ばれてから返事をしようと、我慢して寝ているうちに、

がまんできない＝せむかたなし（為む方無し）［連語］

髪を切って出家する＝みぐしおろす（御髪下ろす）［慣用句］例 思ひのほかに、御髪おろしたまうてけり。［伊勢］訳 思いがけなく（惟喬の親王は）御髪をおろし出家なさってしまった。

…かもしれない＝もこそ［連語］例 末の世に清くさかゆることもこそあれ［平家］訳 末が栄えるような事があるかもしれない。

からかみ＝さうじ（障子）［名］

からだがやせ衰える＝やつる（窶る）［動・下二］

（病気で）体が弱る＝こうず（困ず）［動・サ変］

狩り＝あそび（遊び）［名］

仮に＝あからさまなり［形動・ナリ］

軽はずみだ＝ゆくりなし［形・ク］

かれんだ＝らうたし［形・ク］

かわいい＝あはれなり［形動・ナリ］例 あはれなる人をみつるかな。［源氏］訳 かわいい人を見たことだなあ。

かわいい＝いとほし［形・シク］

かわいい＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］例 なにもなにも、小さきものはみなうつくし。［枕草子］訳 なにもかも、小さいものはみんなかわいらしい。

かわいい＝うるはし（麗し・愛し・美し）［形・シク］

かわいい＝かなし（愛し）［形・シク］

かわいい＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］

かわいい＝めづらし［形・シク］例 難波人葦火焚く屋の煤してあれど己が妻こそ常めづらしき［万葉］訳 難波人が葦

で火をたく家のようにすすけてはいるが、私の妻はいつもかわいい。

かわいい＝らうたし［形・ク］例「これがいとらうたく舞ひつること、語りになむものしつる」［蜻蛉］訳「この子が実にかわいらしく舞ったことを、言いにやって来たよ」

かわいい＝をかし［形・シク］

かわいがられる＝ときめく（時めく）［動・四］

（天皇が后などを）**かわいがる**＝ときめかす（時めかす）［動・四］

かわいがる＝めづ（愛づ・賞づ）［動・下二］例 蝶めづる姫君の住みたまふ傍らに…［堤中］訳 蝶をかわいがる姫君がお住まいになる（家の）そばで

かわいげがない＝あいなし（愛なし）［形・ク］

かわいそうだ＝あはれなり［形動・ナリ］

かわいそうだ＝いたし（痛し）［形・ク］

かわいそうだ＝いとほし［形・シク］

かわいそうだ＝びんなし（便無し）［形・ク］

かわいそうだ＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］

（小さい形に対し）**かわいらしい**＝うつくし（美し）［形・シク］

かわいらしい＝らうたし［形・ク］例 よろづの嘆き忘れて、少しうちとけてゆく気色、いとらうたし。［源氏］訳 さまざまの嘆きを忘れて、少し気を許していく様子が、まことにかわいらしい。

かわいらしさ＝あいぎゃう（愛敬）［名］

かわく＝ひる（干る・乾る）［動・上二］例 村雨の露もまだひぬ槇の葉に霧立ちのぼる秋の夕暮れ［新古今］訳 にわか雨の露もまだかわかない樹木の葉の辺りに霧が立ちのぼる秋の夕暮れよ。例 漕ぎ上るに、川の水ひて悩み煩ふ。［土佐］訳 船で漕ぎ上るのに、川の水がひいて、（少なくなって）四苦八苦する。

（普通と）**変わっていて異様だ**＝けし（怪し・異し）［形・シク］

（花の色が）**変わる**＝うつろふ（移ろふ）［動・四］例 色見えで移ろふものは世の中の人の心の花にぞありける［古今］訳（あせていく）色が目に見えないで変わるものは、世間の人の心という花であったのだなあ。

（人の心が）**変わる**＝うつろふ（移ろふ）［動・四］例 色見えで移ろふものは世の中の人の心の花にぞありける［古今］訳（あせていく）色が目に見えないで変わるものは、世間の人の心という花であったのだなあ。

かわるがわる＝かたみに（互に）［副］

官位＝つかさ（司）［名］

考え＝けしき（気色）［名］

考え＝こころ（心）［名］

考え定める＝おきつ（掟つ）［動・下二］例 万に見ざらん世までも思ひおきてんこそ、はかなかるべけれ。［徒然］訳 何事につけ、見ることもないような（死後の）世のことまで考え定めるとしたら、それは頼りにならないことにちがいない。

考えもない＝こころなし（心無し）［形・ク］

考えるまでもない＝さうなし（左右なし）［形・ク］

漢字＝ざえ（才）［名］

関係がない＝よしなし（由無し）［形・ク］例 よしなく過ぐる人とどめけり［山家集］訳 関係なく行き過ぎる人をとどめたことよ

関係する＝いろふ（綺ふ）［動・四］

管弦の催し＝あそび（遊び）［名］例 月のおもしろきに、夜更くるまで遊びを

ぞしたまふなる。[源氏] 訳 月が趣深い夜に、夜が更けるまで管弦の催しをなさるようだ。

管弦を楽しむこと＝あそび（遊び）[名]

頑固だ＝かたくなり（頑なり）[形動・ナリ]

漢詩＝さくもん（作文）[名] 例「作文のにぞ乗るべかりける」[大鏡] 訳「漢詩の（舟）に乗ればよかったなあ」

漢詩＝ふみ（文・書）[名] 例 長恨歌といふ文を [更級] 訳「長恨歌」という漢詩を 例 限りなきものにて、文にも作る。[枕] 訳 この上なくすばらしいものとして、漢詩にも作る。

感じ＝けはひ [名]

漢字＝ふみ（文）[名]

漢字＝まな（真名・真字）[名]

感じがよい＝めやすし（目安し）[形・ク]

官職＝つかさ（司）[名]

感じられる＝おぼゆ（覚ゆ）[動・下二]

感じられる＝みゆ（見ゆ）[動・下二]

感じる＝おぼゆ（覚ゆ）[動・下二]

漢詩和歌の道＝ふうが（風雅）[名]

漢詩を作ること＝さくもん（作文）[名]

感心しない＝くちをし（口惜し）[形・シク] 例 それより下つ方は、ほどにつけつつ、時にあひ、したり顔なるも、みづからはいみじと思ふらめど、いとくちをし。[徒然] 訳 それより下の者は、家格に応じて出世し、得意顔にふるまう人も、自分ではたいしたものだと思っているようだが、（他から見ると）ちっとも感心しない。

感心しない＝けしからず（怪しからず）[連語] 例 けしからぬ主の心ぎはかな。[宇治] 訳 感心しない、お前の心構えだなあ。

感心できない＝けしからず [連語]

完全だ＝またし（全し）[形・ク]

完全だ＝まほなり（真面なり）[形動・ナリ]

完全に＝たえて（…ず）（絶えて）[副]

簡素だ＝おろそかなり（疎かなり）[形動・ナリ] 例「おほやけの奉り物は、おろそかなるをもってよしとす」とこそはべれ。[徒然] 訳「天皇のお召し物は、簡素なものをよいとする」と書いてあります。

感嘆する＝めづ（愛づ・賞づ）[動・下二]

関白＝いちのひと（一の人）[名]

漢文＝ふみ（文・書）[名]

（物事やことばを）**簡略にする**＝ことそぐ（事削ぐ）[動・四]

き

消える＝うす（失す）[動・下二] 例 白山にあへば光のうするかと… [竹取] 訳 白山（＝かぐや姫）に出会ったから光も失せるのかと

記憶＝おぼえ（覚え）[名]

機会＝かぎり（限り）[名]

機会＝たより（便り・頼り）[名]

機会＝ついで（序）[名] 例 はかなきついで作り出で… [源氏] 訳 ちょっとした機会を作り出し

気がかりがない＝うしろやすし（後ろ安し）[形・ク]

気がかりだ＝いぶせし [形・ク]

気がかりだ＝うしろめたし（後ろめたし）[形・ク] 例「いとはかなうものしたまふこそ、あはれにうしろめたけれ」[源氏] 訳「たいそう子供っぽくていらっしゃることが、気の毒だし気がかりだ」 例 後の世も、思ふにかなはずぞあらむかしとぞ後ろめたきに… [更級] 訳 後の世も、望みどおりにはいかないであろうよと、気がかりだけ

れど

気がかりだ＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］

気がかりである＝おぼつかなし（覚束無し）［形・ク］

気がきく＝うるせし［形・ク］

気がくじける＝うんず（倦んず）［動・サ変］

気が進まない＝うし（憂し）［形・ク］

気が疲れる＝なやまし［形・シク］

気がつく＝おどろく（驚く）［動・四］例「こちや」とのたまへど、おどろかず。［源氏］訳「こっちだ」とおっしゃるけれども、気がつかない。

気が強い＝さかし（賢し）［形・シク］

気がとがめる＝うしろめたし（後ろめたし）［形・ク］

気がねする＝つつまし（慎まし）［形・シク］

気が晴れない＝いぶせし［形・ク］例「一、二日たまさかに隔つるをりだに、あやしういぶせき心地するものを」［源氏］訳「一日二日たまたま（あなたと）離れている時でも、不思議なほど気が晴れない思いがするのに

気がはれない＝むつかし（難し）［形・シク］

気が晴れる＝こころゆく（心ゆく）［動・四］

気がひける＝つつまし（慎まし）［形・シク］

気がひける＝つつむ（慎む）［動・四］

気がひける＝はづかし（恥づかし）［形・シク］

気がふさいでいる＝いぶせし（鬱悒し）［形・ク］例 雨の日に山辺にをればいぶせかりけり［万葉］訳 雨の降る日に山辺にいると気がふせぐことだ。

気が変になりそうだ＝ものぐるほし（物狂ほし）［形・シク］

気軽だ＝こころやすし（心安し）［形・ク］

聞き苦しい＝かたはらいたし（傍ら痛し）［形・ク］例 殊によしとも覚えぬわが歌を人に語りて、人のほめなどしたる由言ふも、かたはらいたし。［枕］訳 とくに良いとも思われない自分の歌をほかの人に話したところ、人々がほめたりなどしたということを言うのも、聞き苦しい。

聞きたい＝ゆかし（床し）［形・シク］

効き目＝しるし（験・徴）［名］例 よろづにまじなひ・加持などまるらせたまへど、しるしなくて、［源氏］訳 いろいろとまじないや祈禱などをおさせになるが、効き目がなくて、

技芸＝ざえ（才）［名］例 琴ひかせたまふことなむ、一の才にて…［源氏］訳 琴をおひきになることが、第一の技芸であって

危険だ＝さがし（険し・嶮し）［形・シク］

機嫌＝けしき（気色）［名］

きげんを悪くする＝むつかる（憤る）［動・四］

聞こえる＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］

貴人の家などに仕えている侍女＝にょうばう（女房）［名］

貴人の正妻の敬称＝きたのかた（北の方）［名］

貴人のそばにお仕え申し上げる＝さぶらふ（候ふ）［動・四］

貴人の近くでお仕え申し上げる＝はべり（侍り）［動・ラ変］

貴人の邸宅またはその一部の敬称＝おとど（大殿）［名］例 おとどの造りざま、しつらひざま、さらにもいはず、［源氏］訳 邸宅の造り方や、飾りつけの様子は、言うまでもなく（すばらしく）、

貴人をさす＝きみ（君）［名］

（刀などによる）**傷**＝て（手）［名］例

散々に戦ひて、各々手負うて引き退く。[保元] 訳 激しく戦って、それぞれ傷を負って引き下がる。

規則＝おきて（掟）[名]

（男女にかかわらず上流）**貴族の子弟**＝きんだち（君達・公達）

期待がもてる＝たのもし（頼もし）[形・シク]

期待させる＝たのむ（頼む）[動・下二]

期待する＝あります [動・四]

期待する＝たのむ（頼む）[動・四]

北の方＝うへ（上）[名]

貴重だ＝やむごとなし [形・ク]

貴重である＝やむごとなし [形・ク]

きちんとしている＝うるはし（麗し・美し・愛し）[形・シク] 例（酒を）飲ませれば、うるはしき人もたちまちに狂人となる。[徒然] 訳（酒を）飲ませると、（ふだん）きちんとしている人もたちまち狂人となる。

きっかけ＝ひま（隙・暇）[名]

気づく＝おどろく（驚く）[動・四]

きっと（下に意志・命令などの表現を伴う）＝かまへて…（な）（構へて）[副]

きっと…ただろうに＝なまし [連語]

きっと…だろう＝てむ [連語] 例 鬼などもわれをば見ゆるしてむ。[源氏] 訳 鬼なども私をきっと許してくれるだろう。

きっと…だろう＝なむ [強意の助動詞「ぬ」の未然形「な」＋推量の助動詞「む」] 例 髪もいみじく長くなりなむ。[更級] 訳 きっと髪もたいそう長くなるだろう。

きっと…（で）ある＝もこそ [連語] 例 夜泣きすとただもりたてよ末の代に清く盛ふることもこそあれ [平家] 訳 夜泣きをしても、忠盛よ、ただひたすらお守りをして養育してくれ。後になって清く盛えることもきっとあるぞ（ということで清盛と名づけられた）。

きっと…できる＝ぬべし [連語] 例 今の世の有様、昔になぞらへて知りぬべし。[方丈] 訳 今の世の様子は、昔になぞらえてきっと知ることができる。

きっと…（てしまう）にちがいない＝つべし [連語] 例 妻子のためには、恥を忘れ、盗みもしつべきことなり。[徒然] 訳 妻子のためには、恥も忘れ、きっと盗みもしてしまうにちがいないほどである。

きっと…（てしまう）にちがいない＝ぬべし [連語] 例 潮満ちぬ。風も吹きぬべし。[土佐] 訳 潮が満ちてきた。風もきっと吹くにちがいない。

気づまりだ＝いぶせし（鬱悒し）[形・ク]

気づまりだ＝ところせし（所狭し）[形・ク]

気づまりだ＝はづかし（恥づかし）[形・シク] 例 若君、父の殿をうとく、はづかしと思したり。[とりかへ] 訳 若君は、父君のことを親しみがなく、気づまりでけむったいとお思いになっている。

機転がきく＝かどかどし（才々し）[形・シク]

機転がきく＝らうらうじ（労々じ）[形・シク]

きどる＝けしきだつ（気色だつ）[動・四]

きどる＝けしきばむ（気色ばむ）[動・四]

畿内（＝京都に近い五カ国）**の一つ**＝やまと（大和）[名]

気に入らない＝うし（憂し）[形・ク]

気に入らない＝にくし（憎し）[形・ク] 例 にくきもの…ねぶたしと思ひて臥したるに、蚊の細声にわびしげに名のりて、顔のほどに飛びありく。[枕] 訳 気に入らないもの…眠たいと思って横

になった時、蚊が細い声で寂しそうに声をたてて、顔のあたりを飛びまわるの。例 はへこそにくきもののうちに入れつべく愛敬なきものはあれ。[枕] 訳 蠅は気にくわないものの中に入れたいほどのもので、かわいげのないものだ。

気に入らない＝もどかし [形・シク]

気にくわない＝あいなし [形・ク]

気にくわない＝うたてし [形・ク] 例 こちたく酔ひののしりて、うたてくらうがはしきこともさしまじるべし。[栄花] 訳 度を越して酔い騒いで、いやな感じで騒々しいことも、中にはあるにちがいない。

気にくわない＝こころづきなし（心付き無し）[形・ク] 例 かかるわざをして、さいなまるるこそ心づきなけれ。[源氏] 訳 このようないたずらをして叱られるのは気にくわないことだ。例 こころづきなきことあらん折は、なかなかその由をも言ひてん。[徒然] 訳 気にくわないことがあるような時は、かえってその理由を言ってしまうのがよい。

気にくわない＝めざまし（目覚まし）[形・シク]

気にとめて見る＝みいる（見入る）[動・下二]

気になる＝いぶかし（訝し・審し）[形・シク] 例 相見ずて日長くなりぬこのころはいかに幸くやいふかし吾妹 [万葉] 訳 会わないでずいぶん日がたってしまった。このごろは幸せでいるかどうか、気になるなあ。私の愛する女よ。

気になる＝こころぐるし（心苦し）[形・シク]

昨日＝きぞ（昨）[名]

技能＝ざえ（才）[名]

気の毒だ＝あはれなり [形動・ナリ]

気の毒だ＝いたし（甚し・痛し）[形・ク]

気の毒だ＝いたはし [形・シク]

気の毒だ＝いとほし [形・シク] 例 翁を、いとほしく、かなしと思しつることも失せぬ。[竹取] 訳 おじいさんを、気の毒に、いとしいとお思いになっていた気持ちもなくなった。

気の毒だ＝かたはらいたし（傍ら痛し）[形・ク]

気の毒だ＝こころぐるし（心苦し）[形・シク]

気の毒だ＝びんなし（便なし）[形・ク]

気の毒だ＝ふびんなり（不便なり）[形動・ナリ] 例 それを罪なはんこと不便のわざなり。[徒然] 訳 それを罰することは、気の毒なことである。

気の向くままに行う＝すさぶ（荒ぶ）[動・上二／四]

気の向くままに興じる＝すさぶ（荒ぶ）[動・上二／四]

気恥ずかしい＝かたはらいたし（傍ら痛し）[形・ク]

機敏だ＝とし（敏し）[形・ク]

気分＝けはひ [名]

気分が悪い＝なやまし [形・シク]

きまりがつく＝やむ（止む）[動・四]

きまりがわるい＝はしたなし（端なし）[形・ク] 例 はしたなきもの、異人を呼ぶに、われぞとさし出でたる。[枕] 訳 ばつの悪いもの、他人を呼んだ時に、自分かと思って出ていくこと。

きまりがわるい＝はづかし（恥づかし）[形・シク]

きまりが悪い＝まばゆし（眩し・目映し）[形・ク] 例 髪の筋なども、なかなか昼よりも顕証にみえてまばゆけれど、[枕] 訳（私の）髪の毛筋なども、かえって昼間よりもあらわに見えてきまりが悪いけれど、

きまりが悪い＝やさし（優し・羞し）［形・シク］

きまり悪い＝かたはらいたし（傍ら痛し）［形・ク］例 御前にて申すは、かたはらいたきことにはさうらへど…［今昔］訳 御前で申し上げるのは、きまり悪いことではございますけれども

気味が悪い＝うとまし（疎まし）［形・シク］

気味が悪い＝おどろおどろし［形・シク］例 夜の声はおどろおどろし、あなかま。［源氏］訳 夜の声は気味が悪い。しーっ、静かに。

気味が悪い＝すごし（凄し）［形・ク］

気味が悪い＝むくつけし［形・ク］例 昔物語などにこそかかることは聞けど、いとめづらかにむくつけけれど、［源氏］訳 昔の物語などではこのようなことを聞くけれど、まったくめったにないことで気味が悪いが、例 姫君の顔を見れば、いとむくつけくなりぬ。［堤中］訳（真っ黒になった）姫君の顔を見ると、なんとも気味悪くなった。

気味がわるい＝むつかし（難し）［形・シク］

気味悪い＝むつかし（難し）［形・シク］例 虫の付きたるもむつかし。［徒然］訳 毛虫が付いているのも気味が悪い。

気味悪く＝うたて［副］例 物におそはる心地して、おどろきたまへれば、火も消えにけり。うたて思さるれば、太刀引き抜きて、［源氏］訳 物の怪に襲われる気持ちがして、眼をお覚ましになると、あかりも消えてしまっていた。気味悪くお思いになったので、太刀を引き抜いて、

きめる＝おきつ（掟つ）［動・下二］

気持ち＝こころ（心）［名］

気持ちがすぐれない＝なやまし［形・シク］

気持ちの向くままに事をする＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］

気持ちを顔色に表す＝けしきばむ（気色ばむ）［動・四］

着物をお召しになる＝まゐる（参る）［動・四］

客＝まらうと・まらうど（客人・賓）［名］例 にくきもの。…急ぐことあるをりに来てながごとするまらうと。［枕］訳 憎らしいもの。…急ぐ用事のあるときにやって来て、長話をする客。

客人を通す部屋＝まらうとゐ［名］例 例のまらうとゐの方におはする…［源氏］訳 いつもの客間の方にいらっしゃる

窮屈だ＝ところせし（所狭し）［形・ク］例 かかる歩きも慣らひ給はず、ところせき御身にて、めづらしう思されけり。［源氏］訳 このような山歩きも慣れておられず、窮屈なご身分であって、（山歩きを）新鮮にお思いになった。

急だ＝あからさまなり［形動・ナリ］例 草の中よりあからさまにいでて…［書紀］訳 草の中から急に出てきて

例 をかしげなるちごの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむ程に、掻いつきて寝たる…［枕］訳 かわいらしい幼児が、ちょっと抱いて遊ばせたりあやしたりするうちに、抱きついて寝たのは

急だ＝とみなり（頓なり）［形動・ナリ］

宮中＝うち（内・内裏）［名］例 なほいかでこの中の姫君をうちに参らせむ［栄花］訳 やはり何とかしてこの二番目の姫君を宮中に参内させたい。例 またの年の八月に、内へ入らせたまふに…［更級］訳 翌年の八月に、宮中にお入りになるときに

宮中＝おほやけ（公）［名］

宮中＝くもゐ（雲居）［名］

宮中で一室を与えられている高位の女官

＝にょうばう（女房）［名］

宮中や貴族の邸内にある女官、宮人などの部屋＝ざうし（曹司）［名］

急である＝とみなり（頓なり）［形動・ナリ］例「あからさまにものしたまへ。とみなること」とあれば［宇津保］訳「ちょっとおいでください。急なことが」とあるので

類例 とみの事とて御ふみあり。［伊勢］至急の事といってお手紙が届く。

宮殿＝おほやけ（公）［名］

宮殿の中の区切ってある室＝つぼね（局）［名］

旧都＝ふるさと（古里・故郷）［名］

急に＝あからさまなり［形動・ナリ］

急用＝いそぎ（急ぎ）［名］例 今日はその事をなさんと思へど、あらぬいそぎまづ出で来てまぎれ暮らし…［徒然］訳 今日はこれこれの事をしようと思うのに、思いもかけない急用が先に起こってきて、まぎれ暮らし

響応＝まうけ（設け）［名］

仰々しい＝おどろおどろし［形・シク］

仰々しい＝こちたし（言痛し・事痛し）［形・ク］例 鶴はいとこちたきさまなれど、鳴く声雲居まで聞こゆる、いとめでたし。［枕］訳 鶴はとてもぎょうぎょうしい姿であるが、鳴き声が空高くまで響くのは、とてもすばらしい。

仰々しい＝ことごとし（事々し）［形・シク］例 夜半過ぐるまで人の門たたき走りありき何事にかあらむ、ことごとしくののしりて［徒然］訳（大晦日の夜）夜中過ぎるまで、人の門をたたき走りまわって、何事であろうか、仰々しく大声でわめきたてて

興ざめだ＝すさまじ（凄じ・冷じ）［形・シク］例 すさまじきもの、昼ほゆる犬。［枕］訳 興ざめなもの、昼に吠える犬。例 冬の炭櫃こそ、火のなきは今少しすさまじけれ。［無名草子］訳 冬の火鉢は、火が入っていないのはやはり少し興ざめである。

恐縮する＝かしこまる（畏まる）［動・四］

興じる＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］

兄弟＝せ（背・兄）［名］

兄弟姉妹の中で年上の者＝このかみ（兄）［名］

京都の賀茂神社の葵祭り＝まつり（祭り）［名］

興にまかせて…する＝すさぶ（荒ぶ）［動・上二／四］例 田の中の細道を、稲葉の露にそぼちつつ分けて行くほど、笛をえならず吹きすさびたる、［徒然］訳 田の中の細い道を、稲葉の露にぬれながら分けて行く間、笛を何とも言いようのない感じで興にまかせて吹いている、

興味深い＝おもしろし（面白し）［形・ク］例 神楽こそ、なまめかしくおもしろけれ。［徒然］訳 神楽は、優雅で興味深い。

興味深い＝をかし［形・シク］

教養＝ざえ（才）［名］

教養がある＝よし（良し・善し）［形・ク］例 よき人はあやしきことを語らず。［徒然］訳 身分が高く教養のある人は変なことを話さない。

教養がない＝かたくななり（頑なり）［形動・ナリ］

清くすがすがしい＝さやけし（清けし）［形・ク］例 うつせみは数なき身なり山川のさやけき見つつ道を尋ねな［万葉］訳 人間ははかないものである。山川の清くすがすがしいのを見ながら仏道修業をしたい。

去年＝こぞ（去年）［名］例 昔ありし家は稀なり。或はこぞ焼けて、ことし作

れり。或は大家ほろびて小家となる。［方丈］訳 昔からある家というのは稀だ。去年焼けて今年建てた家もあれば、大きな家が没落して小さくなったのもある。

清らかで美しい＝きよらなり（清らなり）［形・ナリ］例 世になくきよらなる玉の男御子さへ生まれ給ひぬ。［源氏］訳 この世にたぐいないほどの清く美しい玉のような皇子までもお生まれになった

（空間的に）**距離**＝ほど（程）［名・助詞］

きらってさける＝いむ（斎む・忌む）［動・四］

気力＝たましひ（魂）［名］

きれいだ＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］

きれいだ＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］

きれいだ＝きよげなり（清げなり）［形動・ナリ］例 夢にいと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、［更級］訳 夢にたいそうきれいなお坊さんで、黄色の地の袈裟を着た人が現れて、

きれいだ＝きよらなり（清らなり）［形動・ナリ］例 世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。［源氏］訳 この上なく気品があって美しい玉のような男の皇子までお生まれになった。

きれいな人＝はづかしき人［名／連語］

切れる＝たゆ（絶ゆ）［動・下二］

（刃がよく）**切れる**＝とし（利し）［形・ク］

きわめて貴い＝やむごとなし［形・ク］

（もの思いをして、いろいろと）**気をもむこと**＝こころづくし（心尽くし）［名］

吟詠する（＝声を長く引いて漢詩や和歌を吟じる）＝ながむ（詠む）［動・下二］例「こぼれて匂ふ花桜かな」とながめければ［今昔］訳「こぼれて匂ふ花桜かな」と吟じたところ

（声を低めて詩歌を）**吟ずる**＝うそぶく（嘯く）［動・四］

禁止する＝いさむ（禁む）［動・下二］

緊張する＝つつまし（慎まし）［形・シク］

勤勉だ＝まめなり（忠実なり・真実なり）［形動・ナリ］

く

具合＝たより（頼り・便り）［名］

ぐあいが悪い＝はしたなし（端なし）［形・ク］

具合が悪い＝びんなし（便無し）［形・ク］

ぐあいが悪い＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］

ぐあいが悪い＝わろし（悪し）［形・ク］

食い違う＝たがふ（違ふ）［動・四／下二］

偶然だ＝かりそめなり（仮初めなり）［形動・ナリ］

偶然に＝おのづから（自ら）［副］

公卿・大臣などの敬称＝おとど（大臣）［名］

（色づいた）**草木の葉**＝もみぢ（紅葉）［名］

草木の葉が色づくこと＝もみぢ（紅葉）［名］

草などを分けて道をひらいて進む＝わく（分く・別く）［動・下二］

くじける＝うんず（倦んず）［動・サ変］

下さる＝たうぶ（賜ぶ・給ぶ）［動・四］例 上のをのこども、酒たうびけるついでに［古今集・詞書］訳 殿上に仕える男たちが、（帝が）酒をくださった際にくださる＝たまはる（賜る）［動・四］

下さる＝たまふ（給ふ・賜ふ）［動・四］例 御送りしてとく往なむと思ふに、大御酒たまひ、禄たまはむとて、つかはさざりけり。［伊勢］訳 お送りして早く帰ろうと思うが、（親王は）お酒をくださり、褒美をくださろうとして、お帰しにならなかった。

口が悪い＝さがなし（性なし）［形・ク］例 人の口はさがなきものなれば［平治］訳 人のうわさは口が悪いものなので

口出しする＝いろふ（綺ふ）［動・四］

口笛を吹く＝うそぶく（嘯く）［動・四］

ぐちを言う＝うらむ（恨む・怨む）［動・上二］

口をすぼめて長く息を出す＝うそぶく（嘯く）［動・四］

苦痛だ＝つらし（辛し）［形・ク］

（肉体的・精神的に）**苦痛だ**＝いたし（痛し）［形・ク］

（ものの）**区別**＝あやめ（文目）［名］

区別する＝わく（分く・別く）［動・下二］

雲＝くもゐ［雲居］［名］

曇りがない＝くまなし（隈なし）［形・ク］例 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。［徒然］訳 花は満開のもの、月は曇りのないものだけを見るものだろうか、いやそうではない。

くやしい＝ねたし（妬し）［形・ク］例 かへさまに縫ひたるもねたし。［枕］訳 裏返しに縫ってしまったのもくやしい。

供養する＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］例 後世とぶらひまゐらせ候はむ。［平家］訳（あなたの）死後を供養してあげましょう。

…ぐらい＝ほど（程）［助］

暗いところがない＝くまなし（隈無し）［形・ク］

暮らす＝ふ（経）［動・下二］

くらべるものがない＝さうなし（双なし）［形・ク］

来る＝さる（去る）［動・四］例 夕されば 訳 夕方になると 例 春さる 訳 春になる

来る＝ものす（物す）［動・サ変］

来る＝わたる（渡る）［動・四］

苦しい＝いたし（甚し・痛し）［形・ク］

苦しい＝うし（憂し）［形・ク］例 あぢきなくつらき嵐の声もうし［新古今］訳 おもしろくもなく心も苦しいような嵐の音もいやである

苦しい＝なやまし［形・シク］

苦しい＝わりなし［形・ク］

苦しい＝わびし（侘し・侘し）［形・シク］

（精神的に）**苦しむ**＝なやむ（悩む）［動・四］

君主＝きみ（君）［名］

け

警戒する＝まもる（守る）［動・四］

計画＝あらまし［名］

計画＝おきて（掟）［名］

計画する＝おきつ（掟つ）［動・下二］

経過する＝ふ（経）［動・下二］

経験する＝しる（知る・領る）［動・四］

形跡＝かた（形）［名］

軽率だ＝うちつけなり（打ち付けなり）［形動・ナリ］例 いと、うちつけなる心かな。［源氏］訳 まったく軽率なき心というものだよ。

軽率だ＝すずろなり（漫なり）［形動・ナリ］

軽率だ＝たいだいし（怠々し）［形・シク］

芸能＝ざえ（才）［名］

係累＝ほだし（絆）［名］例 なべてほだし多かる人の、よろづにへつらひ、望

み深きを見て、［徒然］訳 一般に（親・妻子などの）係累の多い人が、何かにつけてこびへつらい、欲が深いのを見て、

けがれなくきれいだ＝きよらなり（清らなり）［形動・ナリ］

けしからぬ＝びんなし（便なし）［形・ク］

けしからん＝びんなし（便無し）［形・ク活］

（陰暦で）**下旬**＝つごもり（晦・晦日）［名］

化粧＝けはひ［名］

けだかくて愛らしい＝ううらうじ（労々じ）［形・シク］例 髪なども常よりつくろひまして、やうだいもてなし、ううらうじくをかし。［紫日記］訳 髪などもふだんよりよりも一層手入れをして、姿やふるまいは、気品があって愛らしく趣深い。

けちだ＝いやし（卑し・賤し）［形・シク］

結婚させる＝あはす（合はす）［動・下二］

結婚する＝あふ（会ふ・逢ふ）［動・四］例 つひに本意のごとくあひにけり。［伊勢］訳 ついにかねての思いどおり（二人は）結婚したのだった。

（女が）**結婚する**＝みゆ（見ゆ）［動・下二］例 かかる異様のもの、人に見ゆべきにあらず。［徒然］訳 こんな変わり者（娘）は、人に嫁ぐべきではない。

結婚する＝みる（見る）［動・上一］

結婚の相手の女＝をんな（女）［名］

決して＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

決して…（してはいけない）＝かまへて…（な）（構へて）［副］

けっして…（ない）＝さらに（更に）（下に打消の語「ず・じ・まじ・なし」などを伴う）［副］

決して…（するな）＝ゆめ…（な）［副］

決して…（してはいけない）＝ゆめゆめ…（な）（努々）［副］例 ゆめゆめ憎みたまふな。［落窪］訳 決してお憎みになってはならない。

決して…（ない）＝よに…（ず）（世に）［副］

欠点＝とが（科・咎）［名］

欠点がない＝くまなし（隈なし）［形・ク］

（陰暦で）**月末**＝つごもり（晦・晦日）［名］例 富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れり。［伊勢］訳 富士の山を見ると、（陰暦）五月の月末というのに、雪が真っ白に降り積もっている。

けなげだ（年少なのに困難に立ち向かうさま）＝やさし（恥し・優し）［形・シク］

下男＝をとこ（男）［名］

下男＝をのこ（男）［名］

下品だ＝いやし（卑し・賤し）［形・シク］例 何事も辺土はいやしく…［徒然］訳 何事につけても田舎は下品で

下品だ＝わろし（悪し）［形・ク］

けれども＝されど（然れど）［接続］例 「物はすこし覚ゆれど、腰なむ動かれぬ。されど、子安貝をふとにぎり持たれば、うれしく覚ゆるなり」［竹取］訳 「気分は少しはっきりしてきたが、腰が動けない。けれども、子安貝をじっとにぎり持っているので、うれしく思われるのだ」例 また、金葉集よしと思へる人もはべり。されど、そのころの歌すべて目の及びはべらぬにやあらむ、さしも覚えはべらず。［無名草子］訳 また、金葉和歌集をよいと思っている人もいます。けれども、その頃の歌をすべては（私も）見ていないからでしょうか。そんなによいとも思われ

ません。

(山が)**けわしい**＝さがし（険し・嶮し）［形・シク］

けんがある＝かどかどし（角々し）［形・シク］

健康だ＝まめなり（真実なり・忠実なり）［形動・ナリ］

現実＝うつつ（現）［名］例 うつつには まだ知らぬを、夢の心地ぞする。［枕］訳 現実にはまだ知らないので、夢のような気がする。例 夢かと思ひなさむとすればうつつなり。うつつかと思へばまた夢のごとし。［平家］訳 夢かと思いこもうとすると現実である。現実かと思うとまた夢のようでもある。

現象＝こと（事）［名］

献上する＝たてまつる（奉る）［動・四］

現世＝よ（世）［名］

(来世、前世に対する)**現世**＝よのなか（世の中）［名］例 よのなかは何か常なる明日香川昨日の淵ぞ今日は瀬になる［古今］訳 この世では何の不変なものがあろうか。不変なものなどはない。明日香川の昨日深い淵であった所が、今日は浅瀬になっている。

現代的＝いまやう（今様）［名］

(現代の)**三月**＝きさらぎ（二月）［名］

現代ふう＝いまやう（今様）［名］例 いまやうはむげにいやしくこそなりゆくめれ。［徒然］訳 現代風の様式はやたらに下品になってゆくようだ。

現代風である＝いまめかし（今めかし）［形・シク］例 今めかしくきららかならねど、木だちものふりて、わざとならぬ庭の草も心あるさまに、［徒然］訳 現代風で華美な感じはないが、木立も何となく古くて、格別手入れをしているわけでもない庭の草も趣が深くて、

見当違いだ＝あいなし［形・ク］

限度＝かぎり（限り）［名］例 かぎりあるこの世にかぎりなき事を思ふべきかは。［琴後集］訳 限度のあるこの世の中に、限度のない事を思ってよいものか。

現に＝げに（実に）［副］

元服して成年に達した男子＝をとこ（男）［名］

元服して初めて冠をつけること＝うひかうぶり（初冠）［名］例 むかし、男、初冠して、奈良の京春日の里に、しるよしして、狩にいにけり。［伊勢］訳 昔、ある男が、元服して、奈良の春日の里に、所領を持っている縁で、鷹狩にでかけた。

賢明である＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］

こ

故意に＝わざと（態と）［副］

恋に夢中になる＝すく（好く）［動・四］

恋人(男性)＝せ（背・兄）［名］例 信濃路は今の墾道 刈株に足踏ましなむ履はけわが背［万葉］訳 信濃への道は最近新しく開いた道です。きっと切株に足を踏みつけなさることでしょう。履物をはいておいでなさい、わたしのいとしい人よ。

恋人など(男性が女性を親しんで呼ぶ語)＝いも（妹）［名］

こう＝かく（斯く）［副］

行為＝こと（言・事）［名］例 酒などすすむることあらむに…［徒然］訳 酒などを勧めることがあるようなときに

高位の女官＝にょうばう（女房）［名］

強引だ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］例 心にはよしと思ひながら、その中の疵をあながちに求め出でて、すべてを言ひけたむとかまふる者もあり。［玉勝間］訳 心の中では良い

と思うのに、その（説の）中の欠点を強引に探し出して、（その説）全体を否定しようと企む者もいる。例「今夜はここに明けさせたまへ」とて、あながちにとどむれど…［雨月］訳「今夜はここで夜をお明かしください」と、無理やりに引きとどめるけれども

効果＝しるし（験）［名］

効果がない＝かひなし（甲斐なし）［形・ク］

好感がもてない＝あいなし（愛なし）［形・ク］

好奇心の＝ゆかし（床し）［形・シク］例 物のゆかしき方はすすみたる御心［源氏］訳 好奇心の方は、発達していらっしゃる御性格

高貴だ＝あてなり（貴なり）［形動・ナリ］

高貴だ＝やむごとなし［形・ク］例 いとやむごとなき際にはあらぬが…［源氏］訳 それほど高貴な身分ではない方で

高貴な女性＝うへ（上）［名］

皇居＝おほやけ（公）［名］

後見する＝かしづく（傅く）［動・四］

皇后＝おほやけ（公）［名］

口実にする＝かこつ（託つ）［動・四］

好色めいている＝すきずきし（好き好きし）［形・シク］

公然としている＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］

皇太子の宮殿＝とうぐう（東宮・春宮）［名］

皇太子の尊称＝とうぐう（東宮・春宮）［名］

こうである＝かかり（斯かり）［動・ラ変］例 世にはかかるをこの者もあるなりけり。［今昔］訳 世の中にはこんなばかな者もいたのだなあ。

公的なこと＝おほやけ（公）［名］例 年ごろ、おほやけわたくし御いとまなくて［源氏］訳 数年来、公的にも私的にもお暇がありませんで

高徳の僧＝ひじり（聖）［名］

紅葉する（秋の雨や霧・霜で、草木の葉の色が赤や黄になること）＝もみづ（紅葉づ）［動・四／上二］

行楽＝あそび（遊び）［名］

行楽などで楽しむこと＝あそび（遊び）［名］

声がかすれる＝かる（枯る）［動・下二］

声をあげて泣く＝ねをなく（音を泣く）［連語］例 ねをなきたまふさまの、心深くいとほしければ…［源氏］訳 声をあげてお泣きになる様子が、心にしみるほどいじらしいので 類例 思ひ乱れて音をのみぞ泣く［古今］訳 心も乱れて声をあげて泣くばかりだ。

声をしのんで泣くこと＝しのびね（忍び音）［名］例 しのびねをのみ泣きて…［更級］訳 ただただ人知れず声をしのんで泣いて

声を長くひいて漢詩や和歌を吟じる＝ながむ（詠む）［動・下二］

声を低めて詩歌を吟ずる＝うそぶく（嘯く）［動・四］

小言や文句を言う＝むつかる（憤る）［動・四］

心あたり＝おぼえ（覚え）［名］

心うたれる＝かなし（愛し・悲し）［形・シク］

心が動かされる＝あはれなり［形動・ナリ］

心がこもる＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］例 重ねてねんごろに修せんことを期す。［徒然］訳 もう一度心を入れて修行しようと心に誓う。

心がさもしい＝いやし（卑し・賤し）［形・シク］例 いやしくもの惜しみさせ給ふ宮…［枕］訳 心さもしく物惜しみなさる宮

心がそちらの方に強くひかれる＝ゆかし（床し）［形・シク］
心がねじけている＝かたくなり（頑なり）［形動・ナリ］
心がひかれる＝あくがる（憧る）［動・下二］
心がひかれる＝こころにくし（心憎し）［形・ク］
心がひかれる＝なつかし（懐かし）［形・シク］
心がひかれる＝めづ（賞づ・愛づ）［動・下二］
心がひかれる＝ゆかし［形・シク］
心がひかれるほど新鮮だ＝めづらし（珍し）［形・シク］
心がまえ＝おきて（掟）［名］
心が身から離れ出る＝あくがる（憧る）［動・下二］
心が乱れる＝まどふ（惑ふ）［動・四］例 車より落ちぬべう、惑ひたまへば…［源氏］訳 牛車から落ちてしまいそうなほど心が乱れなさるので
心寂しい＝さうざうし［形・シク］例 今日ここにこの好き者どもの一人なき、さうざうしや。［宇津保］訳 今日ここにこの風流人たちが一人もいないのは、さびしいことだなあ。

心にかけて＝かまへて…（な）（構へて）［副］
心に深く感じるようすだ＝あはれなり［形動・ナリ］
心残りだ＝あかず（飽かず）［連語］
心の中＝うち（内）［名］
心の中で祈る＝ねんず（念ず）［動・サ変］例 清水の観音を念じたてまつりても…［源氏］訳 清水寺の観音様におお祈り申し上げても
心の隔たり＝ひま（隙・暇）［名］
心ひかれる＝こころにくし（心憎し）［形・ク］
心細い＝おぼつかなし［形・ク］
心細い＝わびし（侘びし）［形・シク］例 ただ一人物も食はで山中にゐたれば、かぎりなくわびし。［大和］訳 ただ一人で物も食べずに山の中にじっとしていると、どうしようもないほど心細い。
心細く思う＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
快い＝おもしろい（面白し）［形・ク］
心を明るくする＝あきらむ（明らむ）［動・下二］例 嘆かしき心の内もあきらむばかり、かつは慰め、また哀れをもさまし…［源氏］訳 悲嘆にくれた心のうちも明るくするぐらいに、一方では慰め、また一方ではその悲しみをときほぐし
心を痛める＝なやむ（悩む）［動・四］
心を晴らす＝やる（遣る）［動・四］
…（で）ございます＝さうらふ（候ふ）［動・四］例 筋なきことにさうらひなむ。［宇治］訳 きっと筋の通らないことでございましょう。
ございます＝さぶらふ（候ふ・侍ふ）［動・四］例「物語の多くさぶらふなる、あるかぎり見せたまへ」［更級］訳「物語がたくさんございますそうですが、あるだけ全部お見せください」
ございます＝はべり（侍り）［動・ラ変］例 いかなる故かはべりけむ。［徒然］訳 どんな理由がございましたのでしょうか。例「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ちはべらず」と答へしかば、［徒然］訳「お子さんはいらっしゃるか」と尋ねたのに対して、「一人も持っていません」と答えたところ、
こざかしい＝さかし（賢し）［形・シク］例 さかしきもの、今様の三歳児。［枕］訳 こざかしいもの、それは今どきの幼児。
個室（「曹司」ともいう）＝つぼね（局）［名］

古跡＝ふるさと（古里・故郷）［名］
ご存じである＝しろしめす（知ろし召す）［動・四］
答える＝いらふ（答ふ・応ふ）［動・下二］例かしこくいらへたりとおほせられき。［枕］訳うまく答えたものだとおっしゃった。例「殿は何にかならせたまひたる」など問ふに、いらへには、「何の前司にこそは」などぞ必ずいらふる。［枕］訳（世間の人が）「殿はどこの国司におなりなのか」など尋ねると、返事には、（家来は）「何々国の前の国司です」などと必ず答える。
ごちそう＝あるじ（主・饗）［名］例すさまじきもの。…方違へに行きたるにあるじせぬ所。［枕］訳興ざめなもの。…方違えに行ったのにごちそうしない所。
ごちそう＝まうけ（設け・儲け）［名］
ごちそうの用意＝まうけ（設け・儲け）［名］
こちらが気がひけるぐらい相手がすぐれている＝はづかし（恥づかし）［形・シク］
（相手の人が）**こちらを見る**＝みおこす（見遣す）［動・下二］
滑稽だ＝をかし［形・シク］

こっそりと［連用形で］＝みそかなり（密かなり）［形動・ナリ］例いとみそかに、会ふまじき人に会ひたまひけり。［大和］訳ほんとうにこっそりと、会ってはならない人とお会いになった。
御殿＝おとど（大殿）［名］
…ことがきっとできるだろう＝つべし［連語］
…ことができよう＝てむ＜「む」が可能の意味＞［連語］
ことがら＝こと（言・事）［名］
異なっている＝ことなり（異なり・殊なり）［形動・ナリ］例いはば朝顔の露に異ならず。［方丈］訳たとえて言うなら、朝顔に宿る露と異なっていない。
事の次第＝ついで［名］
ことのわけを説明する＝ことわる（理る・断る）［動・四］
言葉＝こと（言・事）［名］例言に出でて言はぬばかりぞ水無瀬川下にかよひて恋しきものを［古今］訳言葉に出して言わないだけだ。（水がないという名の）水無瀬川が地下を流れているように、（心の底ではずっと）君のことを恋しく思っているのだよ。例むせぶ涙におぼほれて、こともつづけられず。［建礼］訳むせび泣きの涙におぼれて、言葉も続けられない。
子どもたち＝こども（子ども）［名］
子供っぽい＝いはけなし［形・ク］
子どもなどがだだをこねる＝むつかる（憤る）［動・四］
子供をたいせつに育てる＝かしづく（傳く）［動・四］
…ことよ＝けらし［助詞＋助詞］例まことに愛すべき山の姿なりけらし。［鹿島］訳本当に愛すべき山の姿であったことよ。
ことわる＝いなむ（辞む・否む）［動・四／上二］
ことわる＝さる（避る）［動・四］
ご～なさる＝います（在す）［動・四／サ変］
ご～なさる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］
ご～なさる＝おはします［動・四］
ご～なさる＝おはす［動・サ変］
ご～なさる＝たぶ（給ぶ・賜ぶ）［動・四］
ご～なさる＝たまふ（給ふ）［動・四］
ご～になる＝います（在す）［動・四／サ変］

ご〜になる＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］
ご〜になる＝おはします［動・四］
ご〜になる＝おはす［動・サ変］
ご〜になる＝たぶ（給ぶ・賜ぶ）［動・四］
ご〜になる＝たまふ（給ふ）［動・四］
この上ない＝こよなし［形・ク］
好ましい＝なつかし（懐かし）［形・シク］
この世＝よ（世・代）［名］
この世＝よのなか（世の中）［名］例 よのなかは何か常なる明日香川昨日の淵ぞ今日は瀬になる［古今］訳 この世では何の不変なものがあろうか、不変なものなどはない。明日香川の昨日深い淵であった所が、今日は浅瀬になっている。
このようである＝かかり（斯かり）［動・ラ変］例 深く信を致しぬれば、かかる徳もありけるにこそ。［徒然］訳 心から深く信じきっていたので、このような御利益もあったのであろう。
このように＝かく（斯く）［副］例 いづれのほどにかあらむ、かくなむ語り伝へたるとや。［今昔］訳 いつごろのことであろうか、このように語り伝えているとか。例 われば かりかく思ふにや。［徒然］訳 自分だけがこのように思うのだろうか。
古風＝こたい（古体）［名］
古風だ＝こたい（古体）［形動・ナリ］例 いとこたいに聞こえ給ふも…［源氏］訳 とても古風に申しあげなさるのも
困る＝こうず（困ず）［動・サ変］例 いかにいかにと日々責められ、こうじて…［源氏］訳 どうだ、どうだと日々責められて、困って
困る＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］
（…たら）**困る**＝もこそ［連語］
（…たら）**困る**＝もぞ［連語］例 門よくさしてよ。雨もぞ降る。［徒然］訳 門をしっかり閉めてね。雨が降ったら困る。
困る＝わづらふ（煩ふ）［動・四］類語 なやむ〈①苦しむ、②病気する、③非難する〉
困る＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
ご…申しあげる＝たてまつる（奉る）［動・四］
ご…申しあげる＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］
こらえる＝しのぶ（忍ぶ）［動・四／上二］
こらえる＝ねんず（念ず）［動・サ変］→「じっとこらえる」参照
ご覧になる＝ごらんず（御覧ず）［動・サ変］例 布留の滝ごらんぜむとておはしましける道に…［古今］訳（仁和の帝が）布留の滝をご覧になろうといってお出かけになった道に
ご覧になる＝ごらんず（御覧ず）［動・サ変］例 帝、小蔀より御覧じて、御けしきいとあしくならせたまひて、［大鏡］訳 帝は、小蔀から御覧になって、ご機嫌がたいそう悪くなりなさって、
ご利益＝しるし（験・徴）［名］
凝る＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］
これということもない＝はかなし（儚し・果敢し・果無し）［形・ク］
頃＝かた（方）［名］
（時間的に）**ころ**＝ほど（程）［名・助］
古老（老人の敬称）＝（翁）［名］
こわい＝すごし（凄し）［形・ク］
こわがる＝おづ（怖づ）［動・上二］
こわす＝こぼつ（毀つ）［動・四］例 しごろあそび馴れつる所を、あらはにこほち散らして…［更級］訳 数年来、遊びなれた所を、外から丸見えのようにすっかり壊して

（仏教での）**勤行**（ごんぎょう）＝おこなひ（行ひ）［名］

勤行する（ごんぎょう）＝おこなふ（行ふ）［動・四］

例 堂建てて行へる尼のすまひ、いとあはれなり。［源氏］訳 お堂を建てて勤行している尼の住まいは、たいそうしみじみとしている。

こんなにたくさん＝ここら・そこら［副］

こんなにも＝ここだ［副］例 多摩川（たまがは）にさらす手作りさらさらに何ぞこの児（こ）のここだかなしき［万葉］訳 多摩川にさらす手作りの布のように、さらにさらにどうしてこの娘がこんなにもいとしいのかなあ。

さ

さあ＝いざ［感動］例 僧たち、宵（よひ）のつれづれに「いざ、かいもちひせむ」と言ひけるを…［宇治］訳 僧たちが、宵の退屈しのぎに「さあ、ぼた餅を作ろう」と言ったのを

さあいらっしゃい＝いざたまへ（いざ給へ）［連語］例「嫗（おうな）ども、いざたまへ。寺に尊き業（わざ）する、見せたてまつらむ」［大和］訳「おばあちゃん、さあいらっしゃい。寺でありがたい仏事がある、（それを）お見せ申そう」例 いざ、たまへ、出雲（いづも）拝みに。［徒然］訳 さあ、いらっしゃい、丹波の出雲社参拝に。

さあて＝いさ［感動］例 女いみじう恥づかしくて「いさ」といふらむ。［落窪］訳 女はたいそう恥ずかしくて「さあ」というのだろう。

さあどうだか（下に打消を伴う）＝いさ［副］例 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香（か）ににほひける。［古今］訳 人は、さあ、どうだろうか、心の中はわかりません。しかし、昔なじみの（この）土地では、梅の花が昔どおりの香りで咲いていますよ。例 いさ、よそにはさもや定め侍るらん、知り給へず。［無名抄］訳 さあどうでしょうか、世人はそのように決めているようですが、私は存じません。

才気＝たましひ（魂）［名］

才気ばしっている＝かどかどし（才々し）［形・シク］

最期・最後＝かぎり（限り）［名］

最高の人＝いちのひと（一の人）［名］

妻子＝ほだし（絆）［名］

才智＝たましひ（魂）［名］

才智がきわだっている＝かしこし（賢し）［形・ク］

最低だ＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

才能＝ざえ（才）［名］

栄える＝ときめく（時めく）［動・四］

栄えること＝はな（花）［名］

探し求める＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］例 遠く異朝をとぶらへば…［平家］訳 遠く他国に（例を）探し求めると

さがる＝まかる（罷る）［動・四］

（勢いが）**盛んだ**＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

さかんに…する＝ありく（歩く）［動・四］（他の動詞の連用形につく）

盛んに…する＝すさぶ（荒ぶ）［動・上二／四］

先立たれる＝おくる（後る）［動・下二］例「母には七歳でおくれさうらひぬ」［平家］訳「母には七歳の時に先立たれました」

先に死なれる＝おくる（後る）［動・下二］

さきほどの＝ありつる（在りつる）［連体］例 さらば、そのありつる文をたまはりて来（こ）。［枕］訳 それならば、さきほどの手紙をちょうだいしてこい。

昨日＝きぞ（昨）［名］
昨年＝こぞ（去年）［名］
昨夜＝きぞ（昨）［名］
昨夜＝こぞ（昨夜）［名］
桜＝はな（花）［名］
避けられない＝さらぬ（然らぬ・避らぬ）［連語］
さけられない＝さりがたし（避り難し）［形・ク］
避けられない別れ＝さらぬわかれ（避らぬ別れ）［慣用句］
さける＝いむ（斎む・忌む）［動・四］
さける＝さる（避る）［動・四］
（人目を）**避ける**＝しのぶ（忍ぶ）［動・四／上二］
さしあげる＝さぶらふ（候ふ）［動・四］
差しあげる＝たてまつる（奉る）［動・四］例「ゆかしくしたまふなる物を奉らむ」［更級日記］訳「ほしがっていらっしゃると聞いている物を差しあげよう」例 恐ろしげなる虫どもをとり集めてたてまつる。［堤中］訳 気味悪そうな虫を採集して（姫君に）差し上げる。
差しあげる＝まゐらす（参らす）［動・下二］例 紫式部を召して、「何をか参らすべき」と仰せられければ、［無名草子］訳（中宮が）紫式部をお呼びになって、「何を差しあげればよいだろう」とおっしゃったところ、
…**（て）差し上げる**［補助動詞］＝まゐらす（参らす）［動・下二］例 降家こそいみじき骨を得て侍れ。それを張らせて参らせむとするに…［枕］訳 降家はすばらしい扇の骨を得ました。それを（＝扇の骨に紙を）はらせて、差し上げようと思いますが、
差し上げる＝まゐる（参る）［動・四］
さしず＝おきて（掟）［名］
指図する＝おきつ（掟つ）［動・下二］例 人をおきてて高き木にのぼせて…［徒然］訳 人を指図して高い木に登らせて
さしせまっている＝せちなり（切なり）［形動・ナリ］
差し支える＝さはる（障る）［動・四］例「障ることありて、まからで」なども書けるは…［徒然］訳「差し支えることがあって、（花見に）行かないで」などとも書いたのは
…（さ）**せていただく**［補助動詞］＝たまふ（給ふ・賜ふ）［動・下二］（「思ひたまふ」「知りたまふ」は［存じます］と訳すとよい場合が多い。）例 思ひたまへよらざりし御有様を見たまふれば…［源氏］訳 存じよりませんでした御様子を見させていただくと
…**させなさる**＝せたまふ（せ給ふ）［連語］
さぞ＝いかに（如何に）［副］
さそう＝いざなふ（誘ふ）［動・四］
（理非を論じ）**定めること**＝さた（沙汰）［名］
さっきの＝ありつる［連体］例 ありつる人はいかがなりぬると問ひたまふ。［源氏］訳 さっきの人はどうなったのかとお尋ねになる。例 さらば、そのありつる文をたまはりて来。［枕］訳 それならば、さきほどの手紙をちょうだいしてこい。
さっぱりしている＝きよげなり（清げなり）［形動・ナリ］
殺風景だ＝すさまじ（凄じ・冷じ）［形・シク］
さて［接続詞］＝されば（然れば）［接］
さびしい＝あはれなり［形動・ナリ］
さびしい＝さうざうし［形・シク］
さびしい＝すごし（凄し）［形・ク］
さびしい＝すさまじ（凄じ）［形・シク］
さびしい＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］

さびしい＝わびし（侘し・侘し）［形・シク］

淋しくて心細がる＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］

（目を）**さまさせる**＝おどろかす（驚かす）［動・四］

（目を）**さます**＝おどろく（驚く）［動・四］

妨げとなる＝さはる（障る）［動・四］例 月影ばかりぞ八重むぐらにもさはらずさし入りたる。［源氏］訳 月光だけは、生い茂った雑草にもさまたげられずさし込んでくる。

さまよい出る＝あくがる（憧る）［動・下二］例 仲国、寮の御馬給はって、明月に鞭をあげ、そことも知らずあくがれゆく。［平家］訳 仲国は、馬寮の御馬をいただいて、明月の光を浴びつつ（馬に）鞭打ち、どこというあてもなくさまよい出て行った。

さむざむとした感じだ＝すさまじ（凄じ・冷じ）［形・シク］

寒々としている＝すさまじ（凄じ）［形・シク］例 冬の炭櫃こそ火のなきは今少しすさまじけれ。［無名草子］訳 冬の炭櫃に火が起こしてないのは、いっそう寒々としていることよ。

（目が）**さめやすい**＝いざとし（寝聡し）［形・シク］

（色が）**さめる**＝うつろふ［動・四］

（目が）**さめる**＝おどろく（驚く）［動・四］

さらに＝なほ（猶・尚）［副］例 なほ行き行きて、いと大きなる河あり。［伊勢］訳 さらに進んでいくと、とても大きな河がある。

さりげない＝つれなし（連れ無し）［形・ク］例 上はつれなくて草生ひ茂りたるを、ながながと、ただざまに行けば、下はえならざりける水の…［枕］訳 表面はさりげなくて草が生い茂っている所を、長々と、まっすぐに行くと、下には何ともいえず美しい流れが

去る＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］

騒がしい＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］例 よからぬ人は、たれともなく、あまたの中に打ち出でて、見ることのやうに語りなせば、皆同じく笑ひののしる、いとらうがはし。［徒然］訳 身分の低い人は、だれともなく、多くの人の中に出しゃばって、今見ているかのように話すので、皆がいっしょに笑い騒ぐのが、ひどく騒がしい。

騒ぐ＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

参詣する＝まうづ（詣づ・参づ）［動・下二］例 石山に詣でて七日ばかりあらむとて、詣でぬ。［和泉］訳 石山寺にお参りして七日ほどいようと、参詣した。

参詣する＝まゐる（参る）［動・四］

参上する＝さぶらふ（候ふ）［動・四］

参上する＝まうづ（詣づ・参づ）［動・下二］例 子は京に宮仕へしければ、まうづとしけれど、しばしばえまうでず。［伊勢］訳 子のほうは都で宮中にお仕えしていたので、（母君のもとへ）参上しようとしたけれども、たびたび参上することはできなかった。

参上する＝まかる（罷る）［動・四］

参上する＝まゐる（参る）［動・四］例 大納言殿の参りたまへるなりけり。［枕］訳 大納言殿が参上なさったのであった。

残念だ＝あたらし（惜し）［形・シク］例 若くして失せにし、いといとほしうあたらしくなむ。［増鏡］訳 年若くして亡くなってしまったのは、たいそう気の毒で残念であることだ。

残念だ＝うたてし［形・ク］例 憂かりし島の島守となりにけるこそうたてけれ。［平家］訳 つらかった島の番人に

なってしまったのは情けない。

残念だ＝くちをし（口惜し）［形・シク］例 忘れがたく、口惜しきことおほかれど…［土佐］訳 忘れられず、残念なことは多いけれども 例「伏籠のうちにこめたりつるものを」と、いとくちをしと思へり。［源氏］訳「伏籠（＝かごの一種）の中に閉じこめていたのに」と、たいへん残念に思っている。

残念だ＝ねたし（妬し）［形・ク］例 かへさまに縫ひたるもねたし。［枕］訳 裏返しに縫ってしまったのもくやしい。

残念だ＝ほいなし（本意無し）［形・ク］例 思ひしにはあらず、いとほいなくくちをし。［更級］訳 思っていたようではなく、ほんとうに残念でがっかりだ。例 この男、何といふひとふしもなからむが本意なくて、鼠鳴きをし出でたりければ、［十訓］訳 この男は、これという一句もないようなことが残念で、ねずみの鳴きまねをしたところ、

残念に思う＝うらむ（恨む・怨む）［動・上二］

し

詩歌管弦の遊び＝あそび（遊び）［名］

詩歌を吟じる＝ながむ（詠む）［動・下二］例「こぼれて匂ふ花桜かな」とながめければ…［今昔］訳「こぼれて匂ふ花桜かな」と吟じたところ

詩歌を吟ずる＝うそぶく（嘯く）［動・四］

詩歌をつくって楽しむこと＝あそび（遊び）［名］

詩歌をつくる＝ながむ（詠む）［動・下二］例 かの在原のなにがしの「唐衣着つつなれにし」とながめけむ三河の国八橋。［平家］訳 あの在原某が「唐衣着つつなれにし」と歌をつくったという三河の国八橋。

強いて＝せめて［副］

しうちがひどくてたえきれない＝つらし［形・ク］

しうちのひどい人＝つらき人［連語］

…しおえる＝あふ（敢ふ）［動・下二］

潮がひく＝ひる（干る・乾る）［動・上一］

潮水にぬれてしずくがたれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

潮水にぬれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

…しおわる＝はつ（果つ）［動・下二］例 物を聞きはてで、笑ふやうやはある。［十訓］訳 物を聞きおわらずに、あざ笑うということがあろうか、いや、それではだめだ。

しかし＝されど（然れど）［接続］

しかしながら＝さるは（然るは）［接続］

しかたがない＝いかがはせむ（如何はせむ）［慣用句］

…しかねる［補助動詞］＝わづらふ（煩ふ）［動・四］川舟の上りわづらふ綱手なは［新古今］川舟が急流を上るのに苦しんでその舟を引く縄 類語 なやむ＜①苦しむ、②病気する、③非難する＞

しかるべき＝さるべき（然るべき）［連語］

時間＝ほど（程）［名］例 程経ば、少しうち粉るることもや。［源氏］訳 時間がたてば、少し気が粉れることもあろうか。

時間がたつ＝あり（有り）［動・ラ変］

時間が長い＝ひさし（久し）［形・シク］例 翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛の者になりにけり。［竹取］訳 翁

は、（黄金の入った）竹を取ることが長く続いた。（彼は）富豪となっていった。

至急＝とみ（頓）［名］例 とみの事として御ふみあり。［伊勢］訳 至急の事といってお手紙が届く。

…しきる＝あふ［敢ふ］［動・下二］

時雨がふる＝しぐる（時雨る）［動・下二］

しぐれの雨＝しぐれ（時雨）［名］

しげっている＝しげし（繁し・茂し）［形・ク］例 わが山斎は木高くしげくなりにけるかも…［万葉］訳 わたしの庭の山水は木立が高く草もしげってしまったことだ。

伺候する＝さぶらふ（候ふ・侍ふ）［動・四］

伺候する＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］

伺候する＝はべり（侍り）［動・ラ変］

死後に生まれ変わる世＝ごせ（後世）［名］

自作の歌の謙称＝こしをれうた（腰折歌）［名］

事実と違ったこと＝ひがこと（僻事）［名］

使者を供養する＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］

始終＝あけくれ（明け暮れ）［名］

侍女＝にょうばう（女房）［名］

事情＝けしき（気色）［名］

事情＝こころ（心）［名］

事情＝こと（事）［名］

（物事の）事情をあきらかにする＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

静かに＝あなかま［連語］→「しっ、静かに」参照

静かに＝やをら［副］

静かにおちついた心＝しづごころ（静心）［名］

静かに暮らす＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］

しずくがたれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

時勢に合って栄える＝ときめく（時めく）［動・四］例 騒がしう、時めきたる所に…［枕］訳 人の出入りにぎやかで、時勢に合って栄えている人の所に

時節＝かた（方）［名］

自然に＝おのづから（自ら）［副］例 げにおのづから慰みゆく。［更級］訳 ほんとうに自然と心が慰められていく。

自然に緊張する＝つつまし（慎まし）［形・シク］

…したい＝ばや［助］例 思ふやうならむ人を据ゑて住まばや。［源氏］訳 理想どおりの人を迎えて暮らしたいものだ。

次第＝ついで（序）［名］

時代＝よ（世・代）［名］

時代おくれになる＝ふる（古る・旧る）［動・上二］

しだいに＝やうやう［副］例 かくて翁、やうやう豊かになりゆく。［竹取］訳 このようにして翁は、しだいに豊かになってゆく。例 うれしくも見つるかなと思ふに、やうやう明くれば、帰り給ひぬ。［堤中］訳 うれしくも（こんなにかわいい姫君を）見たものだなあと思っているうちにも、しだいに夜が明けてくるので、お帰りになった。

慕う＝しのぶ（偲ぶ）［動・四／上二］

従わない＝たがふ（違ふ）［動・四／下二］

したく＝いそぎ（急ぎ）［名］

仕度＝まうけ（設け）［名］例 かぐや姫をかならずあはむまうけして、ひとり明かし暮らし給ふ。［竹取］訳 かぐや姫をきっと迎えようとする仕度をして、ひとりで暮らしていらっしゃる。

（宮中に仕える人の）自宅＝さと（里）［名］

（宮仕えから退出して）**自宅にいること**＝さとずみ（里住み）［名］

（宮仕えをしばらく休んで）**自宅にいる人**＝さとびと（里人）［名］

…**したことよ**＝けらし［助動＋助動］例 まことに愛すべき山の姿なりけらし。［鹿島］訳 本当に愛すべき山の姿であったことよ。

親しい＝うるはし（麗し・美し）［形・シク］

親しい＝こころやすし（心安し）［形・ク］

親しくしている＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］

親しく交わる＝かたらふ（語らふ）［動・四］

親しみが感じられる＝なつかし（懐かし）［形・シク］例 御心ばへ、いとなつかしう、おいらかにおはしまして、世の人いみじう恋ひ申すめり。［大鏡］訳 お心は、とても親しみが感じられ、穏やかでいらっしゃって、世の中の人はたいそう恋しく思い申しあげているようだ。

親しみが持てる＝なつかし（懐かし）［形・シク］例 近うてはなつかしからぬものの声なり。［更級］訳（鹿の声は）近くては親しみがもてない声である。

親しむ＝ならふ（慣らふ・馴らふ）［動・四］

…**しただろうものを**＝てまし［連語］例 昼ならましかば、のぞきて見たてまつりてまし。［源氏］訳 昼間であったならば、のぞいて拝見しただろうものを。

…**したにちがいない**＝けらし［助動＋助動］例 吾妹子（わきもこ）は常世（とこよ）の国に住みけらし昔見しより復（を）ちましにけり［万葉］訳 あなたは不老不死の国に住んでいたにちがいない。昔見たときより若返りなさったことよ。

…**したものだろうか**＝てまし［連語］例 しのびてや、迎へたてまつりてまし。［源氏］訳 こっそりとお迎え申しあげたものだろうか。

…**したら困る**＝もこそ［連語］

…**したら困る**＝もぞ［連語］例 門よくさしてよ。雨もぞ降る。［徒然］訳 門をしっかり閉めてね。雨が降ったら困る。

…**したらしい**＝けらし［助動＋助動］

…**したらたいへんだ**＝もこそ［連語］例 烏などもこそ見つくれ。［源氏］訳（逃げた子を）烏などが見つけたらたいへんだ。

…**したらたいへんだ**＝もぞ［連語］例 罪もぞ得たまふ。［源氏］訳 罪をお受けになるといけない。

…**したらよいだろうか**＝てまし［連語］

慕わしい＝ゆかし（床し）［形・シク］

しっ＝あなかま［連語］例「あなかま、人に聞かすな。いとをかしげなる猫なり。飼はむ」［更級］訳「しっ、静かに、人に聞かせるな。とてもかわいい猫だ。（こっそり）飼おう」

（宮中に仕える人の）**実家**＝さと（里）［名］

実家＝ふるさと（古里・故郷）［名］

しっかりしている＝さかし（賢し）［形・シク］例 中に、心さかしき者、念じて射むとすれども…［竹取］訳 中で、心がしっかりしている者が、がまんして矢を射ようとするけれども

しっかりしている＝はかばかし［形・シク］例 とりたててはかばかしき後見（うしろみ）しなければ、ことある時は、なほよりどころなく心細げなり。［源氏］訳 とくにしっかりした後見人（こうけんにん）がいないので、特別なことが起こった時には、やはり頼るところもなく心細そうであ

る。

しっかりしている＝おねむねし（宗々し）［形・シク］

しっかり処理する＝したたむ（認む）［動・下二］

膝行する（しっこう）＝ゐざる（居ざる）［動・四］

（予想よりも）**実際の方が劣って感じられること**＝こころおとり（心劣り）［名］

しっ、静かに＝あなかま（あな喧）［連語］例 あなかま、人に聞かすな。［更級］訳 しっ、静かに、人に知らせるな。［参考］あなかまたまへ＜「あなかま」に敬意が加わる＞

（いかにも）**実直だ**（＝忠実で正直だ）＝まめまめし（実直実直し）［形・ク］

…し続ける＝わたる（渡る）［動・四］例 年を経てよばひわたりけるを、［伊勢］訳 何年もの間求婚し続けてきたが、↓「ずっと…し続ける」参照

知っていらっしゃる＝しろしめす（知ろし召す）［動・四］

じっとがまんする＝しのぶ（忍ぶ）［動・上二］

じっと我慢する＝ねんず（念ず）［動・サ変］

じっとこらえる＝ねんず（念ず）［動・サ変］例 ただ一人、ねぶたきを念じてさぶらふに、丑（うし）四つと奏すなり。［枕］訳 ただ一人、眠たいのをがまんしてひかえていると丑四つ（午前三時頃）と申し上げているようだ。

じっと…（し）ている［補助動詞］＝ゐる（居る）［動・上二］例 物のかくれよりしばし見ゐたるに…［徒然］訳 物かげより少しの間じっと見ていると

じっと見つめる＝まもる（守る）［動・四］例 心地ただしれにしれて、まもりあへり。［竹取］訳 気持ちがただもうぼおっとしてしまって、（味方どうしが）じっと見つめあっていた。例 花のもとにはねぢ寄り立ち寄り、あからめもせずまもりて…［徒然］訳 花の下にはむりやり割り込んで近寄り、わき目もふらずにじっと見つめて

しっとりとした趣がある＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

しっとりとしている＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］例 かぐや姫のかたち、いうにおはすなり。［竹取］訳 かぐや姫の容貌は、上品でしっとりとしていらっしゃるそうだ。

室内の手まわりの道具＝てうど（調度）［名］

実に＝いと［副］

実に（感動を表す語）＝げに（実に）［副］

実に＝よに（世に）［副］

実は＝さるは（然るは）［接続］

実用的だ＝まめなり（真実なり・忠実なり）［形動・ナリ］例 すなはち車にてまめなるものさまざまに持て来たり。［大和］訳 すぐに車で実用的なものをいろいろと持ってきた。

実用的だ＝まめまめし（真実真実し）［形・シク］例 何をか奉らむ。まめまめしきものはまさなかりなむ。［更級］訳 何を差し上げましょうか。実用的なものはよくないでしょう。

…（し）づらくなる［補助動詞］＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］例 いと見苦しきに、住みわび給ひて…［源氏］訳 たいそう見苦しいので、住みにくがりなさって

…していただく［補助動詞］＝たまはる（賜はる・給はる）［動・四］

…していらっしゃる↓「…いらっしゃる」参照

…しているだろう＝らむ［助動］

…してくれるな＝な…そ［慣用句］例 春日野はけふはな焼きそ［古今］訳 春日野の野原を今日だけは焼いてくれるな

例 ここにな来（こ）そ。去（い）ね。［宇津保］訳 ここには来てくれるな。去れ。

(何かものごとを)**してさし上げる**＝つかまつる（仕る）［動・四］

(何かを)**して差しあげる**＝まゐる（参る）［動・四］例 御髪まゐるほどをだに…［源氏］訳 御髪を結うのをして差し上げる間でさえ 例 雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて［枕］訳 雪がたいそう高く降り積もっているのに、いつになく御格子をお下ろし申しあげて

…**してしまえばよかったのに**＝なまし［連語］例 やすらはで寝なましものを…［後拾遺］訳 ためらわないで寝てしまえばよかったのに

…**してしまおう**＜「む」が意志の意味＞＝てむ［連語］例 乳母かへてむ。いとうしろめたし。［枕］訳 お守役をかえてしまおう。とても気がかりだ。

…**してしまおう**＜「む」が意志の場合＞＝なむ［強意の助動詞「ぬ」の未然形「な」＋助動詞「む」］例 同じ煙にものぼり（連用形）なむ。［源氏］訳 同じ煙となってのぼってしまおう。

…**してしまっただろう**＝なまし［連語］例 けふ来ずはあすは雪とぞ降りなまし［古今］訳 今日来ないなら、明日は雪のように散ってしまうだろう

…**してしまっていて**＝にて［完了の助動詞「ぬ」の連用形「に」＋接続助詞「て」］

…**してほしい**＝なむ［助］例 小倉山峯のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待た（未然形）なむ［拾遺］訳 小倉山の峯のもみじ葉よ、心があるならば、もう一度帝の行幸があるまで散らずに待っていてほしい

…**してまわる**＝ありく（歩く）［動・四］（他の動詞の連用形につく）

…**してもらいたい**＝なむ［助］

…**しないでもらいたい**＝な…（そ）［副］

(先に)**死なれる**＝おくる（後る）［動・下二］

しにくい＝ありがたし（有り難し）［形・ク］

死ぬ＝いたづらになる［連語］

死ぬ＝うす（失す）［動・下二］例 京にて生まれたりし女子、国にてにはかにうせにしかば…［土佐］訳 京で生まれた女の子が、任国の土佐で急に亡くなったので 例 太刀の先を口にふくみ、馬よりさかさまにとび落ち、つらぬかってぞ失せにける。［平家］訳 太刀の先を口に含み、馬からまっさかさまに飛び落ちて、太刀で首を貫いて死んでしまった。

死ぬ＝かる（枯る）［動・下二］

死ぬ＝たゆ（絶ゆ）［動・下二］

死ぬ＝はかなくなる［連語］例 里へ帰り、うちふすこと五六日して、つひにはかなくなりにけり。［平家］訳 自分の家へ帰り、寝込むこと五、六日で、とうとう死んでしまった。

死ぬ＝はつ（果つ）［動・下二］

死ぬ＝まかる（罷る）［動・四］

死ぬ＝たゆ（絶ゆ）［動・下二］

死ぬ＝みまかる（身罷る）［動・四］例 紀友則がみまかりにける時よめる［古今］訳 紀友則が死んだ時に詠んだ歌

死ぬ＝むなしくなる［連語］

(人めを)**しのんでこっそり**＝みそかなり（密かなり）［形動・ナリ］

…**しはじめる**［補助動詞］＝そむ（初む）［動・下二］例 うたた寝に恋しき人を見てしより夢てふものは思ひそめてき［古今］訳 うたた寝に恋しい人を夢に見てしまってから、夢というものを頼みに思いはじめてしまった。例 今年より春知りそむる桜花散るといふことはならはざらなむ［古今］訳 今年から春を知りはじめる桜花よ（どうか咲くことだけを覚えて）散ることは覚えな

いでほしい。

しばらくぶりだ＝ひさし（久し）［形・シク］

自分から＝われと（我と）［連語］例 我と手をおろしてしたることなければ…［著聞］訳 自分から手をくだしてしたことはないので

自分自身で＝われと（我と）［連語］

自分自身の気持ちから＝ひとやりならず（人遣りならず）［連語］例 ことにふれて心細くかなしけれど、人やりならぬ道なれば、いと憂しとてもとどまるべきにもあらで、［十六夜］訳 何につけても心細く悲しいけれども、自分自身の気持ちからの旅なので、たいそうつらくてもとどまるわけにもいかず、

自分に害を与えるもの＝あた（仇・敵）［名］

自分のせい＝ひとやりならず（人遣りならず）［連語］例 人やりならず心細く思ひつづく。［源氏］（こんな思いをするのは）自分のせいではあるけれども、あれこれと物思いにふける。

自分の身を束縛するもの＝ほだし（絆）［名］

死別＝さらぬわかれ（避らぬ別れ）［慣用句］例 老いぬればさらぬ別れのありといへばいよいよ見まくほしき君かな［伊勢］訳（私は）年をとったので、避けられない死別というものがあるということですから、いよいよお会いしたく思われるあなたですね。

姉妹＝いも［名］例 言問はぬ木すら妹と背ありとふを［万葉］訳 もの言わぬ木でさえ姉妹と兄弟とがあるというのに

しまりがない＝しどけなし［形・ク］例 帯しどけなくうち乱れ給へる御さま…［源氏］訳 帯がしまりなくうちとけていらっしゃる御様子

しみじみと心が動かされる＝あはれなり［形動・ナリ］

しみじみと心に深く感じるようすだ＝あはれなり［形動・ナリ］

しみじみとした趣がある＝あはれなり［形動・ナリ］例 烏の寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。［枕］訳 烏が寝ぐらに帰ろうとして、三羽四羽、また二羽三羽など急いで飛んで行く様子までしみじみとした趣がある。

（自然・人生などのすべての物事にふれて起こる）**しみじみとした感情**＝もののあはれ

しみじみとした情趣がある＝あはれなり［形動・ナリ］例 折節の移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。［徒然］訳 季節の移り変わるのは、何事につけてもしみじみと趣深い。

…**し申し上げる**［補助動詞］＝つかまつる（仕る）［動・四］

し申しあげる＝まゐる（参る）［動・四］

社会的なこと＝おほやけ（公）［名］

しゃがむ＝ゐる（居る）［動・上一］

しゃくだ＝ねたし（妬し）［形・ク］

じゃまになる＝さはる（障る）［動・四］

習慣＝さが（性）［名］

習慣となる＝ならふ（慣らふ・馴らふ）［動・四］

祝儀を与える＝かづく（被く）［動・下二］

周知の＝いはゆる（所謂）［連体］

酒宴などで楽しむこと＝あそび（遊び）［名］例 春さらば逢はむと思ひし梅の花今日の遊びに相見つるかも［万葉］訳 春が来たら逢おうと思っていた梅の花に、今日のこの宴会で出逢ったことだ。

（仏教での）**修行**＝おこなひ（行ひ）［名］

（仏道）**修業をする**（仏に花をあげたり、お経をあげることも含める）＝おこなふ（行ふ）［動・四］

宿命＝ちぎり（契り）［名］
主君＝あるじ（主・饗）［名］
趣向をこらす＝すく（好く）［動・四］
主人＝あるじ（主・饗）［名］［例］やまとうた、あるじもまらうともこと人も言ひ合へりけり。［土佐］［訳］和歌を、主人も客人も、他の人も、歌い合っていた。
主人＝きみ（君）［名］
主人として人をもてなすこと＝あるじ（饗応）［名］
手段＝たづき（方便）［名］
手段＝たより（便り・頼り）［名］
手段＝て（手）［名］
出家していない男性＝をとこ（男）［名］
出家姿になる＝やつる（窶る）［動・下二］
出家する＝やつす（俏す・窶す）［動・四］
出家する＝やつる（窶る）［動・下二］
出家をしていない男性＝をのこ（男）［名］
守備する＝まもる（守る）［動・四］
狩猟などで楽しむこと＝あそび（遊び）［名］
順序＝ついで［名］［例］死期はついでを待たず。［徒然］［訳］死ぬ時期は、順序を待ってくれない。［例］多くのついでを越してこそ、大臣（おとど）の位にはなしつれ。［宇津保］［訳］多くの順序をとび越して、大臣の位につけた。
準備＝いそぎ［名］［例］公事（くじ）ども繁く、春の急ぎにとり重ねて催し行はるる様ぞ、いみじきや。［徒然］［訳］朝廷の行事が多く、新春を迎える準備と重複して催しが行われる様子は、すばらしいものだ。
準備＝まうけ（設け）［名］［例］かぐや姫をかならずあはむまうけして、ひとり明し暮らし給ふ。［竹取］［訳］かぐや姫をきっと迎えようとする仕度をして、ひとりで暮らしていらっしゃる。
準備する＝まうく（設く）［動・下二］
準備をする＝いそぐ（急ぐ）［動・四］
生涯＝よ（世）［名］
障害になる＝さはる（障る）［動・四］
情がない＝つらし［形・ク］
情が深い＝あはれなり［形動・ナリ］
正気＝うつつ（現）［名］
情景＝けしき（気色）［名］［例］寄せては返す波のけしきも…［更級］［訳］寄せては返す波の情景も
上皇＝うへ（上）［名］
正直だ＝まめまめし（忠実忠実し）［形・シク］
消失する＝うす（失す）［動・下二］［例］白山にあへば光のうするかと…［竹取］［訳］白山（＝かぐや姫）に出会ったから光も失せるのかと
情趣＝けしき（気色）［名］
情趣を解さない＝かたくななり（頑なり）［形動・ナリ］［例］ことにかたくなる人ぞ、「この枝かの枝散りにけり。今は見所なし」などは言ふめる。［徒然］［訳］とりわけ情趣を解さない人が、「この枝もあの枝も（桜の花が）散ってしまった。今はもう見る価値はない」などと言うようだ。
情趣を解さない＝こころなし（心なし）［形・ク］［例］心なき身にもあはれは知られけり［新古今］［訳］情趣を解さない私にも、さすがにしみじみとものあわれが知られることだ。
情趣を解する＝こころあり（心有り）［連語］［例］身にしみて、心あらん友もがなと、都恋しうおぼゆれ。［徒然］［訳］身にしみて、情趣を解する友がいたらなあと、都が恋しく思われる。
上旬＝ついたち（朔日・一日）［名］
上手だ＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］

じょうずだ＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］例 物をいとうつくしく、ひねらせ給へば…［源氏］訳 物をとてもじょうずにねじ回しなさるので

上手だ＝うるせし［形・ク］

上手だ＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

肖像＝かた（形）［名］

装束をつける＝さうぞく（装束）［動・四］

承知する＝うけたまはる（承る）［動・四］例「今様一つうたへかし」とのたまへば、仏御前「承りさぶらふ」とて…［平家］訳「今様を一つうたえ」と（清盛が）おっしゃると、仏御前は「承知しました」といって

承知する＝こころう（心得）［動・下二］

賞美すべきだ＝めでたし［形・ク］

上品だ＝あてなり（貴なり）［形動・ナリ］例 ただ文字一つに、あやしう、あてにもいやしうもなるは…［枕］訳 ただ文字一つで、不思議に、上品にも下品にもなるのは

上品だ＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］例 かぐや姫のかたち、いうにおはすなり。［竹取］訳 かぐや姫の容貌は、上品でしっとりとしていらっしゃるそうだ。

上品だ＝こころにくし（心憎し）［形・ク］

上品だ＝なまめかし［形・シク］

上品だ＝やさし（優し・羞し）［形・シク］

上品できれいだ＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］

上品で優雅なこと＝みやび（雅び）［名］

上品で優雅なふるまいをする＝なまめく（生めく・艶めく）［動・四］

丈夫だ＝まめなり（真実なり・忠実なり）［形動・ナリ］

（太くて）**丈夫である**＝ふっつかなり（不束なり）［形動・ナリ］例 見れば、いと大きやかにふっつかに肥えたまへる…［宇津保］訳 見ると、たいそう大きく丈夫そうに肥えていらっしゃる

将来性＝おひさき（生ひ先）［名］

将来のことが安心だ＝うしろやすし（後ろ安し）［形・ク］

将来のこと（＝結婚スルコトナド）**を約束する**＝かたらふ（語らふ）［動・四］

（男女にかかわらず）**上流貴族の子弟**＝きんだち（君達・公達）［名］

食事をする＝したたむ（認む）［動・下二］例 忠信は酒も飯もしたためずして…［義経］訳 忠信は、酒も飯も飲まず食わずで

食事を召し上がる＝たてまつる（奉る）［動・四］

食事を召し上がる＝まゐる（参る）［動・四］

女性＝をんな（女）［名］

書風＝て（手）［名］

書物＝ふみ（文・書）［名］例 史記などといふふみは…［源氏］訳 史記などといふ書物は

処理する＝おこなふ（行ふ）［動・四］

処理する＝したたむ（認む）［動・下二］

処理する＝もてなす［動・四］

知らないこと＝くまなし（隈なし）［形・ク］

（…する）**しりから**＝かつ（且つ）［副］

知りたい＝いぶかし（訝し・審し）［形・シク］

知りたい＝ゆかし（床し）［形・シク］

思慮＝たましひ（魂）［名］

思慮がある＝こころあり（心有り）［連語］例 下臈のはてにさうらへば、心あるべきではさうらはねども…［平家］訳 最低の身分ですので、思慮があるはずはありませんが

思慮が足りない＝ふっつかなり（不束な

り）［形動・ナリ］

思慮がない＝こころなし（心無し）［形・ク］例 心なしと見ゆる者も、よき一言は言ふものなり。［徒然］訳 思慮がないように見える者も、よい一言は言うものだ。

思慮分別のある＝おとなし（大人し）［形・シク］

知る＝しる（知る）［動・四］

じれったい＝こころもとなし（心もとなし）［形・ク］例 人の歌の返しとくすべきを、え詠み得ぬほども心もとなし。［枕］訳 人の歌への返歌を早くすべきなのに、詠むことができない時もじれったい。

じれったい＝もどかし［形・シク］

心外だ＝めざまし（目覚まし）［形・シク］例「かくことなることなき人をゐておはして、時めかしたまふこそ、いとめざましくつらけれ」［源氏］訳「こんなとりえのない女を連れていらっしゃって、ご寵愛なさるのは、実に心外で悔しい」

人家がある程度集まっている所＝さと（里）［名］

信じる＝たのむ（頼む）［動・四］

新鮮だ＝めづらし（珍し）［形・シク］例 かくて明けゆく空のけしき、きのふには変はりたりとは見えねど、ひきかへめづらしき心地ぞする。［徒然］訳 こうして明けてゆく（元旦の）空の様子は、昨日と変わっているとは見えないが、うってかわって新鮮な感じがする。

心配する＝うれふ（憂ふ）［動・下二］

心配だ＝うしろめたし（後ろめたし）［形・ク］例「いとはかなうものしたまふこそ、あはれにうしろめたけれ」［源氏］訳「たいそう子どもっぽくていらっしゃることが、気の毒だし気がかりだ」

神秘的だ＝あやし（怪し・奇し・異し）［形・シク］

人品＝けはひ［名］

神仏に祈る＝ねんず（念ず）［動・サ変］

信望＝おぼえ（覚え）［名］

しんみりとしてさびしい＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］

信頼する＝たのむ（頼む）［動・四］

信頼できない＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］

す

水中にもぐる＝かづく（潜く）［動・四］

数日＝ひごろ（日頃）［副］

数年間＝としごろ（年頃）［名］例 年ごろにさへなりにける。［源氏］訳 数年間にまでもなってしまった。

数年の間＝としごろ（年頃）［副］

数年来＝としごろ（年頃）［副］

すがすがしい＝さやけし（清けし）［形・ク］

姿＝かげ（影・陰）［名］

姿＝かたち（形・容貌）［名］

姿を現す＝みゆ（見ゆ）［動・下二］例「などか久しく見えざりつる。遠ざかる昔の名残にも思ふを」［和泉］訳「どうして長く（姿を）見せなかったの。遠ざかっていく昔の名残にも思っているのに」

（めだたないように）**姿を変える**＝やつす（俏す・窶す）［動・四］

（利発で）**すきがない**＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

（時が）**過ぎてしまう**＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］例 あはれ今年の秋もいぬめり［千載］訳 ああ、今年の秋も

過ぎ去ってしまうようだ。

すき間＝ひま（隙・暇）［名］例 関白殿、黒戸より出でさせたまふとて、女房のひまなくさぶらふを、［枕］訳 関白殿が、黒戸（の部屋）からお出になるというので、女房たちがすき間もなく（並んで）伺候しているのを

（時が）**過ぎる**＝ふ（経）［動・下二］

過ぎる＝わたる（渡る）［動・四］

（手で）**すくう**＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］袖ひちてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ［古今］訳（夏）袖もぬれて手ですくった水が（冬の間）凍っていたのを、立春の今日の風が今ごろとかしているだろうか。

少なくともこのことだけは＝せめて［副］

すぐに＝かつ（且つ）［副］

すぐに＝すなはち（即ち）［副］例 立てこめたるところの戸、すなはちただ開きに開きぬ。［竹取］訳（かぐや姫を）閉じこめてあった所の戸は、すぐにたださっと開いてしまった。

すぐに＝やがて（聽て）［副］例 名を聞くより、やがて面影はおしはからるる心地するを…［徒然］訳 名前を聞くやいなや、すぐにその人の顔かたちは推量される心持ちがするのに

優れた＝さるべき（然るべき）［連語］

すぐれていてりっぱだ＝かしこし（賢し）［形・ク］

優れている＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］

優れている＝いたし（甚し・痛し）［形・ク］

優れている＝いみじ［形・シク］

優れている＝かしこし（賢し）［形・ク］例「北山になむ、……かしこき行ひ人はべる」［源氏］訳「北山に、……優れた修行者がおります」

優れている＝さかし（賢し）［形・シク］

（こちらが気がひけるぐらい相手が）**優れている**＝はづかし（恥づかし）［形・シク］

すぐれている＝よし（善し・良し・好し）［形・ク］

優れている＝をかし［形・シク］

すぐれて賢い＝さかし（賢し）［形・シク］

すぐれる＝たふ（耐ふ・堪ふ）［動・下二］

すげない＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

（もの）**すごい**＝おどろおどろし［形・シク］例 おどろおどろしう泣く。［蜻蛉］訳 ものすごく泣く。

少しも（下に打消を伴う）＝おほかた（大方）［副］

少しも…（ない）（下に打消の語「ず・じ・まじ・なし」などを伴う）＝さらに…（ず）（更に）［副］

少しも…（ない）（下に打消の語を伴う）＝たえて…（ず）（絶えて）［副］

少しも…（ない）（下に打消の語を伴う）＝つやつや…（ず）［副］

少しも…**ない**（打消を伴う）＝つゆ［副］例 年月経ても、つゆ忘るるにはあらねど…［徒然］訳 年月が経っても、少しも忘れるわけではないけれど 例 木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふものなし。［徒然］訳 木の葉にうずまった懸樋の水の音以外には、少しも音をたてるものがない。

少しも（下に打消の語を伴う）＝よに（世に）［副］

少しも（下に打消の語を伴う）＝をさをさ［副］例 冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。［徒然］訳 冬枯れのありさまは、秋（の風情）に少しも劣らないであろう。

筋が通らない＝あやなし（文無し）［形・ク］
すじみち＝あやめ（文目）［名］
筋道＝ことわり（理）［名］
筋道をたてて説明する＝ことわる（理る・断る）［動・四］
進ませる＝やる（遣る）［動・四］
進む＝わく（分く・別く）［動・下二］
（物事がいよいよ）**すすむこと**＝すさび（荒び・進び・遊び）［名］［例］すきずきしき心のすさびにて、［源氏］［訳］好色めいた心にひかれるまま、
進んで…する（補助動詞として用いる）＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］
すだれごしに見る＝みいだす（見出す）［動・四］
すだれなどをたれて家の中にこもる＝たれこむ（垂れ込む）［動・下二］
すっかり＝さながら（然ながら）［副］
すっかり＝たえて…（ず）（絶えて）［副］
すっかり困る＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
すっかり…する＝あふ（敢ふ）［動・下二］
すっかり…する＝はつ（果つ）［動・下二］
ずっと…（し）続ける＝ありく（歩く）［動・四］［例］悲しくのみ思ひありくほどに…［大和］［訳］ずっとただ悲しいとだけ思い続けるうちに
ずっと…（し）続ける＝わたる（渡る）［動・四］［例］年ごろ夫婦相共に住みわたりける…［今昔］［訳］長年、ある夫婦がともにずっと住み続けていた
すっぽりと頭にかぶる＝かづく（被く）［動・四］
すてきだ＝めでたし［形・ク］
捨てておけない＝やむごとなし［形・ク］［例］文もあまたはえ書かず。ただやむごとなき所ひとつにぞおとづれきこゆる。［十六夜］［訳］手紙もたくさんは書くことができない。ただ捨てておけない所一箇所だけに便りを差し上げる。
捨ててはおけない＝やむごとなし［形・ク］
すでに周知の＝いはゆる（所謂）［連体］［例］いはゆる重盛が無才愚闇の身をもって…［平家］［訳］周知のとおりのわたし（重盛）のような無才愚闇の身で
すなわち＝やがて［副］
すばらしい＝あたらし（惜し）［形・シク］
すばらしい＝いうなり（優なり）［形動・ナリ］［例］常よりもいうに書きたまへるかな。［源氏］［訳］いつもよりもすばらしくお書きになったものだなあ。
すばらしい＝いたし（甚し）［形・ク］
すばらしい＝いみじ［形・シク］［例］「隆家こそ、いみじき骨は得てはべれ」［枕］［訳］「隆家は、すばらしい骨を手に入れました」
（言いようもなく）**すばらしい**＝えもいはず（えも言はず）［慣用句］［例］えも言はぬ匂ひの、さと薫りたる…［徒然］［訳］何とも言えずすばらしい匂いがさっと薫ってくる
すばらしい＝すごし（凄し）［形・ク］
すばらしい＝めざまし［形・シク］［例］けたかきさまして、めざましうもありけるかな。［源氏］［訳］品ある様子で、格別すばらしくもあったなあ。
すばらしい＝めづらし（珍し）［形・シク］
すばらしい＝めでたし［形・ク］［例］藤の花は、しなひ長く、色濃く咲きたる、いとめでたし。［枕］［訳］藤の花は、しなやかに垂れた花房が長く、色濃く咲いているのが、とてもすばらしい。［例］上手とはきこしめしけれど、かばかりは思しめさず、いとこそめでたけれ。［十訓］［訳］名人とはお聞きになってい

たけれども、これほどの名人とはお思いではなく、実にすばらしい。

すばらしい＝ゆゆし［形・シク］

すべて＝なべて（並べて）［副］例 なべて厭はしくなり給ひて…［源氏］訳 すべてわずらわしくおなりになって

すべてのこと＝よろづ（万）［名］

住む＝あり（有り）［動・ラ変］

住む＝ゐる（居る）［動・上一］

する＝おこなふ（行ふ）［動・四］（何かの動作を）**する**＝す（為）［動・サ変］（何かを）**する**＜動作内容をほのめかす＞＝ものす（物す）［動・サ変］例 消息などものすれど…［宇津保］訳 手紙などを書くけれど（「書く」の代用）

…するかもしれない＝もこそ［連語］

…することができない＝え…＜打消＞［副］例 四日、風吹けば、えいで立たず。［土佐］訳 四日、風が吹くので、出立することができない。（何も）**することがない**＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］

することがなく退屈だ＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］例 つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて［徒然］訳 退屈なのにまかせて、一日中、硯に向かって

することもない＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］例 つれづれなるままに、日暮らし硯に向かひて…［徒然］訳 これといってすることもないままに、一日中硯に向かって

…するしりから＝かつ（且つ）［副］

鋭い＝とし（利し）［形・ク］

…するな＝な…そ例「なにか射る。な射そ。な射そ」［大鏡］訳「どうして射るのだ。射るな。射るな」

…するのがいやだ＝うし（憂し）［形・ク］＜動詞の連用形につく＞例 あしたの床ぞ起き憂かりける［古今］訳 翌朝の寝床から起き上がるのがつらいことだ。

…するのに困る＝わづらふ（煩ふ）［動・四］＜動詞の連用形につく＞例 川舟の上りわづらふ綱手なは［新古今］訳 川舟が急流を上るのに苦しんでその舟を引く縄 類語 なやむ＜①苦しむ、②病気する、③非難する＞

…するのに悩む＝わづらふ（煩ふ）［動・四］

…するやいなや＝ままに［連語］

座ったままの形でひざで進む＝ゐざる（居ざる）［動・四］

すわる＝なみゐる（並み居る）［動・上一］

座る＝ゐる（居る）［動・上一］例 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。［竹取］訳 三寸ぐらいの人が、たいそうかわいらしい様子で座っていた。

座る＝ゐる（居る）［動・上一］例 年いみじく老いたる嫗の白髪白きが、その死人の枕上にゐて、死人の上をかなぐり抜き取るなりけり。［今昔］訳 たいそう年をとった老婆で白髪の白い者が、その死人の枕元に座って、死人の髪を手荒く抜き取っているのであった。

せ

生活の手段＝たづき（方便）［名］

（貴人の）**正妻の敬称**＝きたのかた（北の方）［名］

政治＝よ（世・代）［名］

正式に＝わざと（態と）［副］例 わざとの御学問…［源氏］訳 正式の御学問（漢学のこと）

性質＝さが（性）［名］

性質がよくない＝さがなし（性なし）［形・ク］例 春宮の女御のいとさがなくて…［源氏］訳 春宮の（母である弘徽殿の）女御がひどく意地が悪くて

誠実だ＝げにげにし（実に実にし）［形・シク］

誠実だ＝まめなり（忠実なり・真実なり）［形動・ナリ］例 まめに思はむといふ人につきて、人の国へ往にけり。［伊勢］訳（女は）誠実に愛するよと言う人について、ほかの地方へ行ってしまった。

誠実だ＝まめまめし（真実真実し）［形・シク］例 いかによしなかりける心なりと思ひしみはてて、まめまめしく過ぐすならば…［更級］訳 なんともたわいもない心であったことよと、心から深く思って、誠実に過ごすのであるなら

政治をとる＝まつりごつ（政ごつ）［動・四］

精神＝こころ（心）［名］

精神＝たましひ（魂）［名］

清新だ＝めづらし（珍し）［形・シク］

聖人＝ひじり（聖）［名］

成長していく先＝おひさき（生ひ先）［名］例 いみじく生ひ先見えて、うつくしげなるかたちなり。［源氏］訳 成長してゆく先（の美しさ）がたいそうよくしのばれて、かわいらしい容貌である。

（他の）**せいにする**＝かこつ（託つ）［動・四］

（元服して）**成年に達した男子**＝をとこ（男）［名］

政務をとる＝まつりごつ（政ごつ）［動・四］

清明である＝さやけし（清けし）［形・ク］

勢力が盛んだ＝ののしる（罵る）［動・四］

世間＝よ（世）［名］

世間＝よのなか（世の中）［名］

世間知らずだ＝さとぶ（里ぶ・俚ぶ）［動・上二］

世間で言われている＝いはゆる（所謂）［連体］例 うたてものたまふかな。いはゆるあて宮ぞかし。［宇津保］訳 とんでもない事をおっしゃいますね。世に言う評判のあて宮でございますよ。

切実だ＝せめて［副］

摂政＝いちのひと（一の人）［名］

絶対に…し（ない）＜下に打消の語を伴う＞＝よに…（ず）（世に）［副］

絶対に…するな＝ゆめゆめ（努々）［副］例 我ありといふことを、ゆめゆめ人に語るべからず。［宇治］訳 私がいるということを、絶対に人に話してはいけない。

説得して仲間に入れる＝かたらふ（語らふ）［動・四］

せつない＝うし（憂し）［形・ク］

設備する＝まうく（設く）［動・下二］

説明する＝ことわる（理る・断る）［動・四］

説明できないほどつらい＝わりなし（理無し）［形・ク］

…せていただく［補助動詞］＝たまふ（給ふ・賜ふ）［動・下二］例 思ひたまへよらざりし御有様を見たまふれば…［源氏］訳 存じよりませんでした御様子を見させていただくと（「思ひたまふ」「知りたまふ」は＜存じます＞と訳すとよい場合が多い）

…せなさる＝せたまふ（せ給ふ）［連語］例 人々に歌をよませたまふ。［伊勢］訳（大将は）人々に歌をよませなさる。

世評＝よのなか（世の中）［名］

狭い＝ところせし（所狭し）［形・ク］

せわしくする＝いそぐ（急ぐ）［動・四］

世話をする＝かしづく（傳く）［動・四］
世話をする＝みいる（見入る）［動・下二］
世話をする＝みる（見る）［動・上一］
世話をする＝もてなす［動・四］
先刻の＝ありつる［連体］
前世＝よ（世）［名］
前世からの因縁＝ちぎり（契り）［名］例 前の世にも御契りや深かりけん［源氏］訳 前世からもご因縁が深かったのであろうか
全然（下に打消を伴う）＝さながら（然ながら）［副］例 人に交はれば、言葉よその聞きに従ひて、さながら心にあらず。［徒然］訳 人に交わると、言葉は人の風聞にしたがって、全然（自分の）心のままではない。
全然＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］
全然…ない＝つやつや［副］例 木の葉をかきのけたれど、つやつや物も見えず。［徒然］訳 木の葉をかきわけてみたけれども、いっこうに何も見えない。
全然…ない（打消を伴う）＝つゆ［副］例 殿におはし着きても、つゆまどろまれたまはず。［源氏］訳 御殿にご到着なさっても、全くお眠りになることもできない。例 年月経ても、つゆ忘るるにはあらねど…［徒然］訳 年月が経っても、少しも忘れるわけではないけれど
全体として＝おほかた［大方］［副］
前年＝こぞ（去年）［名］
全部＝さながら［副］
洗練されている＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

そ

そう＝さ（然）［副］例 いやしき言もわろき言も、さと知りながら、ことさらに言ひたるはあしうもあらず。［枕］訳 下品な言葉でも、よくない言葉でも、そうと知りながら、わざと使っているのは悪いわけではない。
そう＝しか（然）［副］例 年ふればよはひは老いぬしかはあれど花をし見ればもの思ひもなし［古今］訳 年月を重ねるので、この身は老いてしまったな。そうではあるが、この桜の花を見ていると、なんの憂いもない。
僧＝ひじり（聖）［名］
そうありたい＝あらまほし（有らまほし）［形・シク］例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。［徒然］訳 住まいが調和がとれていて理想的であるのは、短い人生の一時の宿とは思っても、興趣あるものだ。
そういう状態で＝さて（然て）［副］
相違する＝たがふ（違ふ）［動・四］
奏上する＝そうす（奏す）［動・サ変］
そうぞうしい＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］
そうだから＝されば（然れば）［接続］
早朝＝つとめて［名］例 冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。［枕］訳 冬は早朝。雪が降っているのは言うまでもない。
そうである＝さり（然り）［動・ラ変］
そうでない＝さらぬ（然らぬ・避らぬ）［連語］
そうでなくてさえ＝いとど［副］例 これは四十たりの子にて、いとど五月にさへ生まれてむつかしきなり。［大鏡］訳 この子は父親が四十歳のときの子で、そうでなくてさえ（親に崇るという）五月に生まれたので、どうも気にかかることである。
そうではあるけれども＝さるは［接続］

そうではあるけれども＝されど（然れど）［接続］

相当だ＝さり（然り）［動・ラ変］例 別当入道さる人にて…［徒然］訳 別当入道は相当な人であって

相当だ＝よろし（宜し）［形・シク］

相当の＝さるべき（然るべき）［連語］

そうなる運命の＝さるべき（然るべき）［連語］例 さるべき契りこそおはしけめ。［源氏］訳 そうなるはずの前世からの因縁がおありになったのだろう。

そうなるはずの＝さるべき（然るべき）［連語］

そうはいうもののやはり＝さすがに［副］例「いで、ただなすげそ」といふを、さすがになどてかと思ひ顔にえ去らぬ、にくささへ添ひたり。［枕］訳「さあ、（針に糸を）もう通さないでいいわ。」というのを、そうはいうもののやはりどうして（そのまま通さずに）おかれようかと思っている顔つきでその場を立ち去りかねているのは（じれったさのうえに）憎らしさまでも加わるのである。例 沖の釣り舟の波に消え入るやうに覚ゆるが、さすがに沈みも果てぬを、［平家］訳 沖の釣り舟が波に消え入るように思われるが、そうは言うもののやはり沈みきってはしまわない様子を、

そうばかりでもない＝さすがなり［形動・ナリ］

そうもゆかない＝さすがなり［形動・ナリ］

添える＝ぐす（具す）［動・サ変］例 三重がさねの袴（はかま）具して、賜ふ。［源氏］訳 三重がさねの袴を添えて、お与えになる。

疎遠になる＝かる（離る）［動・下二］

俗世間＝うきよ（憂き世）［名］

俗世間＝よのなか（世の中）［名］

束縛するもの＝ほだし（絆）［名］

素質＝たましひ（魂）［名］

そして＝さて（然て）［接続］

育てる＝かしづく（傳く）［動・四］

そっくりそのままの状態で＝さながら（然ながら）［副］

そっけない＝はしたなし（端なし）［形・ク］

素直でない＝ひがひがし（僻僻し）［形・シク］

そっと＝みそかなり（密かなり）［形動・ナリ］＜連用形で用いる＞

そっと＝やをら［副］

ぞっとするほどこわい＝すごし（凄し）［形・ク］

ぞっとするほどすばらしい＝すごし（凄し）［形・ク］

そでがぬれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

外から家の中を見る＝みいる（見入る）［動・下二］

外に現れる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

（家の中から）**外を見る**＝みいだす（見出す）［動・四］

そなえる＝ぐす（具す）［動・サ変］

そなわる＝ぐす（具す）［動・サ変］

その形に似せてつくったもの＝かた（形）［名］

そのくせ実は＝さるは（然るは）［接続］

その頃＝そのかみ（其の上）［名］

そのために＝さるは（然るは）［接続］

その当時＝そのかみ（其の上）［名］

そのとおり＝しか（然）［副］

そのとおりだ＝さり（然り）［動・サ変］例「おい、さり、さり」とうなづきて…［源氏］訳「おお、そのとおりだ、そのとおりだ」とうなずいて

そのとおりだ＝しるし（著し）［形・ク］例 世の乱るる端相（ずいさう）とか聞きおけるもしるく…［方丈］訳 世が乱れる前兆だとか

聞いていた、そのとおりで

(一応)**そのとおりだが**＝さるものにて(然るものにて)[連語]例 それもさるものにて、訳 それはそのとおりだが、

その時＝そのかみ(其の上)[名]

その日の朝＝あした(朝)[名]

そのほかの＝さらぬ(然らぬ・避らぬ)[連語]例 宮の大夫、春宮の大夫など、さらぬ上達部も、あまたさぶらひたまふ。[紫日記]訳 中宮職の長官や、東宮職の長官など、そのほかの公卿たちも、たくさん伺候していらっしゃる。

そのまま＝さながら[副]例 衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。[宇治]訳 衣服を身につけない妻子なども、そのまま家の中にいた。例 昔の枕の、さながら変はらぬを見るも…[十六夜]訳 昔の枕が、そのまま変わらずにあるのを見るにつけても

そのまま＝やがて(軈て)[副]例 筆にも書き止めぬれば、やがて定まりぬ。[徒然]訳 文字にして書き止めてしまうと、そのまま定説になってしまう。例 音に聞きし猫また、あやまたず足許へふと寄り来て、やがてかきつくままに、頸のほどを食はんとす。[徒然]訳 うわさに聞いていた猫またが、ちょうど足もとにすっと寄って来て、そのままとびつくやいなや、首のあたりを食おうとする

そのままにしておけない＝やむごとなし[形・ク]

そのままで＝さて(然て)[副]

そのままに捨ててはおけない＝やむごとなし[形・ク]

そのままになる＝やむ(止む)[動・四]

そのまま見すてておく＝もだす(黙す)[動・四／サ変]

そのようだ＝さり(然り)[動・ラ変]

そのような＝さる(然る)[連体]

そのように＝さ(然)[副]

そのように＝しか(然)[副]例 わが庵は都のたつみしかぞ住む世をうぢ山と人は言ふなり[古今]訳 私の草庵は都の東南にあり、このように(心安らかに)住んでいる。(だが)人々は、世の中を嫌うという意味の宇治山と言っているそうだ。

(前夜、何かがあって)**その翌朝**＝つとめて[名]

そのわけは＝さるは(然るは)[接続]

そばにいて苦々しい＝かたはらいたし(傍ら痛し)[形・ク]

粗末だ＝あやし(賤し)[形・シク]例 花の名は人めきて、かうあやしき垣根になむ咲きはべりける。[源氏]訳(夕顔という)花の名は一人前らしいのに、こうして粗末な垣根に咲くのでございました。例 水無月のころ、あやしき家に、夕顔の白く見えて、蚊遣火ふすぶるもあはれなり。[徒然]訳 六月のころ、そまつな家に、夕顔が白く見えて、蚊遣火が煙っているのも情趣がある。

そまつだ＝おろそかなり(疎かなり)[形動・ナリ]例「おほやけの奉り物は、おろそかなるをもってよしとす」とこそはべれ。[徒然]訳「天皇のお召し物は、簡素なものをよいとする」と書いてあります。

染まる＝にほふ(匂ふ)[動・四]

背く＝たがふ(違ふ)[動・四／下二]

そもそも＝されば(然れば)[感動]

空＝くもゐ(雲居)[名]

それがすなわち＝やがて[副]

それぞれに＝かたみに(互に)[副]例 契りきなかたみに袖をしぼりつつ…[後拾遺]訳 お互いに袖をしぼって泣いては…と約束したのだが

それだけ＝かぎり(限り)[名]

それというのは＝さるは［接続］

それというのも＝さるは（然るは）［接続］

それならば＝さらば（然らば）［接続］例 木曾、「さらば」とて、粟津の松原へぞ駆けたまふ。［平家］訳 木曾は、「それならば」と言って、（自害するために）粟津の松原へ馬を走らせなさる。

それにしても＝さるは［接続］

それにもかかわらず＝さるは（然るは）［接続］

それはそうだが＝さるは（然るは）［接続］例 うちとくまじきもの、えせ者。さるは、よしと人に言はるる人よりも、うらなくぞ見ゆる。［枕］訳 気の許せないものは、つまらぬ者。それはそうだが、りっぱだと人から言われる人よりは、隠しだてする所なく見えるものだ。

それはともかくとして＝さるものにて（然るものにて）［連語］

それほど…（ではない）＝いたし（甚し）［形・ク］

それほど［下に打消を伴う］＝いと［副］例 いとやむごとなききはにはあらぬが［源氏］訳 たいして高い身分ではない方で

それゆえ＝されば（然れば）［接続／感動］例 三人の人ただ琴のみを弾く。されば、添ひゐて習ふに…［宇津保］訳 三人の人はただ琴だけを弾いている。それゆえ、そばについて習うが

そろう＝ぐす（具す）［動・サ変］例 親うち具し、さしあたりて世の覚えはなやかなる御方々にも劣らず…［源氏］訳 両親がちゃんとそろい、当面、世間の評判もきわだってよい方々にもひけをとらないくらい

尊敬する値打ちがある＝こころにくし（心にくし）［形・ク］

存在する＝あり（有り）［動・ラ変］

そんなにたくさん＝ここら・そこら［副］

た

退屈だ＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］

たいしたことでない＝さらぬ（然らぬ・避らぬ）［連語］

たいして［打消を伴う］＝いと［副］例 いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。［源氏］訳 たいして重々しい家柄ではない方で、目立って帝のご寵愛をうけていらっしゃる方がいた。

たいして…ない［打消を伴う］＝けしう（異しう・怪しう）［副］

たいしてよくない［打消を伴う］＝けしう（異しう・怪しう）［副］

たいして悪くない［打消を伴う］＝けしう（異しう・怪しう）［副］例 家兼もけしうは侍らぬをのこなり。［大鏡］訳 家兼もたいして悪くはない男である。

大事に育てる＝かしづく（傳く）［動・四］例 なべてならぬさまに親たちかしづき給ふこと限りなし。［堤中］訳 ひととおりではない様子で親たちが大事に育てなさることはこの上ない。

退出する＝まかづ（罷づ）［動・下二］例 十八日、清水にまうづる人に、また忍びてまじりたり。初夜果ててまかづれば、時は子ばかりなり。［蜻蛉］訳 十八日、清水寺に参詣する人に、またこっそり同行した。初夜の勤行が終って退出すると、時刻は午前0時ごろであった。

退出する＝まかる（罷る）［動・四］例 憶良らは今はまからむ子泣くらむ…［万葉］訳 憶良はもう退出しよう。（家

では）子が泣いているだろう。

退出する＝ゐざる（居ざる）［動・四］

大臣・公卿などの敬称＝おとど（大臣）［名］

大切だ＝いたはし［形・シク］

大切だ＝やむごとなし［形・ク］

大切にする＝かしづく（傅く）［動・四］

例 疑ひなき儲けの君と、世にもてかしづき聞こゆれど…［源氏］訳 疑いもなく皇太子にお立ちになるお方として、世をあげて大切にし申し上げてはいるけれども

たいせつに世話をする＝かしづく（傅く）［動・四］

大切に育てる＝かしづく（傅く）［動・四］例 按察使の大納言の御むすめ、心にくくなべてならぬさまに、親たちかしづきたまふこと限りなし。［堤中］訳 按察使の大納言の姫君は、奥ゆかしく際立ってすばらしい様子に（させようと）、親たちが大切に育てなさることはこの上ない。

たいそう＝あまた（数多）［副］

たいそう＝いたし（甚し・痛し）［形・ク］例 娘かしづきたる家、いといたしかし。［源氏］訳 娘を大切に育てている家は、たいそう優れている。

たいそう＝いと［副］例 雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。［枕］訳 雁などの連なって飛んでいくのが、とても小さく見えるのは、たいそう趣がある。

たいそう＝えもいはず（えも言はず）［連語］

たいそう＝ここら（幾許）［副］例 ここらおほくおはする宮たちの…［栄花］訳 たいそうたくさんいらっしゃる宮さまがたの

たいそう＝ゆゆし（由々し・忌々し）［形・シク］

たいそうだ＝いみじ［形・シク］例 人間にも月を見てはいみじう泣き給ふ。［竹取］訳 人目をぬすんでは月を見てたいそうお泣きになる。

だいたい＝おほかた…（ず）（大方）［副］

態度＝けしき（気色）［名］

たいへん＝ここら・そこら［副］

たいへんだ＝いみじ［形・シク］→「…したらたいへんだ」参照

怠慢だ＝たいだいし（怠々し）［形・シク］例 いとたいだいしき御ことにもあるかな。［大鏡］訳 ほんとうに怠慢なことであることだ。

対面する＝あふ（会ふ・逢ふ）［動・四］

…**たいものだ**＝ばや［助］例 思ふやうならむ人を据ゑて住まばや。［源氏］訳 理想どおりの人を迎えて暮らしたいものだ。

内裏＝うち（内・内裏）［名］例 またの年の八月に、内へ入らせたまふに…［更級］訳 翌年の八月に、宮中にお入りになるときに

たえがたい＝やさし（優し・羞し）［形・シク］例 世の中を憂しとやさしと思へども…［万葉］訳 この世をつらい、たえがたいと思うけれども

耐えがたい＝わりなし［形・ク］

たえきれない＝つらし［形・ク］

絶え間＝ひま（隙・暇）［名］

耐える＝あふ（敢ふ）［動・下二］例 秋風に敢へず散りぬるもみぢ葉の行方さだめぬわれぞ悲しき［古今］訳 秋風に耐えられないで散ってしまうもみじ葉の行方が定まらない。そのように、行く末がどうなるのかわからないわが身が悲しいことよ。

耐える＝しのぶ（忍ぶ）［動・上二／四］

（時間的に）**絶える**＝かる（離る）［動・下二］

絶える＝やむ（止む・已む）［動・四］例 風・波やまねば、なほ同じ所にあり。

[土佐] 訳 風や波がやまないので、やはり同じ所にいる。

互いに＝かたみに（互に）[副] 例 とまるも行くも限りとてかたみに思ふちよろづの心のはしをひとことに幸くとばかり歌ふなり[蛍の光] 訳 とどまる者も行く者も、今日限り。互いにいろいろな思いがあるのだけれど、たった一言、「幸あれ」とだけ歌って、別れの言葉としよう。例 かたみに居替はりて、羽の上の霜払ふ。[枕] 訳（水鳥は夫婦が）互いに位置をかわって羽の上の霜を払う。

互いに親しく交わる＝かたらふ（語らふ）[動・四]

互いに…する＝あふ（合ふ）[動・四]

たがえる＝たがふ（違ふ）[動・下二] 例 思ふ方の風にて、限りける日たがへず入り給ひぬ。[源氏] 訳 順風が吹いたので、予定の日をたがえずに（京に）お入りになった。

だから＝されば（然れば）[接続] 例 一銭軽しといへども、これを重ぬれば、貧しき人を富める人となす。されば、商人の一銭を惜しむ心、切なり。[徒然] 訳 一銭は価値が低いというが、これを積み重ると、貧しい人を富んだ人とする。だから、商人が一銭を惜しむ心は、切実である

たぐいまれだ＝めづらし（珍し）[形・シク]

たくさん＝あまた（数多）[副] 例 女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に…[源氏] 訳 女御や更衣がおおぜいお仕えしていらっしゃる中に 例 この馬、同じさまなる馬を、あまた具して来にけり。[著聞] 訳 この馬は、同じような（立派な）馬を、たくさん連れて来た。

たくさん＝ここだ [副]

たくさん＝ここら（幾許）[副] 例 古物語はここらあるが中にも、此の源氏のは…[玉の小櫛] 訳 昔の物語はたくさんある中でも、この源氏物語は、

たくさん＝そこら [副]

たくさん＝よろづ（万）[名] 例 大和歌は人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。[古今・仮名序] 訳 和歌は、いわば人間の心を種として生い繁った、たくさんの言語の葉となったものだ。

巧みだ＝らうらうじ（労々じ）[形・シク] 例 いとらうらうじく歌よみたまふことも…[大和] 訳 たいそう巧みに歌をお詠みになることも

…たことよ＝けらし [助動＋助動] 例 まことに愛すべき山の姿なりけらし。[鹿島] 訳 本当に愛すべき山の姿であったことよ。

確かに＝げに（実に）[副]

たしなみが深い＝ゆゑゆゑし（故々し）[形・シク]

だしぬけだ＝うちつけなり（打ち付けなり）[形動・ナリ]

太政大臣＝いちのひと（一の人）[名]

出す＝いづ（出づ）[動・下二] 例 乱るる心、言に出でて、言はばゆゆしみ…[万葉] 訳 乱れる心を言葉に出して言うと不吉だからと

（ものを）尋ねる＝とふ（問ふ・訪ふ）[動・四]

戦う＝あふ（合ふ・会ふ・逢ふ）[動・四]

（心がけが）正しい＝よし（善し・良し・好し）[形・ク]

直ちに＝やがて（軈て）[副] 例 名を聞くより、やがて面影はおしはからるる心地するを…[徒然] 訳 名前を聞くやいなや、すぐにその人の顔かたちは推量される心持ちがするのに

ただでさえ＝いとど [副]

ただもう＝あいなし［形・ク］［連用形で用いる］

…ただろうものを＝てまし［連語］例 昼ならましかば、のぞきて見たてまつりてまし。［源氏］訳 昼間であったならば、のぞいて拝見しただろうものを。

だだをこねる＝むつかる（憤る）［動・四］

たちが悪い＝さがなし（性なし）［形・ク］

たちまち＝あからさまなり［形動・ナリ］

立ち向かう＝あふ（合ふ・会ふ・逢ふ）［動・四］例 打物（うちもの）もっては鬼にも神にもあはうどいふ一人当千のつはものなり。［平家］訳 刀をとっては鬼にも神にも立ち向かおうという一人当千のつわものである。

（時が）**たつ**＝ふ（経）［動・下二］

尊い＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］

貴い＝やむごとなし［形・ク］

他と違っている様子＝こと（異・殊）［名］

他に比べてすぐれている様子＝こと（異・殊）［名］

…たにちがいない＝けらし［助動＋助動］例 吾妹子（わきもこ）は常世（とこよ）の国に住みけらし昔見しより復（を）ちましにけり［万葉］訳 あなたは不老不死の国に住んでいたにちがいない。昔見たときより若返りなさったことよ。

楽しい＝おもしろし［形・ク］

（狩猟・酒宴や行楽・遊戯などで）**楽しむこと**＝あそび（遊び）［名］

楽しんで…する（補助動詞として用いる）＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］

他のせいにする＝かこつ（託つ）［動・四］

頼み＝たより（便り・頼り）［名］

頼みがいがある＝はかばかし［形・シク］

頼みとなるもの＝たより（頼り・便り）［名］例 年ごろ経（ふ）るほどに、女、親なく、たよりなくなるままに［伊勢］訳 何年かたつうちに、女は、親が死に、頼みとなるものがなくなるにつれて

頼みに思わせる＝たのむ（頼む）［動・下二］例 我をたのめて来ぬ男［梁塵］訳（来ると約束して）自分をあてにさせておいて来ない男

頼みにさせる＝たのむ（頼む）［動・下二］

頼みにする＝たのむ（頼む）［動・四］

頼む＝うれふ（愁ふ・訴ふ）［動・下二］

頼むこと＝あない（案内）［名］

頼もしい＝うしろやすし（後ろ安し）［形・ク］例 心ばせなどの古びたる方こそあれ、いとうしろやすき後ろ見ならむ。［源氏］訳 気だては昔気質のところがあるけれども、とても頼もしい後見人だろう。

頼もしい＝はかばかし［形・シク］

旅＝くさまくら（草枕）［名］

旅寝＝くさまくら（草枕）［名］

食べ物を召し上がる＝たてまつる（奉る）［動・四］

食べ物を召し上がる＝まゐる（参る）［動・四］

食べる＝したたむ（認む）［動・下二］

食べる＝ものす（物す）［動・サ変］

たまたま＝おのづから（自ら）［副］例 おのづから事のたよりに都を聞けば…［方丈］訳 たまたま何かのついでに都のことを聞くと

たまたま＝わくらばに［副］

たまらない＝せむかたなし（為む方無し）［連語］

だまる＝もだす（黙す）［動・四／サ変］

玉をぬき通すひも＝たまのを（玉の緒）［名］

ためらう＝いさよふ［動・四］

ためらう＝わづらふ（煩ふ）［動・四］類語 なやむ＜①苦しむ、②病気する、③非難する＞

ためらわない＝さうなし（左右なし）［形・ク］

たやすい＝こころやすし（心安し）［形・ク］

便り＝せうそこ（消息）［名］例 そこにはありと聞けど、せうそこをだに言ふべくもあらぬ女のあたりを思ひける。［伊勢］訳 これこれの所にはいると聞くが、便りをすることもできそうにない女のことを思った歌。

頼りがいがある＝たのもし（頼もし）［形・シク］例 法師などをこそは、かかる方のたのもしきものにはおはすべけれど…［源氏］訳 法師などだったら、こんな（人の死という）場合に頼りがいがある者とお思いになれるけれども

たよりない＝おぼつかなし（覚束無し）［形・ク］

頼りない＝こころもとなし（心もとなし）［形・ク］

頼りない＝はかなし［形・ク］例 夢よりもはかなき世の中を嘆きわびつつ、明かし暮らすほどに［和泉］訳 夢よりも頼りにならない男女の仲を嘆き悩みながら、日々を暮らすうちに

頼る＝たのむ（頼む）［動・四］例 人をたのめば身他の有なり。［方丈］訳 人を頼りにする（＝主人持ちになる）と、我が身はその人の所有するものになってしまう。

…たら困る＝もこそ［連語］

…たら困る＝もぞ［連語］例 門よくさしてよ。雨もぞ降る。［徒然］訳 門をしっかり閉めてね。雨が降ったら困る。

…たらしい＝けらし［助動＋助動］

だらしなく乱れている＝しどけなし［形・ク］

足りない→「もの足りない」参照

…だろうものを＝てまし［連語］例 昼ならましかば、のぞきて見たてまつりてまし。［源氏］訳 昼間であったならば、のぞいて拝見しただろうものを。

他を説得して仲間に入れる＝かたらふ（語らふ）［動・四］

男女が将来のこと（＝結婚スルコトナド）**を約束する**＝かたらふ（語らふ）［動・四］

男女の逢瀬（おうせ）＝ちぎり（契り）［名］

男女の仲＝よ（世・代）［名］例 まだ世になれぬは、五、六の君ならむかし。［源氏］訳 まだ男女の仲になれないのは、五、六番目の姫であろうよ。例 世なれたる人とも覚えねば、人の思はむところもえはばかりたまはで［源氏］訳 男女関係に慣れている女とも思えないので、人の思わくも遠慮なさることなく

男女の仲＝よのなか（世の中）［名］例 夢よりもはかなき世の中を嘆きわびつつ…［和泉］訳 夢よりもたよりない男女の仲をつらいと嘆き続けて

男女の交わり＝ちぎり（契り）［名］例 月に二たびばかりの御契りなめり。［源氏］訳 月に二度ほどの男女の交わりであるようだ。

端正だ＝うるはし（麗し・美し・愛し）［形・シク］例 唐めいたるよそほひは、うるはしくこそありけめ。［源氏］訳 中国風の化粧をしている姿は、端正であったろう。

（一般の）男性＝をのこ（男）［名］

だんだん＝やうやう［副］

だんだんと＝やうやう（漸う）［副］例 やうやう白くなりゆく山ぎは少し明かりて［枕］訳 だんだんと白んでゆく山

ぎわの空が少し明るくなって

ち

地位＝しな（品）［名］

地位につく＝ゐる（居る）［動・上一］

（…たに）**ちがいない**＝けらし［助動＋助動］例 吾妹子は常世の国に住みけらし昔見しより復ちましにけり［万葉］訳 あなたは不老不死の国に住んでいたにちがいない。昔見たときより若返りなさったことよ。

違う＝たがふ（違ふ）［動・四／下二］例 かぐや姫ののたまふやうにたがはず作りいでつ。［竹取］訳 かぐや姫がおっしゃるのと違わないように作り上げた。例 この世の人にはたがひておぼす。［源氏］訳 世間のふつうの人とは違っているようにお思いになる。

違うようにする＝たがふ（違ふ）［動・下二］

近づく＝さる（去る）［動・四］

（事実と）**違ったこと**＝ひがごと（僻事）［名］

（他と）**違っている様子**＝こと（異・殊）［名］

治世＝よ（世・代）［名］

知徳のすぐれた人、聖人＝ひじり（聖）［名］

地方＝あがた（県）［名］

地方官の任国＝あがた（県）［名］

（都から）**地方へ下る**＝まかる（罷る）［動・四］

忠告する＝いさむ（諫む）［動・下二］

中国の古称＝から（韓・唐）［名］

中止する＝やむ（止む・已む）［動・下二］例 上のおごり費やすところをやめ…［徒然］訳 上の人間が思いあがり浪費することを中止し

（いかにも）**忠実で正直だ**＝まめまめし（実直実直し）［形・シク］

中途半端に＝なかなか［副］

中途半端だ＝はしたなし（端なし）［形・ク］例 年月に添へて、はしたなきまじらひのつきなくなりゆく身を思ひ悩みて…［源氏］訳 年月がたつにつれて中途半端な今の勤めが不似合なわが身を思い悩んで

寵愛＝おぼえ（覚え）［名］

寵愛する＝ときめかす（時めかす）［動・四］

寵愛を受けて栄える＝ときめく（時めく）［動・四］例 すぐれて時めきたまふありけり。［源氏］訳 格別に帝のご寵愛を得て栄えていらっしゃるお方があった。

寵愛を受ける＝ときめく（時めく）［動・四］例 いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。［源氏］訳 たいして高い身分ではない方で、（帝から）格別に寵愛を受けていらっしゃる人があった。

朝鮮の古称＝から（韓・唐）［名］

頂戴する＝たまはる（賜る）［動・四］

朝廷＝おほやけ（公）［名］例 おほやけの宮仕へしければ…［伊勢］訳 朝廷へのご奉公をしていたので

ちょうど＝さながら（然ながら）［副］

ちょうど＝なほ（猶・尚）［副］

長男＝たらう（太郎）［名］

弔問する＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］

調和がとれている＝つきづきし（付き付きし）［形・シク］例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。［徒然］訳 住まいが調和がとれており理想的に造られているのは、仮の宿りだとは思うが、心がひかれるものである。

調和がとれないで興ざめだ＝すさまじ

（凄じ・冷じ）［形・シク］

調和している＝つきづきし［形・シク］

例 いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。［枕］

訳 寒い時に、火を急いでおこして、炭を持って（各部屋に）運んで行くのも、（冬の早朝に）たいそう似つかわしい。

直接＝まほなり（真面なり）［形動・ナリ］

ちょっと＝あからさまなり［形動・ナリ］例 をかしげなるちごの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむ程に、搔いつきて寝たる…［枕］訳 かわいらしい幼児が、ちょっと抱いて遊ばせたりあやしたりするうちに、抱きついて寝たのは

ちょっとした＝はかなし［形・ク］

ちょっとしたことにも目がさめやすい＝いざとし（寝聡し）［形・シク］

散らかっている＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］

ちりぢりになる＝あかる（別る）［動・下二］

散る＝うつろふ（移ろふ）［動・四］

珍重する＝もてなす［動・四］例 鎌倉の海に鰹といふ魚は、かの境には、さうなきものにて、このごろもてなすものなり。［徒然］訳 鎌倉の海で鰹といっている魚は、あの土地では、無上のものとして、近ごろもてはやすものである。

つ

ついちょっと＝あからさまなり［形動・ナリ］例 をかしげなるちごの、あからさまにいだきて遊ばしうつくしむほどに［枕］訳 かわいらしい幼児が、ちょっと抱いて遊ばせてかわいがっているうちに

ついで＝たより（頼り・便り）［名］

追慕する＝しのぶ（偲ぶ）［動・四／上二］例 思ひいでてしのぶ人あらんほどこそあらめ、そもまた程なく失せて…［徒然］訳（故人を）思い出して追慕する人があるうちはともかく、そういう人もまもなく亡くなって

通過する＝ふ（経）［動・下二］

（人に）仕える男＝をのこ（男）［名］

疲れる＝こうず（困ず）［動・サ変］例 夜深くいでしかば、人々こうじて…［更級］訳 夜が明けないうちに出てきたので、みんな疲れて

つかわす＝やる（遣る）［動・四］

次＝ついで（序）［名］例 そのためし、漢家をついでとして、広く文の道をとぶらはず。［十訓］訳 その引用例は（我が国の話を優先させ）中国の話は次にして、漢籍から広く探すことをしない。

月が空にあるままで夜が明けようとすること＝ありあけ（有明）［名］

月が出ている夕方＝ゆふづくよ・ゆふづきよ（夕月夜）［名］

月がまだ没しないまま夜が明けること＝ありあけ（有り明け）［名］例 八月二十日余日のありあけなれば、空のけしきも、あはれ少なからぬに…［源氏］訳 八月二十日過ぎの月が空に残る明け方なので、空の有様も心にしみる風情が浅くないうえに

つき従う＝ぐす（具す）［動・サ変］

月そのもの＝つきかげ（月影）［名］

月の下旬＝つごもり（晦・晦日）［名］例 四月のつごもり、五月のついたちなどのころほひ、橘の葉の濃く青きに、［枕］訳 四月の下旬や、五月の上旬などのころに、橘の葉が濃く青い色であるところへ、

月の最後の日＝つごもり（晦・晦日）

［名］

月の姿＝つきかげ（月影）［名］

月の第一日＝ついたち（朔日・一日）［名］

（陰暦各）**月の始め数日間に出る月**＝ゆふづきよ・ゆふづくよ（夕月夜）［名］

月の光＝つきかげ（月影）［名］

月の光に照らし出された人の姿や物の形＝つきかげ（月影）［名］

次の日の朝＝つとめて［名］例 そのつとめて、そこを立ちて…［更級］訳 その翌朝、その場所を出立して

月の末日＝つごもり（晦・晦日）［名］

月日を送る＝ふ（経）［動・下二］

作る＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］

都合が悪い＝あやにくなり［形動・ナリ］

都合が悪い＝びんなし（便無し）［形・ク］例 びんなき所にて、人にものをいひけるに…［枕］訳 都合の悪い所で男と語らっていたとき

都合が悪い＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］例 明け過ぎにけり。不便なるわざかな。疾く疾く。［枕］訳 夜が明けはなれてしまったよ。不都合なことだ。早く早く。

続かなくなる＝たゆ（絶ゆ）［動・下二］（…し）**続ける**＝わたる（渡る）［動・四］例 年を経て呼ばひわたりけるを、［伊勢］訳 何年もの間求婚し続けてきたが、↓「ずっと…し続ける」参照

（悪い結果を恐れて）**慎まなければならないさまだ**＝いまいまし（忌忌し）［形・シク］

つつしむ＝いむ（斎む・忌む）［動・四］

包み隠す＝しのぶ（忍ぶ）［動・四／上二］例 忍ぶれど色に出にけりわが恋は…［拾遺］訳 包み隠していたけれど、顔色に出てしまったことだ。私の恋は

つて＝たより（便り・頼り）［名］

つなぐ＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］

（一人で）**つぶやく**＝ひとりごつ（独りごつ）［動・四］

つぼねを与えられている女官＝つぼね（局）［名］

妻＝いも［名］

妻（身分の高い人の妻を尊敬して呼ぶ語）＝うへ（上）［名］

妻など（男性が女性を親しんで呼ぶ語）＝いも（妹）［名］例 石見のや高角山の木の間よりわが振る袖を妹見つらむか［万葉］訳 石見の国の高角山の木の間から、私が振る袖を、妻は見ているだろうか。

つまらない＝あいなし［形・ク］例 人の、我が方にありつること、数々に残りなく語り続くるこそあいなけれ。［徒然］訳 人が、自分のほうにあったことを、いちいち残りなく語り続けるのはおもしろくない。

つまらない＝あぢきなし［形・ク］例 すべて世にふることかひなく、あぢきなき心地いとするころなり。［蜻蛉］訳 およそ生き続けるのが無駄で、つまらない気持ちがとてもするこのごろである。例 筆にまかせつつ、あぢきなきすさびにて［徒然］訳 筆にまかせて、つまらないなぐさみ書きで

つまらない＝あやなし（文無し）［形・ク］例 あやめ草あやなき袖にかけずもあらなむ［蜻蛉］訳 つまらぬ私の袖に菖蒲をかけなどしないでほしい。

つまらない＝いふかひなし（言ふ効無し・言ふ甲斐無し）［形・ク］例 敵に押し隔てられ、いふかひなき人の郎等に組み落とされたまひて…［平家］訳 敵に押し隔てられ、つまらない人の家来に組みつかれ馬から落とされなさって

つまらない＝はかなし［形・ク］

つまらない＝よしなし（由なし）［形・ク］例 心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、［徒然］訳 心に浮かんでは消えてゆくとりとめのないことを、雑然と書きつけていくと、例 よしなき命のながらへて…［無名抄］訳 つまらない命が長生きをして

罪＝とが（科・咎）［名］例 世治まらずして、凍餒の苦しみあらば、とがの者絶ゆべからず。［徒然］訳 世の中がよく治まらないで、凍えや飢えの苦しみがあるならば、罪を犯す者が絶えるはずはない。

つやっぽい＝なまめかし（生めかし・艶めかし）［形・シク］

強い＝たけし（猛し）［形・ク］例 人にたけく見えむと思ひて、えもいはずつはものだてける者ありけり。［今昔］訳 人に強く見られようと思って、言いようもなく勇士ぶっていた者がいたという。

強くひかれる＝ゆかし（床し）［形・シク］

つらい＝うし（憂し）［形・ク］例 命長きは憂きことにこそありけれ。［栄花］訳 長生きするのはつらいことであったなあ。

つらい＝こころうし（心憂し）［形・ク］例 世の中になほいと心憂きものは、人に憎まれんことこそあるべけれ。［枕］訳 世の中でやはりたいそうつらいことは、人に憎まれることであるようだ。

つらい＝こころぐるし（心苦し）［形・シク］

つらい＝やさし［形・シク］

つらい＝わびし（侘びし）［形・シク］例「おはしまざりけり」もしは「御物忌とて取り入れず」といひてもて帰りたる、いとわびしくすさまじ。［枕］訳（さっきの手紙を）「いらっしゃいませんでした」あるいは「物忌みだと言って受け取りません」と言って持ち帰ってきたのは、実につらく興ざめだ。例 いとわりなくて見奉るほどさへ、うつつとおぼえぬぞわびしきや。［源氏］訳 ずいぶんと無理をしてお目にかかることまでも、現実とは思われないのがつらいことよ。

つらい＝わりなし（理無し）［形・ク］

つらい事の多いこの世＝うきよ（憂き世）［名］

つらく思う＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］例 つれづれわぶる人は、いかなる心ならん。［徒然］訳 何もすることがなく所在ない寂しさをつらく思う人は、どんな気持ちなのだろう。（そんな人の気持ちは、私にはわからない。）

つらよごし＝おもてふせ（面伏せ）［名］

連れ添う＝みる（見る）［動・上一］例 見る人も、いとあはれに、忘るまじきさまにのみ語らふめれど、人の心はそれに従ふべきかはと思へば、［蜻蛉］訳 連れ添う夫も、たいそう思いやりがあり、（私のことを）忘れないつもりだとばかり言うようだが、男の心は言葉どおりにいくはずもないと思うので、

連れて行く＝ぐす（具す）［動・サ変］例 百人ばかり天人具して昇りぬ。［竹取］訳 百人ほどの天人を連れて昇ってしまった。

連れて行く＝ゐる（率る）［動・上一］例 三足なる角の上に、帷子をうちかけて、手をひき杖をつかせて、京なる医師のがりゐて行きける道すがら、［徒然］訳 三本の角の上に、布をかぶせ、手をひき杖をつかせて、京都にいる医者の所へ連れて行った途中、

つれない＝うし（憂し）［形・ク］

連れる＝ぐす（具す）［動・サ変］

て

…で（手段・方法を表す）＝にて［格助］
例 深き河を舟にて渡る。［更級］訳 深い河を舟で渡る。（注意「舟であって」と訳さないこと）
…で（場所を表す）＝にて［格助］
出会う＝あふ（会ふ・逢ふ）［動・四］
手あつい＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］
手厚く世話をする＝かしづく（傅く）［動・四］
…**であったろうに**＝てまし［連語］
…**であって**＝にて［断定の助動詞「なり」の連用形「に」＋接続詞「て」］例 月の都の人にて父母あり。［竹取］訳 月の都の人であって（そこに）父と母がいる。
…**であってほしいなあ**＝もがな［助］
出歩く＝ありく（歩く）［動・四］
体裁が悪い＝ひとわろし（人悪し）［形・ク］例 様々にひとわろきことどもをうれへ合へるを…［源氏］訳 いろいろと体裁が悪いことをあれこれ嘆き合っているのを
（貴人の）**邸宅またはその一部の敬称**＝おとど（大殿）［名］
程度＝きは（際）［名］
程度＝ほど（程）［名］例 心ざしのほどだに、ただ同じやうなり。［大和］訳 誠意の程度でさえ、まったく同じようである。
丁寧だ＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］
…**ていらっしゃる**＝います（在す）［動・四／サ変］
…**ていらっしゃる**＝いますがり（在すがり）［動・ラ変］例「翁のあらむかぎりは、かうてもいますがりなむかし」［竹取］訳「（この）翁が生きている間は、こうして（独身のままで）もいらっしゃることができよう」
…**ていらっしゃる**＝おはします［動・四］例 四条大納言の、かく、何事にもすぐれ、めでたくおはしますを…［大鏡］訳 四条大納言（藤原公任）が、このように何事にも秀で、すばらしくていらっしゃるのを 例 このおはします所は直、人かれ里遠き島の中なり。［増鏡］訳 この（後鳥羽院が）いらっしゃる所は、人里を遠く離れた島の中である。
…**ていらっしゃる**［補助動詞］＝おはす（御座す）［動・サ変］例「聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ」［徒然］訳「聞いた以上に、尊くていらっしゃったよ」例 今めかしくおはする君…［源氏］訳 当世風でいらっしゃるおかた
…**ていらっしゃる**＝たまふ（給ふ）［動・四］
…**ているだろう**［現在視界外推量］＝らむ［助動］例 わが背子はいづく行くらむ［万葉］訳 私の愛する夫は、どこを歩いているだろう
でかける＝まかる（罷る）［動・四］例 筑紫の国に湯あみにまからむ。［竹取］訳 筑紫の国に湯治にでかけよう。
手紙＝せうそこ（消息）［名］
手紙＝たより（頼り・便り）［名］
手紙＝ふみ（文・書）［名］例 その人の御もとにとて、文書きてつく。［伊勢］訳 その人の御もとへと、手紙を書いてことづける。例 はかなき文つけなどだにせぬ。［枕］訳 ちょっとした手紙を結び付けることさえもしない。
手紙＝みづくき（水茎）［名］
敵＝あた（仇・敵）［名］
できごと＝こと（言・事）［名］
適切に受け答えする＝あへしらふ［動・四］

…できそうだ＝ぬべし［連語］
適当な＝さるべき（然るべき）［連語］
適当に返事をする＝いらふ（答ふ・応ふ）［動・下二］
…できない＝え…（打消）例「あなや」といひけれど、神鳴る騒ぎにえ聞かざりけり。［伊勢］訳（女は）「アレー」と言ったが、（男は）雷の鳴る騒がしさに（それを）聞くことができなかった。
てきぱきしている＝かどかどし（才々し）［形・シク］
てきぱき進んでいる＝はかばかし［形・シク］
てきぱきとしている＝はかばかし（捗々し・果々し）［形・シク］
できる＝たふ（耐ふ・堪ふ）［動・下二］
できる＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］例 よどみに浮かぶうたかたはかつ消え、かつ結びて…［方丈］訳 よどみに浮かぶ水の泡は一方では消え、一方ではできて
…てしまえばよかったのに＝なまし［連語］例 やすらはで寝なましものを…［後拾遺］訳 ためらわないで寝てしまえばよかったのに
…てしまおう＜「む」が意志の意味＞＝てむ［連語］例 乳母かへてむ。いとうしろめたし。［枕］訳 お守役をかえてしまおう。とても気がかりだ。
…てしまおう＜「む」が意志の場合＞＝なむ［強意の助動詞「ぬ」の未然形「な」＋助動詞「む」］例 同じ煙にものぼり（連用形）なむ。［源氏］訳 同じ煙となってのぼってしまおう。
…てしまっただろう＝なまし［連語］例 けふ来ずはあすは雪とぞ降りなまし［古今］訳 今日来ないなら、明日は雪のように散ってしまうだろう
…てしまっていて＝にて［完了の助動詞「ぬ」の連用形「に」＋接続助詞「て」］
…です＝さうらふ（候ふ）［動・四］例 筋なきことにさうらひなむ。［宇治］訳 きっと筋の通らないことでございましょう。
…です＝さぶらふ（侍ふ・候ふ）［動・四］
…です＝はべり（侍り）［動・ラ変］例「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ちはべらず」と答へしかば、［徒然］訳「お子さんはいらっしゃるか」と尋ねたのに対して、「一人も持ってません」と答えたところ、
手ですくう＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］例 袖ひちてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ［古今］訳（夏）袖もぬれて手ですくった水が（冬の間）凍っていたのを、立春の今日の風が今ごろとかしているだろうか。
手なれていて上手だ＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］
（ものを）手に入れる＝まうく（設く）［動・下二］
…てほしい＝なむ［助］例 小倉山峯のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待た（未然形）なむ［拾遺］訳 小倉山の峯のもみじ葉よ、心があるならば、もう一度帝の行幸があるまで散らずに待っていてほしい
…てもらいたい＝なむ［助］
出る＝いづ（出づ）［動・下二］例 照る月の流るる見れば天の川いづる湊は海にざりける［土佐］訳 照る月が流れるように（波間に）移って沈んでいくのを見ると、天の川が流れ出る河口はまさしくこの海であったのだなあ。
殿上の間＝うへ（上）［名］
殿上人（＝四位・五位および六位の蔵人で、宮中の清涼殿「殿上の間」にのぼることの許された人）＝うへのをのこ（上の男）［名］

殿上人＝をのこ（男）［名］
天皇＝うち（内・内裏）［名］例 しのぶとも、世にある事隠れなくて、うちに聞こしめさむを…［源氏］訳（不祥事を）いくら隠しても、実際の出来事はいずれわかって、天皇もお聞きになるであろうから
天皇＝うへ（上）［名］
天皇＝おほやけ（公）［名］例 おほやけの御けしき、悪しかりけり。［伊勢］訳 天皇のご機嫌は、悪かった。
天皇＝きみ（君）［名］
天皇（の敬称）＝ひじり（聖）［名］
天皇が后などをかわいがる＝ときめかす（時めかす）［動・四］
天皇に申し上げる＝そうす（奏す）［動・サ変］
天皇の治世＝よのなか（世の中）［名］
天皇の寵愛を受ける＝ときめく（時めく）［動・四］
天皇または上皇の御座所、その御前＝うへ（上）［名］
天分＝たましひ（魂）［名］

と

というのは＝さるは（然るは）［接続］例 さるは、限りなう心を尽くしきこゆる人に、いとよう似たてまつれるが、まもらるるなりけりと思ふにも、［源氏］訳 というのは、限りなくお慕い申しあげている方［＝藤壺の女御］に、たいそうよく似申しあげていることが、じっと見つめることになる理由なのだと思うにつけても、
どういうわけで＝いかで［副］
どうかして（願望）＝いかで（如何で）［副］
どうか…しないでくれ＝な…そ
道具＝てうど（調度）［名］
どうしたらよいのだろう＝いかがはせむ（如何はせむ）［慣用句］
どうして＝いかなり（如何なり）［形動・ナリ］［連用形「いかに」で］例 かばかりになりては、飛びおるともおりなん。いかにかく言ふぞ。［徒然］訳 このくらいの高さになったら、飛び降りてもきっと降りられるだろう。どうしてそんなふうに（気をつけろと）言うのか。
どうして［疑問表現］＝いかで（如何で）［副］
どうして＝いかに（如何に）［副］例 帰ってみれば、こはいかに。［浦島太郎］訳 帰ってみると、これはどうしたことか。
どうして［疑問表現］＝なでふ（何でふ）［副／連体］例 なでふかかること申し給ふ。［落窪］訳 どうしてこのような事を申しあげなさるのか。
どうして［反語表現］＝なでふ（何でふ）［副／連体］例 なでふそらごとにかあらむ。［宇津保］訳 どうして偽りであろうか、いや偽りではない。
どうして…か（いや…でない）［反語表現］＝いかが（如何）［副］例 いかが他の力を借るべき。［方丈］訳 どうして他の力を借りようか、いや借りるべきではない。
どうして…か（いや…でない）［反語表現］＝いかで（如何で）［副］例 いかで月を見ではあらむ。［竹取］訳 どうして月を見ないでいられようか、いや見ずにはいられない。例 宰相の御いらへを、いかでかことなしびに言ひ出でん。［枕］訳 宰相殿への御返事を、どうしていいかげんに言い出せようか、

いや言い出せない。

どうして…ているのだろう［原因推量］＝らむ［助動］例 久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ［古今］訳 光のおだやかな春の日なのに、どうしておちついた心なく桜は散っているのだろう。

どうしてよいかわからない＝まどふ（惑ふ）［動・四］

（…と）**同時に**＝ままに［連語］

どうしようか＝いかがはせむ（如何はせむ）［慣用句］例 酒宴ことさめて、いかがはせむと、とまどひけり。［徒然］訳 酒宴がしらけて、どうしようかと途方にくれた。

どうしようか、どうしようもない＝いかがはせむ（如何はせむ）［慣用句］

どうしようもない＝あぢきなし［形・ク］

どうしようもない＝あへなし（敢へ無し）［形・ク］

どうしようもない＝いふかひなし（言ふ甲斐なし）［形・ク］例 女の身は心憂きものにこそありけれと思ひて泣けど、いふかひなし。［落窪］訳 女の身はつらいものであるのだなあと思って泣いても、どうしようもない。

どうしようもない＝ずちなし（術なし）［形・ク］例 陣まで念じておはしましたるに、宴の松原のほどに、そのものともなき声どもの聞こゆるに、ずちなくて帰りたまふ。［大鏡］訳 陣まで我慢しておいでになったところ、宴の松原のあたりで、えたいのしれない声などが聞こえたので、どうしようもなくてお帰りになる。

どうしようもない＝せむかたなし（為む方なし）［形・ク］例 上の衣の肩を張り破りてけり。せむかたもなくて、ただ泣きに泣きけり。［伊勢］訳 正装の上着の肩の所を張り破ってしまった。どうしようもなくて、ただ泣くばかりだった。例 ほど経るままにせむかたなう悲しうおぼさるるに…［源氏］訳 時間がたつにつれて、どうしようもなく悲しくお思いになるので

どうしようもない＝わりなし［形・ク］

どうするか決める＝おきつ（掟つ）［動・下二］

当世ふう＝いまやう（今様）［名］

当然だ＝ことわり（理）［名］

当然であること＝ことわり（理）［名］

統治する＝しる（領る）［動・四］例 入道殿の世をしらせたまはむことを、帝いみじうしぶらせたまひけり。［大鏡］訳 入道殿［＝藤原道長］が天下をお治めになることを、（一条）天皇はたいそうお渋りになった。

どうであろうか＝いかが［副］

尊い＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］

貴い＝やむごとなし［形・ク］

堂々としている＝ところせし（所狭し）［形・ク］

道徳的な面でよくない＝まさなし（正無し）［形・ク］

どうにかして［願望表現］＝いかで（如何で）［副］

どうにもならない＝いかがはせむ（如何はせむ）［慣用句］例 腹立たしけれども、いかがはせむ。［枕］訳 腹立たしいけれども、しかたがない。

どうにもならない＝せむかたなし（為む方なし）［連語］

道理＝ことわり（理）［名］例 父母を見れば尊し妻子見れば愛しうつくし世の中はかくぞことわり［万葉］訳 父母を見ると尊く、妻子を見るといとしくかわいく思われる。世の中はそれが道理なのだ。例 変化のことわりを知らねばなり。［徒然］訳 万物が流転変化する道理を知らないからである。

道理に合わない＝あやなし（文なし）［形・ク］例 春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる［古今］訳 春の夜の闇は道理に合わない（ことをするものだ）。梅の花は、色は（闇に隠れて）見えないけれど、香りは隠れるものではないのに。

道理に合わない＝わりなし［形・ク］例 わりなくもの疑ひする男。［枕］訳 道理にはずれて疑ったりする男。例 人の上言ふを腹立つ人こそ、いとわりなけれ。いかでか、言はではあらむ。［枕］訳 人のうわさをすることをおこる人は、ほんとうにわけがわからない。どうして、（うわさ話を）言わないでいられようか、いられはしない。

道理に外れた行い＝ひがこと（僻事）［名］

道理にはずれたこと＝ひがこと（僻事）［名］

道理をわきまえている＝こころあり（心有り）［連語］

道理をわきまえない＝こころなし（心無し）［形・ク］

遠い人、故人などを思いしたう＝しのぶ（偲ぶ）［動・四／上二］

遠くはなれた所＝くもゐ（雲居）［名］

遠く見やる＝ながむ（眺む）［動・下二］例 ほととぎす鳴きつる方をながむれば［千載］訳 ほととぎすが鳴いた方角を遠く見やると

遠くを見る＝みやる（見遣る）［動・四］

遠くを見渡す＝ながむ（眺む）［動・下二］

遠ざかる＝さる（去る）［動・四］

（空間的に）**遠ざかる**＝かる（離る）［動・下二］

遠ざける＝うとむ（疎む）［動・下二］

…と思われる＝みゆ（見ゆ）［動・下二］［「…とみゆ」の形で］

通る＝ふ（経）［動・下二］

通る＝わたる（渡る）［動・四］例 火など急ぎおこして、炭持て渡るもいとつきづきし。［枕草子］訳 火などを急いでおこして、炭を持って（廊下を）通るのもたいそう似つかわしい。

…とかいう［伝聞・婉曲］＝らむ［助動］例 人の言ふらむをまねぶらむよ。［枕］訳 人の言うようなことをまねするとかいうことよ。

時＝きは（際）［名］

（時間的に）**時**＝ほど（程）［名・助］

時＝よ（世・代）［名］例 あはれなりつる心のほどなむ、忘れむ世あるまじき。［更級］訳 あたたかった（あなたの）心を忘れる時などあるはずがない。

時がうつる＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］

時が過ぎてしまう＝いぬ（往ぬ・去ぬ）［動・ナ変］例 あはれ今年の秋もいぬめり［千載］訳 ああ、今年の秋も過ぎ去ってしまうようだ。

時が過ぎる（たつ）＝ふ（経）［動・下二］

得意になる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

特別だ＝ことなり（異なり・殊なり）［形動・ナリ］

特別に＝わざと（態と）［副］

とくをする＝まうく（設く）［動・下二］

とげとげしい＝かどかどし（角々し）［形・シク］

どこがどこということもない＝そこはかとなし［形・ク］例 心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば…［徒然］訳 心にうつっていくどうということもないことを、とりとめもなく書きつけていると 類例 そこはかと知りてゆかねど先に立つ涙ぞ道のしるべなりける［更級］訳 どこそこと見当をつけて行くわけではない

が、先立つ涙が道の案内であることよ。

ところで＝さて（然て）［接続］

（…の）ところへ＝のがり（の許り）［連語］例 京なる薬師のがりゐて行きにけり。［徒然］訳 京都にいる医者のところへ連れて行った。

年上の人＝このかみ（兄）［名］

年があける＝あく（明く）［動・下二］例 あけむ年、よそぢになり給ふ…［源氏］訳 年があけると、四十におなりになる

年かさで物の心得がある＝おとなし（大人し）［形・シク］

…として［資格を表す］＝にて［格助］

年をとる＝ふる（古る・旧る）［動・上二］

途絶える＝かる（離る）［動・下二］例 人目も草もかれぬと思へば［古今］訳 人の訪れも途絶え、草も枯れてしまうと思うと。

途中で切れる＝たゆ（絶ゆ）［動・下二］

どちらつかずだ＝はしたなし（端なし）［形・ク］

とっくに＝はやく（早く）［副］例 花見にまかれりけるに、はやく散り過ぎにければ、［徒然］訳 花見に参りましたところ、とっくに（桜の花が）散ってしまっていたので、

突然＝あからさまなり［形動・ナリ］例 草の中よりあからさまにいでて…［書紀］訳 草の中から急に出てきて例をかしげなるちごの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむ程に、搔いつきて寝たる…［枕］訳 かわいらしい幼児が、ちょっと抱いて遊ばせたりあやしたりするうちに、抱きついて寝たのは

突然だ＝うちつけなり（打ち付けなり）［形動・ナリ］例 さればうちつけに、海は鏡の面のごとくなりぬれば…［土佐］訳（荒れた海に鏡を投げ入れたところ）すると突然海は鏡の面のようになったので

突然だ＝ゆくりなし［形・ク］例 ゆくりなく風吹きて…［土佐］訳 突然に風が吹いて

どっちつかずだ＝はしたなし（端なし）［形・ク］例 年月に添へて、はしたなきまじらひのつきなくなりゆく身を思ひ悩みて…［源氏］訳 年月がたつにつれて中途半端な今の勤めが不似合なわが身を思い悩んで

とても＝いと［副］例 雁などの連ねたるがいと小さく見ゆるは、いとをかし。［枕］訳 雁などの列をなしているのがたいそう小さく見えるのは、とても情趣がある。

とても＝ここら・そこら［副］

とても＝ゆゆし［形・シク］（連用形「ゆゆしく」の形で）

とても＝よに（世に）［副］

とてもいやしい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

とても数が多い＝ところせし（所狭し）［形・ク］

とてもすぐれている＝よし（善し・良し・好し）［形・ク］

とても…だ＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］（他の動詞の連用形につく）例 めでののしる。訳 とてもほめる。例 あるじしののしる。訳 とてもごちそうをする。

とてもつらがる＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］

とても…できない＝え…（打消）［副］例 この玉、たやすくはえ取らじ。［竹取］訳 この玉は、容易には、とても取ることができないだろう。

とても嘆かわしい＝うたてし［形・ク］

とても悪い＝あし（悪し）［形・シク］

…と同時に＝ままに［連語］

届けてくる＝おこす（遣す・致す）［動・下二／四］

届ける＝やる（遣る）［動・四］

ととのえる＝さうぞく（装束）［動・四］

整える＝したたむ（認む）［動・下二］例 男、券などしたため取りて、［今昔］訳 男は、土地の権利書などを整え受け取って、

整っている＝うるはし（麗し・愛し・美し）［形・シク］

整っている＝まほなり（真面なり）［形動・ナリ］

とどまる＝ゐる（居る）［動・上一］

どのようだ＝いかなり（如何なり）［形動・ナリ］例 少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ。［枕］訳 清少納言よ、香炉峰の雪はどのようであろうか。

どのように（疑問）＝いかが（如何）［副］例 この雪いかが見ると、一筆のたまはせぬほどのひがひがしからん人［徒然］訳 この雪をどのように見るかと、一言もおっしゃらないくらいひねくれている人

どのように＝いかに（如何に）［副］

どのようにして［疑問表現で］＝いかで（如何で）［副］例 いかで言ひ寄り給ひけむ。［源氏］訳 どのようにして言い寄りなさったのであろう。

どのようにして…か［疑問表現で］＝いかが（如何）［副］例 そのけぢめをばいかがわくべき。［源氏］訳 そのけじめをどのようにしてつけたらよいのか。

とびまわる＝まどふ（惑ふ）［動・四］

徒歩＝かち（徒歩）［名］例 よろしき女房も壺装束などして、かちのものどももうちまじれり。［増鏡］訳 相当な身分の女房も壺装束などになって、徒歩の人たちも交じっている。

途方にくれる＝まどふ（惑ふ）［動・四］

止まる＝やむ（止む・已む）［動・四］例 風・波やまねば、なほ同じ所にあり。［土佐］訳 風や波がやまないので、やはり同じ所にいる。

伴う＝ぐす（具す）［動・サ変］例 長月の有明の月にさそはれて、蔵人の少将、指貫つきづきしく引きあげて、ただ一人、小舎人童ばかり具して、［堤中］訳 九月の有明の月（の美しさ）に誘われて、蔵人の少将が、指貫（のすそ）を（歩くのに）ふさわしく引きあげ、ただ一人、小舎人童だけを伴って、

伴う＝ゐる（率る）［動・上一］例 三足なる角の上に、帷子をうちかけて、手をひき杖をつかせて、京なる医師のがりゐて行きける道すがら、［徒然］訳 三本の角の上に、布をかぶせ、手をひき杖をつかせて、京都にいる医者の所へ連れて行った途中、

捕らえる＝からむ（搦む）［動・下二］例 盗人なりければ、国の守にからめられにけり。［伊勢］訳 盗人であったので、国の守に捕らえられてしまった。

取り扱う＝もてなす［動・四］

とりきめること＝さた（沙汰）［名］

取りつぎを頼むこと＝あない（案内）［名］

とりつぎをたのむこと＝せうそこ（消息）［名］

捕り手＝からめて（搦め手）例 年ごろからめ手向かひ候ふ事…［著聞］訳 数年来、捕り手が向かいますこと

とりとめがない＝はかなし（果無し）［形・ク］例 はかなく聞こえいづる言の葉も…［源氏］訳 とりとめもなく申し上げる言葉も

とりとめもない＝そこはかとなし［形・ク］例 心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば…［徒然］訳 心にうつっていくどうということもないことを、とりとめもなく

書きつけていると 類例 そこはかと知りてゆかねど先に立つ涙ぞ道のしるべなりける［更級］訳 どこそこと見当をつけて行くわけではないが、先立つ涙が道の案内であることよ。

とりはからう＝おきつ（掟つ）［動・下二］

とりわけ＝たえて（絶えて）［副］

とるにたりない＝あやなし（文無し）［形・ク］

とるに足りない＝いふかひなし（言ふ効無し・言ふ甲斐無し）［形・ク］

とるに足りない＝かひなし（甲斐無し・効無し）［形・ク］例 うち見たまひて、かひなくはおぼされねど…［和泉］訳 ご覧になって、とるに足りないとはお思いにならないが

とるにたりない＝はかなし（果無し）［形・ク］例 いとはかなき家に泊まりたりしに…［枕］訳 ほんとうにとるにたりない家に泊まっていた時に

どれ＝いざ［感動］

どれほど＝いかに［副］

とんでもない＝まさなし（正無し）［形・ク］

どんな＝なでふ（何でふ）［連体］

どんなだ＝いかなり（如何なり）［形動・ナリ］

どんなにか＝いかに（如何に）［副］

どんなふうに…か［疑問表現で］＝いかが（如何）［副］例 そのけぢめをばいかがわくべき。［源氏］訳 そのけじめをどのようにしてつけたらよいのか。

な

内容＝あない（案内）［名］

なおざりだ＝かりそめなり（仮初めなり）［形動・ナリ］例 よろづを捨て、すさまじくかりそめにおぼしめし…［栄花］訳 すべてを捨て、興味も失われ、なおざりなものとお思いになって

治る＝おこたる（怠る）［動・四］

（病気・苦痛が）**治る**＝やむ（止む・已む）［動・四］例 われこそや見ぬ人恋ふる病すれ会ふ日ならではやむ薬なし［拾遺］訳 私は会えない人に恋する病にかかったのだろうか。会う日でなくては（病が）治る薬はない。

（男女の）**仲**＝よ（世・代）［名］例 まだ世になれぬは、五、六の君ならむかし。［源氏］訳 まだ男女の仲になれないのは、五、六番目の姫であろうよ。例 世なれたる人とも覚えねば、人の思はむところもえはばかりたまはで［源氏］訳 男女関係に慣れている女とも思えないので、人の思わくも遠慮なさることなく

（男女の）**仲**＝よのなか（世の中）［名］例 夢よりもはかなき世の中を嘆きわびつつ…［和泉］訳 夢よりもたよりない男女の仲をつらいと嘆き続けて

長い時間がたっている＝ひさし（久し）［形・シク］例 翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛の者になりにけり。［竹取］訳 翁は、（黄金の入った）竹を取ることが長く続いた。（彼は）富豪となっていった

長い年月＝としごろ（年頃）［名］

天一神のいる不吉な方角を避けるならわし＝かたたがへ（方違へ）［名］例 方の塞がりければ、方たがへになむ行く。［枕］訳 方塞がりとなったので、方角を変えによそへ行く。

仲がよい＝うるはし（麗し・美し・愛し）［形・シク］例 昔、男、いとうるはしき友ありけり。［伊勢］訳 昔、ある男がたいそう仲のよい友を持っていた。

中から外を見る＝みいだす（見出す）

［動・四］

長く生きない＝はかなし（儚し・果敢し・果無し）［形・ク］

長く息を出す＝うそぶく（嘯く）［動・四］

流す＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

なかなか（下に打消を伴う）＝をさをさ［副］

なかなかだ＝さり（然り）［動・ラ変］

長年＝としごろ（年頃）［副］例 年ごろよくくらべつる人々なむ別れがたく思ひて…［土佐］訳 長年よく親しんできた人々が別れがたく思って例「年ごろ思ひつること果たしはべりぬ」［徒然］訳「長年念願していたことを果たしましたよ」

長年の間＝としごろ（年頃）［副］

（説得して）**仲間に入れる**＝かたらふ（語らふ）［動・四］

眺める＝ながむ（眺む）［動・下二］

中を外から見る＝みいる（見入る）［動・下二］

（声をあげて）**泣く**＝ねをなく（音を泣く）［連語］例 ねをなきたまふさまの、心深くいとほしければ…［源氏］訳 声をあげてお泣きになる様子が、心にしみるほどいじらしいので 類例 思ひ乱れて音をのみぞ泣く［古今］訳 心も乱れて声をあげて泣くばかりだ。

（声をしのんで）**泣くこと**＝しのびね（忍び音）［名］例 しのびねをのみ泣きて…［更級］訳 ただただ人知れず声をしのんで泣いて

鳴くこと＝しのびね（忍び音）［名］例 四月二日なりしかばまだしのびねのころにて…［大鏡］訳 四月二日だったので、まだほととぎすの初鳴きの頃で

なぐさみ＝すさび（荒び・進び・遊び）［名］

慰める＝やる（遣る）［動・四］

なくなる＝うす（失す）［動・下二］例 白山にあへば光のうするかと…［竹取］訳 白山（＝かぐや姫）に出会ったから光も失せるのかと

亡くなる＝うす（失す）［動・下二］例 京にて生まれたりし女子、国にてにはかにうせにしかば…［土佐］訳 京で生まれた女の子が、任国の土佐で急に亡くなったので

亡くなる＝はかなくなる［連語］

亡くなる＝はつ（果つ）［動・下二］

亡くなる＝みまかる（身罷る）［動・四］例 堀河の太政大臣身罷りにける時に、深草の山にをさめて後によみける、［古今・詞書］訳 堀河の太政大臣が亡くなってしまった時に、深草の山に埋葬した後で詠んだ歌、

嘆かわしい＝あさまし［形・シク］

嘆かわしい＝うたてし［形・ク／シク］

嘆かわしい＝なさけなし（情けなし）［形・ク］

嘆き訴える＝うれふ（愁ふ・訴ふ）［動・下二］

嘆く＝うれふ（愁ふ・訴ふ）［動・下二］

嘆く＝かこつ（託つ）［動・四］例 あはではやみにし憂さを思ひ、あだなる契りをかこち…［徒然］訳（男女が）結ばれずじまいだった切なさを回想し、はかない約束を嘆き

嘆く＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］例 限りなく遠くも来にけるかなと侘び合へるに…［伊勢］訳 本当に遠くに来てしまったなあと、嘆き合っていたところ

名残惜しい（なごり）＝あかず（飽かず）［連語］

名残のつきない＝あかず（飽かず）［連語］

情けない＝あさまし（浅まし）［形・シク］

情けない＝あぢきなし（味気無し）［形・ク］

なさけない＝うたてし［形・ク／シク］

情けない＝こころうし（心憂し）［形・ク］

情けなく＝うたて［副］

なさる＝あそばす（遊ばす）［動・四］例 南の院にて、人々集めて弓あそばしに、［大鏡］訳 南の院で、人々を集めて弓をなさった時に、

…なさる［補助動詞］＝たうぶ（賜ぶ・給ぶ）［動・四］→「お…なさる」参照。

…なさる［補助動詞］＝たまふ（賜ふ・給ふ）［動・四］

なじみの土地＝ふるさと（古里・故郷）［名］例 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香（か）ににほひける［古今］訳 人は、さあ、どうだろうか、心の中はわかりません。しかし、昔なじみの（この）土地では、梅の花が昔どおりの香りで咲いていますよ。

なぜ＝いかなり（如何なり）［形動・ナリ］［連用形「いかに」で］

なぜ＝いかに（如何に）［副］

名高い＝なにしおふ（名にし負ふ）［慣用句］

なつかしい＝ゆかし（床し）［形・シク］

なつかしむ＝しのぶ（偲ぶ）［動・四／下二］

名として持つ＝なにおふ（名に負ふ）［連語］例 名にし負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと［伊勢］訳 おまえが都鳥という名を持つならば、さあ尋ねてみよう。都鳥よ。都にいる私の恋しい人は無事でいるのか、いないのかと。

名として持っている＝なにしおふ（名にし負ふ）［慣用句］例 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと［伊勢］訳（都鳥という名を）名として持っているのなら、さあ尋ねよう。都鳥よ。都にいる私の愛する人が健在でいるか否かを。

なにかわけがありそうにふるまう＝ゆゑだつ（故立つ）［動・四］

何かをする＝おこなふ（行ふ）［動・四］

何もすることがない＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］

何もない＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］

何もない＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

怠ける＝おこたる（怠る）［動・四］例 愚かにしておこたる人のために…［徒然］訳 愚かでそのためにだけている人のために

なまけること＝おこたり（怠り）［名］

なまじっか＝なかなか（中々）［副］例 なかなかに人とあらずは桑子にも［万葉］訳 なまじっか人間であるよりも蚕（かいこ）にも（なりたい）

なまめかしい＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

並み＝なべて（並べて）［副］例 いと若うをかしげなる声のなべての人とは聞こえぬ…［源氏］訳 たいへん若々しく美しい感じの声で並みの女房とは思えない女の声が

並みだ＝おぼろけなり（朧けなり）［形動・ナリ］例 おぼろけにては、舟も通はず。［平家］訳 並みひととおりのことでは、船も通わない。

並たいていでない＝えならず［連語］

涙で袖がぬれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

涙にぬれる＝しぐる（時雨る）［動・下二］

涙を流す＝しほたる（潮垂る）［動・下二］例 帝、ののしりあはれがりたまひて、御しほたれたまふ。［大和］訳 帝は、はやしたておほめになって、涙を流しなさる。

並みでない＝ゆゆし（由々し・忌々し）［形・シク］

並々だ＝おぼろけなり［形動・ナリ］
並々でない＝おぼろけなり［形動・ナリ］
並々でない＝やむごとなし［形・ク］
なみひととおりだ＝よろし［形・シク］
例 よろしう書きかへたりし…［紫日記］訳 まあまあよく書き直した（物語）対義語 わろし＜①よくない・②下品だ・みにくい＞例 友とするにわろきもの…［徒然］訳 友だちとするのによくないもの
なみひととおりではない＝やむごとなし［形・ク］
悩む＝こうず（困ず）［動・サ変］例 石階（いしばし）おりのぼりなどすれば、ありく人こうじて、［蜻蛉］訳 石段を降りたり登ったりするので、行き来する人は疲れて、例 いかにいかにと日々責められ、こうじて…［源氏］訳 どうだ、どうだと日々責められて、困って
悩む＝まどふ（惑ふ）［動・四］
なやむ＝わづらふ（煩ふ）［動・四］類語 なやむ＜①苦しむ、②病気する、③非難する＞
悩む＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
なよやかで美しい＝なまめかし（生めかし・艶めかし）［形・シク］

（現在の）**奈良県**＝やまと（大和）［名］
並ぶものがない＝さうなし（双なし）［形・ク］例 城陸奥守泰盛（じやうむつのかみやすもり）は、さうなき馬乗りなりけり。［徒然］訳 城陸奥守泰盛は、並ぶものがないくらい優れた馬乗りであった。
ならんですわる＝なみゐる（並み居る）［動・上一］
並んで坐る＝ゐなむ（居並む）［動・四］
なるほど［共感・賛同］＝げに（実に）［副］例 また、ゐたる大人、「げに」とうち泣きて［源氏］訳 また、そこにいた年配の女房（にようぼう）が、「なるほど（そうですね）」と泣いて）例「（僧は）人には木の端のやうに思はるるよ。」と清少納言が書けるも、げにさることぞかし。［徒然］訳「（僧は）人には木の切れはしのように思われるよ。」と清少納言が書いているのも、なるほどもっともなことである。
慣れる＝ならふ（慣らふ・馴らふ）［動・四］例 かかるありきもならひたまはず、ところせき御身にて［源氏］訳 このような（忍び）歩きもお慣れにならず、窮屈なご身分の方なので
なんだって［疑問表現で］＝なでふ（何でふ）［副／連体］

何でも知っている＝くまなし（隅無し）［形・ク］
何でもない＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］
なんという＝なでふ（何でふ）［副／連体］例 こはなでふ事のたまふぞ。［竹取］訳 これはなんという事をおっしゃるのか。
なんということもない＝そこはかとなし［形・ク］
何という理由もない＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］
何といっても＝なほ（猶・尚）［副］
なんといってもやはり＝なほ（猶・尚）［副］
なんとかして［願望表現で］＝いかで（如何で）［副］例 物語といふものいかで見ばや。［更級］訳 物語というものをなんとかして見たい。例 女三の宮（をんなさんみや）、琴をなんをかしく弾きたまふと聞こしめして、帝（みかど）、「いかでその宮の琴聞かむ」［栄花］訳 女三（をんな）の宮が、琴を上手にお弾きになるとお聞きになって、帝は、「どうかしてその宮の琴を聞きたい」（とおっしゃる）
何とかして…たい＝ばや［助］
なんとなく慕わしい＝ゆかし（床し）

[形・シク] 例 山路来て何やらゆかしすみれ草[野ざらし] 訳 山道を歩いて来るとすみれの花を見つけた。何となく慕わしく感じられることよ。

なんとなく…だ＝すずろなり（漫ろなり）[形動・ナリ]

何とはなしに＝すずろなり（漫ろなり）[形動・ナリ]

なんとまあ＝いかに [副]

何とも言いようがなくひどい＝むげなり（無下なり）[形動・ナリ]

何とも言えないほどだ＝えならず [連語] 例 唐の、大和の、めづらしく、えならぬ調度どもを並べおき、[徒然] 訳 中国のや、日本のや、珍しく、何とも言えないほどすばらしい家具をいろいろ並べておいて、

何にもならない＝かひなし（甲斐なし）[形・ク] 例 そののち、翁・嫗、血の涙を流して惑へどかひなし。[竹取] 訳 その後、おじいさんとおばあさんは、血の涙を流して悲しんだが何にもならない。

何の考えもない＝こころなし（心無し）[形・ク]

何の変化もない＝つれなし（連れ無し）[形・ク]

に

似合う＝あふ（合ふ）[動・四]

…において[場所を表す]＝にて [格助]

にがにがしい＝あぢきなし [形・ク]

（そばで見たり聞いたりしていて）**にがにがしい**＝かたはらいたし（傍痛し）[形・ク]

憎い＝あし（悪し）[形・シク]

憎む＝うらむ（恨む・怨む）[動・上二]

にくらしい＝いまいまし（忌忌し）[形・シク]

にくらしい＝うし（憂し）[形・ク]

にくらしいくらい立派だ＝ねたし（妬し）[形・ク]

（その形に）**似せてつくったもの**＝かた（形）[名]

（…た）**にちがいない**＝けらし [助動＋助動] 例 吾妹子は常世の国に住みけらし昔見しより復ちましにけり [万葉] 訳 あなたは不老不死の国に住んでいたにちがいない。昔見たときより若返りなさったことよ。

…にちがいない＝てむ [連語]

日常向きだ＝まめまめし（真実真実し）[形・シク]

日常用いる道具、家具など＝てうど（調度）[名]

似つかわしい＝つきづきし（付き付きし）[形・シク] 例 いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。[枕] 訳 寒い時に、火を急いでおこして、炭を持って（各部屋に）運んで行くのも、（冬の早朝に）たいそう似つかわしい。 例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。[徒然] 訳 住まいが調和がとれており理想的に造られているのは、仮の宿りだとは思うが、心がひかれるものである。

…につれて＝ままに [連語] 例 ほど経るままに、せむかたなく悲しう思さるるに、[源氏] 訳 時がたつにつれて、どうしようもなく悲しくお思いになって、

日本の国＝やまと（大和）[名]

…にまかせて＝ままに [連語]

柔和だ＝おとなし（大人し）[形・シク]

（宮中や貴族の邸内にある）**女官、宮人などのへや**＝ざうし（曹司）[名]

…によって[手段・方法を表す]＝にて [格助] 例 深き河を舟にて渡る。[更級] 訳 深い河を舟で渡る。（注意「舟

であって」と訳せない）

似る＝おぼゆ（覚ゆ）［動・下二］例 尼君の見上げるたるに、少し覚えたるところあれば、子なめりと見たまふ。［源氏］訳 尼君が見上げた顔に、少し似ているところがあるので、子であるようだと御覧になる。

似る＝かよふ（通ふ）［動・四］

にわかだ＝とみなり（頓なり）［形動・ナリ］

にわかである＝とみなり（頓なり）［形動・ナリ］

（地方官の）**任国**＝あがた（県）［名］

人情＝なさけ（情け）［名］

ぬ

ぬかりなく用意する＝したたむ（認む）［動・下二］

（涙に）**ぬれる**＝しぐる（時雨る）［動・下二］

ぬれる＝しほたる（潮垂る）［動・下二］

ね

（尊敬する）**値打ちがある**＝こころにくし（心にくし）［形・ク］

値打ちがある＝めづらし（珍し）［形・シク］

（心が）**ねじけている**＝かたくななり（頑なり）［形動・ナリ］

熱中する＝すく（好く）［動・四］

眠る＝いをぬ（寝を寝）［連語］

寝る＝いをぬ（寝を寝）［連語］例 家思ふといをねず居れば鶴が鳴く［万葉］訳 家のことを思って寝ないでじっとしていると、鶴が鳴いている

年配で、かしらだっている＝おとなし（大人し）［形・シク］

年配で分別がある＝おとなし（大人し）［形・シク］

年配の＝おとなし（大人し）［形・シク］例 おとなしく、物知りぬべき顔した神官を呼びて、［徒然］訳 年配の、いかにも物を心得ていそうな顔をした神官を呼んで、

年齢＝ほど（程）［名・助］

の

能力がある＝たふ（耐ふ・堪ふ）［動・下二］

（頭に）**のせる**＝かづく（被く）［動・四］

のぞきこむ＝みいる（見入る）［動・下二］

望ましい＝あらまほし［形・シク］例 人は、かたち有様のすぐれたらんこそ、あらまほしかるべけれ。［徒然］訳 人は、顔や姿が優れていることこそが、望ましいであろう。例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。［徒然］訳 住まいが調和がとれていて理想的であるのは、短い人生の一時の宿とは思っても、興趣あるものだ。

（かねてからの）**望み**＝ほい（本意）［名］

…ので＝ほど（程）［助］

…ので＝ままに［連語］例 いみじく心もとなきままに、等身に薬師仏を造りて［更級］訳 たいそう気がかりなので、等身大に薬師仏を造って

（…が）**…ので**＝…を…み［慣用句］例 瀬を速み［詞花］訳 川瀬の流れが速いので

…**のところへ**＝のがり（の許り）［連語］［例］手をひき、つゑをつかせて、京なる薬師のがりゐて行きにけり。［徒然］［訳］手をひき、杖をつかせて、京都にいる医者のところへ連れて行った。

…**のもとに**＝のがり（の許り）［連語］

は

…**は**＝なむ［助］［例］その宣命読むなむ、悲しきことなりける。［源氏］［訳］その宣命を読むのは、それは悲しいことであった。

場合＝きは（際）［名］

俳諧＝ふうが（風雅）［名］＜芭蕉一門において＞

配偶者になる＝ぐす（具す）［動・サ変］

配置＝たより（頼り・便り）［名］

拝聴する＝うけたまわる（承る）［動・四］

（色美しく）**映える**＝にほふ（匂ふ）［動・四］［例］いにしへの奈良の都の八重桜今日九重に匂ひぬるかな［詞花］［訳］昔、奈良の都で咲いていた八重桜が、今日は（この平安の都の）宮中で、色美しく映えていることだなあ。

ばかだ＝おろかなり（疎かなり・愚かなり）［形動・ナリ］

はかどっている＝はかばかし（捗々し・果々し）［形・シク］［例］堂やうやう造りたてまつるに、材木はかばかしく出で来ず。［今昔］［訳］堂をしだいにお造り申し上げているが、材木の人手がはかどっていない。

はかどる＝はかばかし［形・シク］

はかない＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］［例］命をばあだなるものと聞きしかど…［新古今］［訳］命ははかないものと聞いていたけれども［例］逢はでやみにし憂さを思ひ、あだなる契りをかこち、長き夜をひとり明かし、［徒然］［訳］逢わないで終ってしまったつらさを思い、（相手との）はかない約束を嘆き、長い夜を一人で明かし、

はかない＝あへなし（敢へ無し）［形・ク］［例］帥の皇子、重く悩ませ給ひて、いとあへなくうせ給ふ。［増鏡］［訳］帥の皇子は、重病におなりになって、実にはかなくお亡くなりになる。

はかないこと＝はな（花）［名］

ばかになる＝しる（痴る）［動・四］

刃がよく切れる＝とし（利し）［形・ク］

ばからしい＝をこがまし［形・シク］［例］ありのままに言はむは、をこがましとにや、［徒然］［訳］ありのままに言うのは、ばからしいと思うのであろうか、

ばかり＝かぎり（限り）［名］

薄情だ＝つらし（辛し）［形・ク］［例］いとはつらくみゆれど、志はせむとす。［土佐］［訳］なんとまあ薄情だと思われるけれども、お礼の贈り物はしようと思う。

薄情だ＝つれなし［形・ク］

薄情だ＝なさけなし（情けなし）［形・ク］［例］「情けなき御心にぞものしたまふらんと、いと恐ろし」［徒然］［訳］「人情味のないお心でいらっしゃるだろうと、まことに恐ろしい」

はげしい＝いたし（甚し）［形・ク］

（勢いが）**激しい**＝たけし（猛し）［形・ク］

はげしい＝はしたなし（端なし）［形・ク］（連用形「はしたなく」の形で）［例］野分はしたなう吹いて…［平家］［訳］野分きの風が激しく吹いて

はげしくなる＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］

派遣なさる＝つかはす（遣はす）［動・四］［例］六衛の司あはせて、二千人の人を、竹取が家に遣はす。［竹取］［訳］（帝

は）六衛府の役人をあわせて、二千人の人を、竹取を翁の家に派遣なさる。例 つかはしし人は、夜昼待ち給ふに…［竹取］訳 派遣なさった人を、夜も昼もお待ちになるが

はじめ＝たらう（太郎）［名］

初めて任官すること＝うひかうぶり（初冠）［名］

…（し）はじめる［補助動詞］＝そむ（初む）［動・下二］例 うたた寝に恋しき人を見てしより夢てふものは思ひそめてき［古今］訳 うたた寝に恋しい人を夢に見てしまってから、夢というものを頼みに思いはじめてしまった。例 今年より春知りそむる桜花散るといふことはならはざらなむ［古今］訳 今年から春を知りはじめる桜花よ（どうか咲くことだけを覚えて）散ることは覚えないでほしい。

場所＝かた（方）［名］

芭蕉一門ではとくに俳諧のこと＝ふうが（風雅）［名］

場所が狭い＝ところせし（所狭し）［形・ク］

はずかしい＝かたじけなし（辱し・忝し）［形・ク］

（自分の気持ちとして第三者が自分をどう見るか）**恥ずかしい**＝かたはらいたし（傍痛し）［形・ク］

恥ずかしい＝はづかし（恥づかし）［形・シク］

恥ずかしい＝やさし（恥し・優し・羞し）［形・シク］例 帝の宣はむ言につかむ、人聞きやさし。［竹取］訳 帝がおっしゃるようなお言葉（＝求婚）に従うなら、それは外聞がどんなかと恥ずかしい。

はずれる＝たがふ（違ふ）［動・四］

…はそれは＝なむ［助］

ばつがわるい＝はしたなし（端なし）［形・ク］例 はしたなきもの、異人を呼ぶに、われぞとさし出でたる。［枕］訳 ばつの悪いもの、他人を呼んだ時に、自分かと思って出ていくこと。

はっきりさせる＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

はっきりしている＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］例 潮の近く満ちける跡もあらはに…［源氏］訳 潮が近くに満ちた跡もはっきりしていて

はっきりしている＝さやけし（清けし）［形・ク］例 巡り来て手に取るばかりさやけきや淡路の島のあはと見し月［源氏］訳 月日も廻り、自分も再び都にもどってきて、手にとるようにはっきり見えている月は、「淡路の島のあわ」と見たのと同じものなのだろうか。

はっきりしている＝しるし（著し）［形・ク］例 いといたうやつれたまへれど、しるき御さまなれば、［源氏］訳 ひどくそまつな身なりでいらっしゃるけれども、（高貴な方と）はっきりわかる御様子なので、例 いたく臆したまへる御けしきのしるきを…［大鏡］訳 ひどくおじけづいていらっしゃるご様子がはっきりしているのを

はっきりしている＝はかばかし（捗々し・果々し）［形・シク］例 空のけしきはかばかしくも見えず…［徒然］訳 空の様子は、はっきりとも見えず

はっきりしない＝いぶかし（訝し・審し）［形・シク］例 いささかいぶかしき所の侍るかと…［徒然］訳 少しはっきりしない所があるのではありませんかと

はっきりしない＝いぶせし［形・ク］

はっきりしない＝おぼつかなし（覚束無し）［形・ク］例 藤のおぼつかなきさましたる、［徒然］訳 藤の花がぼうっとした様子で咲いていること、

はっきりしない＝おぼろけなり・おぼろげなり（朧けなり・朧げなり）［形動・ナリ］

はっきりしない＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］

はっとさせる＝おどろかす（驚かす）［動・四］

はっとして気づく＝おどろく（驚く）［動・四］

初鳴き＝しのびね（忍び音）［名］例 四月二日なりしかばまだしのびねのころにて…［大鏡］訳 四月二日だったので、まだほととぎすの初鳴きの頃で

はでだ＝いまめかし（今めかし）［形・シク］

花の色がさめる＝うつろふ（移ろふ）［動・四］

甚だしい＝いたし（甚し・痛し）［形・ク］

甚だしい＝いみじ［形・シク］

甚だしい＝えもいはず（えも言はず）［慣用句］

甚だしい＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］

甚だしい＝けしからず（怪しからず）［連語］

甚だしい＝こちたし（言痛し・事痛し）［形・ク］例 暁方より雨少し降りて、菊の露もこちたく、おほひたる綿などもいたくぬれ…［枕］訳 明け方から雨が少し降って、菊も露もひどく、花にかぶせた綿などもたいへん濡れ

甚だしい＝ゆゆし（由々し・忌々し）［形・シク］例 おのおの拝みて、ゆゆしく信おこしたり。［徒然］訳 各人が（社を）拝んで、甚だしく信仰心をおこした。

はなはだしく＝けしう（異しう・怪しう）［副］

はなはだしくひどい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］例 むげの瑕瑾もありき。［徒然］訳（名人でも初めは）はなはだしくひどい欠点もあった。

華やかだ＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］例 艶にまばゆきさまは、まさりざまにぞ見ゆる。［源氏］訳 その華やかで美しく、目も眩むほどの様子はいっそう際立っているように思われる。

はなやかではかないこと＝はな（花）［名］

はなやかなこと＝はな（花）［名］

はなやかに美しい＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］

（遠く）離れた所＝くもゐ（雲居）［名］

（心が身から）離れ出る＝あくがる（憧る）［動・下二］

離れられない＝さりがたし（去り難し）［形・ク］

離れる＝あかる（別る）［動・下二］例 碁打ちはてつるにやあらむ、うちそよめきて、人々あかるるけはひなどすなり。［源氏］訳 碁を打ち終えたのであろうか、着物のそよそよという音がして、女房たちがその場を離れるけはいなどがするようだ。

離れる＝かる（離る）［動・下二］例 山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば［古今］訳 山里は、ただでさえも寂しいのに、冬はいっそう寂しさがつのる。人目も離れ、草も枯れてしまうと思うと。

速い＝とし（疾し）［形・ク］例 春やとき花やおそき［古今］訳 春が来るのがはやいのか、花が咲くのが遅いのか例 とき時は、則ち功あり。［徒然］訳（何ごとも）すばやくやる時は、成功する。

早い＝とし（疾し）［形・ク］例 おのれは、疾う疾う、女なれば、いづちへも行け。［平家］訳 お前は、早く早く、女なのだから何処へでも行け。

早く…（すればよい・してもらいたい）

＝いつしか（何時しか）［副］例 十六日、風波やまねば、なほ同じ所にとまれり。ただ海に波なくて、いつしかみさきといふ所に渡らむとのみなむ思ふ。［土佐］訳 十六日、風や波がやまないので、やはり同じ所に停泊していた。ただ海に波がなくなって、早くみさき（＝室戸岬）という所を通り過ぎたいとばかり思う。例 いつしか梅咲かなむ、来むとありしを、さやあると、目をかけて待ちわたるに…［更級］訳 早く梅が咲いてほしい、（その梅が咲く頃に）来ようと、（母が）言ったが、そのとおりなのかと、（梅に）注意してずっと待っているのに

早くから＝つとに（夙に）［副］

早くも＝いつしか（何時しか）［副］

払いのける＝やる（遣る）［動・四］

晴らす＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

（心を）**晴らす**＝やる（遣る）［動・四］

腹立たしい＝ねたし（妬し）［形・ク］例 かへさまに縫ひたるもねたし。［枕］訳 裏返しに縫ってしまったのもくやしい。

はりあいがない＝あへなし（敢へ無し）［形・ク］

はるかに遠くを見る＝みやる（見遣る）［動・四］

犯罪＝とが（科・咎）［名］

晩秋から初冬にかけて、雨が降ったりやんだりする＝しぐる（時雨る）［動・下二］

判断する＝ことわる（理る・断る）［動・四］例 はては国の守のもとにして、これをことわらしむ。［沙石］訳 ついには国の守のもとで、この件を判断させる。

判断する＝わく（分く・別く）［動・四］

ひ

ひかえる＝さぶらふ（候ふ）［動・四］

ひかえる＝はべり（侍り）［動・ラ変］

比較する＝あはす（合はす）［動・下二］

ひからびて死ぬ＝かる（枯る）［動・下二］

光＝かげ（影）［名］例 木の間より漏りくる月のかげ見れば心づくしの秋は来にけり［古今］訳 木の間から漏れてくる月の光を見ると、さまざまに物思いをする秋が来たのだ（と思う）。例 暁近くなりて、待ち出でたるが……深き山の杉の梢に見えたる木の間の影…［徒然］訳 夜明け前近くになって、やっと出た月が……深い山の杉の枝先に見えている、木の間からもれる光

ひかれる＝あくがる（憧る）［動・下二］

ひかれる＝めづ（賞づ・愛づ）［動・下二］→「心がひかれる」参照

（心がそちらの方に強く）**ひかれる**＝ゆかし（床し）［形・シク］

引き連れる＝ゐる（率る）［動・上一］

ひきょうだ＝つたなし（拙し）［形・ク］

庇護＝かげ（影・陰）［名］

ひざで進む＝ゐざる（居ざる）［動・四］

非常に＝あまた（数多）［副］例 沖つ波騒くを聞けばあまたかなしも［万葉］訳 沖の波が騒ぐのを聞くと、非常に悲しい。

非常に＝いみじ［形・シク］例 いみじう苦しげにて、［大鏡］訳 たいそう苦しそうな様子で、

非常に＝えもいはず（えも言はず）［連語］

非常に＝けしう（異しう・怪しう）［副］例 けしうつつましき事なれど…［蜻蛉］訳 非常に気がひける事であるけれども

非常に＝ここだ［副］

非常に＝せめて［副］

非常に＝よに（世に）［副］

ひそかだ＝みそかなり（密かなり）［形動・ナリ］例 みそかに花山寺におはしまして、御出家入道せさせたまへりしこそ。［大鏡］訳（花山天皇は）ひそかに花山寺においでになって、御出家され仏道にお入りになった。

ひたすら＝ひたぶるなり［形動・ナリ］例 人は万をさしおきて、ひたぶるに徳を付くべきなり。［徒然］訳 人間は万事をさしおいて、ひたすら徳を身につけなければならない。

ひたすらだ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

ひたすらだ＝せちなり（切なり）［形動・ナリ］

ひたむきだ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

びっくりする＝あさむ（浅む）［動・四］

びっくりする＝おどろく（驚く）［動・四］

筆跡＝て（手）［名］例 故宮の御手よな。［大鏡］訳 なき母宮の御筆跡だな。

筆跡（＝書いた文字のあと、書きぶり）＝みづくき（水茎）［名］

必要がない＝えうなし（要なし）［形・ク］

人＝かた（方）［名］

ひどい＝いたし（甚し・痛し）［形・ク］例 八月十五日ばかりの月に出でゐて、かぐや姫いといたく泣きたまふ。［竹取］訳 八月十五日ごろの月に（軒近くに）出てすわって、かぐや姫はとてもひどくお泣きになる。例 神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ…［伊勢］訳 雷までもたいそうひどく鳴り、雨もひどく降ったので

ひどい＝いみじ［形・シク］例 いといみじき目な見せ給ひそ。［源氏］訳 たいそうひどい目にあわせないでください。

（言いようもなく）**ひどい**＝えもいはず（えも言はず）［慣用句］

ひどい＝かしこし（賢し・畏し）［形・ク］例 これかれかしこく嘆く。［土佐］訳 だれもかれもひどく嘆く。

ひどい＝けしからず（怪しからず）［連語］

ひどい＝こちたし（言甚し・事甚し）［形・ク］例 暁方より雨少し降りて、菊の露もこちたく、おほひたる綿などもいたくぬれ…［枕］訳 明け方から雨が少し降って、菊の露もひどく、花にかぶせた綿などもたいへん濡れ

ひどい＝はしたなし（端なし）［形・ク］

ひどい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］例 天下の物の上手といへども、初めは不堪の聞こえもあり、むげの瑕瑾もありき。［徒然］訳 天下の芸の名手といっても、初めのころは不器用という評判もあり、ひどい欠点もあった。

（しうちの）**ひどい人**＝つらき人［連語］

人柄＝しな（品）［名］

ひどく＝せめて［副］例 せめておそろしきもの、夜鳴る神。［枕］訳 ひどく恐ろしいもの、夜鳴る雷。

ひどく…する＝まどふ（惑ふ）［動・四］（他の動詞の連用形につく）

人知れず声をしのんで泣くこと＝しのびね（忍び音）［名］例 しのびねをのみ泣きて…［更級］訳 ただただ人知れず声をしのんで泣いて

ひどすぎる＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

一つ所に落ちつく＝ゐる（居る）［動・上一］

ひととおりだ＝なのめなり（斜めなり）［形動・ナリ］

ひととおりでない＝なのめならず［連語］例 主上御嘆きなのめならず、昼は夜のおとどに入らせたまひて、御涙に

のみむせび、[平家] 訳 帝はお嘆きはひととおりでなく、昼でも御寝所にお入りになって、御涙にばかりむせび、

ひととおりでない（よい意味にも悪い意味にも用いる）＝ゆゆし [形・シク]

ひととおりでない＝わりなし（理無し）[形・ク]

人のしうちを憎む＝うらむ（恨む・怨む）[動・上二]

人の様子＝けしき（気色）[名]

一晩中＝よすがら（夜すがら）[副]

人目を避ける＝しのぶ（忍ぶ）[動・上二／四] 例 しのびたるけはひ、いとものあはれなり。[徒然] 訳 人目を避けて（暮らして）いる様子は、とてもしみじみとした情趣が感じられる。

人目をしのぶ＝みそかなり（密かなり）[形動・ナリ] 例 みそかなる所なれば、門よりもえ入らで…[伊勢] 訳 人目をしのぶ所なので、門からは入れないで

一人ごとを言ふ＝ひとりごつ（独りごつ）[動・四]

一人でつぶやく＝ひとりごつ（独りごつ）[動・四]

ひとりでに＝おのづから（自ら）[副]

非難する＝なやむ（悩む）[動・四]

非難する＝もどく（悩む）[動・四]

ひねくれている＝ひがひがし（僻僻し）[形・シク] 例 ひがひがしからん人の仰せらるること、聞き入るべきかは。[徒然] 訳（こんな雪の日に、雪について何も言わないような）ひねくれている人のおっしゃることを、承知できるでしょうか、いやできません。

ひまだ＝いたづらなり（徒らなり）[形動・ナリ]

ひまでものたりない＝つれづれなり（徒然なり）[形動・ナリ]

秘密にする＝しのぶ（忍ぶ）[動・四／上二]

（玉をぬき通す）**ひも**＝たまのを（玉の緒）[名]

病気が重い＝あつし（篤し）[形・シク] 例 いとあつしくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、[源氏] 訳 とても病気が重くなっていき、心細そうに実家にひきこもりがちになるのを、

病気がちだ＝あつし（篤し）[形・シク]

病気が治る＝おこたる（怠る）[動・四] 例 季縄の少将、病にいたうわづらひて、すこしおこたりて内に参りたりけり。[大和] 訳 季縄の少将は、病気をとてもひどくわずらって、少し治って宮中に参上したのであった。例 身にやむごとなく思ふ人のなやむを聞きて……おこたりたる由、消息聞くもいとうれし。[枕] 訳 自分がとても大切に思っている人が病気をしているのを聞いて……全快したことを便りに聞くのは実にうれしい。

病気がよい方に向う＝おこたる（怠る）[動・四]

病気がよくなる＝おこたる（怠る）[動・四]

病気する＝わづらふ（煩ふ）[動・四] 例 昔、男、わづらひて、心地死ぬべくおぼえければ…[伊勢] 訳 昔、ある男が病気になって、今にも死んでしまいそうな気持ちになったので 類語 なやむ＜①苦しむ、②病気する、③非難する＞

病気で体が弱る＝こうず（困ず）[動・サ変]

病気にかかる＝なやむ（悩む）[動・四]

病気にかかる＝わづらふ（煩ふ）[動・四]

病気になる＝なやむ（悩む）[動・四] 例 姉のなやむことあるに、ものさわがしくて、[更級] 訳 姉が病気になることがあって、（家の中が）何かとごた

ごたして、

病気のような感じで、気分が悪い＝なやまし［形・シク］

表情＝けしき（気色）［名］例 御子は我にもあらぬ気色にて…［竹取］訳 御子はどぎまぎして自失の表情で

評判＝おぼえ（覚え）［名］

評判＝こと（言）［名］

評判が高い、評判がたかくなる＝ののしる（罵る）［動・四］例 この世にののしり給ふ光源氏、かかるついでに見奉りたまはむや。［源氏］訳 世間で評判の高くていらっしゃる光源氏を、このような機会にお見申し上げなさいませんか。

評判だ＝なにしおふ（名にし負ふ）［慣用句］

評判である＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］

評判になる＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］例 むかし名高く聞こえたるところなり。［土佐］訳 昔、名高く評判になった所である。

ひょっとすると＝ようせずは（良うせずは）［連語］例 坊にも、ようせずは、この御子の居たまふべきなめりと、一の御子の女御は思し疑へり。［源氏］訳 皇太子にも、悪くすると、この御子がおつきになりそうだと、第一皇子の母である女御は疑わしくお思いになった。

ひらがな＝かな（仮名・仮字）［名］

広さ＝ほど（程）［名］

品位＝しな（品）［名］

頻繁である＝しげし（繁し・茂し）［形・ク］例 内より御使ひ、雨の足よりもしげし。［源氏］訳 内裏からの御使いが、雨の降りしきるさまよりも頻繁である。

ふ

無愛相だ＝はしたなし（端なし）［形・ク］

不安だ＝うしろめたし（後ろめたし）［形・ク］例「いとはかなうものしたまふこそ、あはれにうしろめたけれ」［源氏］訳「たいそう子供っぽくていらっしゃることが、気の毒だし気がかりだ」

不安だ＝おぼつかなし（覚束無し）［形・シク］例 都を遠ざからむも故里おぼつかなかるべきを…［源氏］訳 都を遠く離れるとすれば、それも故郷のことが気にかかって不安に感じるにちがいないのに

不安だ＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］例 心もとなきことはあらじかし。［蜻蛉］訳（父の所なら）不安なこともないにちがいない。

風雅＝みやび（雅び）［名］

風雅だ＝やさし［形・シク］例「軍の陣へ笛持つ人はよもあらじ。上臈はなほもやさしかりけり」［平家］訳「（味方には）戦陣に笛を持つ人はよもやあるまい。身分の高い公達はやはり風雅なことよ」

風雅の道に心を寄せること＝すき（好き）［名］例 人の好きと情けとは、年月に添へて衰へゆく［無名抄］訳 人の風雅の道に心を寄せることと思いやりとは、年月の経つに従って衰えゆく

夫婦関係＝ちぎり（契り）［名］

夫婦仲＝よ（世・代）［名］例 まだ世になれぬは、五、六の君ならむかし。［源氏］訳 まだ男女の仲になれないのは、五、六番目の姫君であろうよ。

夫婦仲＝よのなか（世の中）［名］例 夢よりもはかなき世の中を嘆きわびつつ…［和泉］訳 夢よりもたよりない男女

の仲をつらいと嘆き続けて

夫婦の仲＝よ（世）［名］例 世なれたる人とも覚えねば、人の思はむところもえはばかりたまはで［源氏］訳 男女関係に慣れている女とも思えないので、人の思わくも遠慮なさることなく、

風流＝みやび（雅び）［名］例 むかし人は、かくいちはやきみやびをなむしける。［伊勢］訳 昔の人は、このように熱情をこめた風流なことをしたのだ。

風流がわかる心＝なさけ（情け）［名］

風流だ＝おもしろし（面白し）［形・ク］

風流だ＝すきずきし（好き好きし）［形・シク］

風流だ＝やさし（優し・羞し）［形・シク］

風流を理解する＝すく（好く）［動・四］

不運だ＝つたなし（拙し）［形・ク］例「かうつたなき身にて、この世のことは捨て忘れはべりぬるを」［源氏］訳「このように不運な身で、この世のことは捨てて忘れてしまいましたが」

無遠慮だ＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］例 あれは誰そ、あらはなり。［枕］訳 あれは誰かなどというのは、ぶしつけだ。

不快だ＝あし（悪し）［形・シク］例 このもとの女、あしと思へるけしきもなくて、いだしやりければ、［伊勢］訳 このもとからの女（＝妻）は、不快だと思っている様子もなくて、（男を）送り出したので、

不快だ＝あぢきなし［形・ク］

不快だ＝いぶせし（鬱悒し）［形・ク］例 庭の草もいぶせき心地するに…［源氏］訳（庭の宿の）庭の草も不快な心地がするうえに

不快だ＝むつかし（難し）［形・シク］例 このごろは、深く案じ、才覚をあらはさんとしたるやうに聞こゆる、いとむつかし。［徒然］訳 最近は、（名前を付ける時に）深く思案し、学才のほどを見せつけようとしているように思われるのは、たいへんわずらわしい。

ふがいない＝いふかひなし（言ふ甲斐なし）［形・ク］

不快に＝うたて［副］

深く感じるようすだ＝あはれなり［形動・ナリ］

不格好である＝ふつつかなり（不束なり）［形動・ナリ］

不完全だ＝かたほなり（片秀なり・偏なり）［形動・ナリ］

不吉だ（から避けたい）＝いまいましい（忌忌し）［形・シク］

不吉である＝ゆゆし［形・シク］例「ゆゆしき身に侍ればはべ、かくておはしますも、いまいましうかたじけなく」［源氏］訳「（私は）不吉な身ですから、（若君が）こうして（私の家に）いらっしゃるのも、縁起が悪くもったいなく（思います）」例「舟道ゆゆし」といさめけり。［源氏］訳「舟旅に（涙は）不吉だ」と忠告した。

無気味だ＝すごし（凄し）［形・ク］例 霰あられ降り荒れて、すごき夜のさまなり。［源氏］訳 霰が激しく降って、無気味な夜の様子である。

不気味だ＝むくつけし［形・ク］

不器量だ＝かたほなり（片秀なり）［形動・ナリ］

武家の弓矢の特称＝てうど（調度）［名］

（いかにも）無骨だ＝こちごちし（骨骨し）［形・シク］

（気が）ふさいでいる＝いぶせし［形・ク］

ふさぎこむ＝くんず（屈ず）［動・サ変］例 月の興も覚えず、くんじ臥しぬ。［更級］訳 月の興も感じられず、ふさぎこんで寝た。

無作法だ＝こちごちし（骨骨し）［形・シ

ク］

不作法だ＝なめし（無礼し）［形・ク］例 文ことばなめき人こそ、いとにくけれ。［枕］訳 手紙に用いる言葉が不作法な人は実に気に入らない。

無作法だ＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］

ふさわしい＝さるべき（然るべき）［連語］

ふさわしい＝つきづきし［形・シク］例 いと寒きに、火など急ぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。［枕］訳 寒い時に、火を急いでおこして、炭を持って（各部屋に）運んで行くのも、（冬の早朝に）たいそう似つかわしい。例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。［徒然］訳 住まいが調和がとれており理想的に造られているのは、仮の宿りだとは思うが、心がひかれるものである

ふさわしくなる＝あふ（合ふ・会ふ・逢ふ）［動・四］例 人のほどにあはねば咎むるなり。［土佐］訳 身分にふさわしくないので気にとめるのである。

不思議だ＝あやし（怪し・奇し・異し）［形・シク］例 いかに見えつる御夢ならんと、あやしく思さるれど、人にものたまはず。［増鏡］訳 どうして見た御夢なのだろうと、不思議にお思いになるけれども、人にもおっしゃらない。

不思議だ＝けしからず（怪しからず）［連語］

ぶしつけだ＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］例 あれは誰そ、あらはなり。［枕］訳 あれは誰かなどというのは、ぶしつけだ。

ぶしつけだ＝うちつけなり（打ち付けなり）［形動・ナリ］

不十分だ＝かたほなり（片秀なり）［形動・ナリ］

不十分だ＝まだし（未し）［形・シク］

ふすま＝さうじ（障子）［名］

風情がある＝おもしろし（面白し）［形・ク］

風情がある＝をかし［形・シク］

風情がない＝なさけなし（情けなし）［形・ク］

風情がない＝むつかし（難し）［形・シク］

不誠実だ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］例 昔、女の、あだなる男の形見とておきたる物どもを見て…［伊勢］訳 昔、女は、不誠実な男が形見だと言って置いていった品々を見て

ふたたび＝なほ（猶・尚）［副］

不調和だ＝あいなし［形・ク］

不調和だ＝すさまじ（凄じ）［形・シク］

ふつう＝なべて（並べて）［副］

普通だ＝おぼろけなり［形動・ナリ］例 それを張らせて参らせんとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、［枕］訳 その扇を（紙を）張らせて差しあげようと思うが、普通の紙は張ることができそうにないので、

普通だ＝なのめなり（斜なり）［形動・ナリ］

普通だ＝よろし（宜し）［形・シク］

普通でない＝けしからず（怪しからず）［連語］

普通でない＝ことなり（異なり・殊なり）［形動・ナリ］

普通ではない＝おぼろげなり（朧げなり）［形動・ナリ］

普通ではなく感心できない＝けしからず［連語］

普通と変わっていて異様だ＝けし（怪し・異し）［形・シク］

普通とは違って変だ＝あやし（怪し）［形・シク］

普通の＝れいの（例の）［連語］
不都合だ＝けし（怪し・異し）［形・シク］
不都合だ＝けしからず（怪しからず）［連語］
不都合だ＝たいだいし（怠々し）［形・シク］
不都合だ＝びんなし（便無し）［形・ク］例 あいなう、人のためにびんなき言ひ過ぐしもしつべき所々もあれば、よう隠しおきたりと思ひしを、［枕］訳 あいにく、その人にとっては具合の悪い言い過ぎをしてしまったような箇所もいくつかあるので、うまく隠したと思っていたのに、例 びんなき事もあらば、重く勘当せしめ給ふべき由…［大鏡］訳 もし不都合な事があったら厳重に処罰するという旨
不都合だ＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］
不都合だ＝まさなし（正無し）［形・ク］
仏道修業をする（仏に花をあげたり、お経をあげることも含める）＝おこなふ（行ふ）［動・四］例 のぞきたまへば、ただこの西面にしも、持仏すゑたてまつりて行ふ、尼なりけり。［源氏］訳（光源氏が）のぞきなさると、すぐ目の前の西側の部屋に、持仏を安置申しあげて仏道修業をする（人は）、尼であった。
太くて丈夫である＝ふっつかなり（不束なり）［形動・ナリ］
船遊び＝あそび（遊び）［名］
ふびんだ＝いとほし［形・シク］例 いとか弱くて、昼も空を見つるもいとほしと思して［源氏］訳（夕顔は）とても気が弱くて、昼間も空ばかり見つめていたが、（源氏はそれを）ふびんにお思いになって
不憫だ＝びんなし（便無し）［形・ク］例 殿をば便なしとも思ひ聞こえざりしかども［落窪］訳 殿を不憫だとお思い申し上げなかったけれども
不平を言う＝かこつ（託つ）［動・四］
不本意だ＝ほいなし（本意無し）［形・ク］例 別れぬること、かへすがへすほいなくこそはべれ。［竹取］訳 別れてしまうことはほんとうに不本意でございます。
不真面目だ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］
不名誉＝おもてふせ（面伏せ）［名］
不愉快だ＝あし（悪し）［形・シク］
不愉快だ＝こころうし（心憂し）［形・ク］
不愉快だ＝もどかし［形・シク］
不用意＝ゆくりなし［形・ク］例 思ひやり深うものし給ふ人の、ゆくりなくかうやうなる事折々まぜ給ふを…［源氏］訳 あれほど思慮深くていらっしゃるお方が、不用意に、このようなことをときどきなさるのを
古い時代＝こたい（古体）［名］
古くなる＝ふる（古る・旧る）［動・上二］
ふるまい＝おこなひ（行ひ）［名］
（〜のように）**ふるまう**＝もてなす［動・四］
（なにかわけがありそうに）**ふるまう**＝ゆゑだつ（故立つ）［動・四］
古めかしい様子＝こたい（古体）［名］
無礼だ＝なめし（無礼し）［形・ク］例 いとなめしと思ひけれども、志はいやまさりけり。［伊勢］訳（女のつれない応対を男は）ひどく無礼だと思うけれども、女への執心はいよいよつのっていった。類例 あさましく食べ酔ひて、対面賜はりけるを、いかになめげなる様に侍りけむ。［宇津保］呆れるほど食べ、酔ってから、対面の機会をいただいたが、どんなに無礼な様子だっ

たでしょう。

無礼だ＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］

無礼だ＝ゐやなし（礼無し）［形・ク］

雰囲気＝けはひ［名］例 秋のけはひの立つままに、土御門殿のありさま、いはむかたなくをかし。［紫日記］訳 秋の雰囲気が現れるにつれて、土御門殿（道長邸）のありさまは、いいようもなく趣深い。

文学＝ふみ（文）［名］

文書＝ふみ（文・書）［名］例 史記などといふふみは［源氏］訳 史記などといふ書物は

文書の内容＝あない（案内）［名］

分不相応だ＝おほけなし［形・ク］例 なほいとわが心ながらも、おほけなく、いかで、たちいでにしかと、［枕］訳 やはり何とも我ながら、分不相応に、どうして、宮仕えに出たのかしらと、

分別がある＝おとなし（大人し）［形・シク］

分別がある＝こころあり（心あり）［連語］

分別がない＝こころなし（心無し）［形・ク］

分別がない＝わりなし［形・ク］

へ

平気だ＝つれなし［形・ク］例 上手（じゃうず）の中にまじりて、そしり笑はるるにも恥ぢず、つれなく過ぎてたしなむ人、…終（つひ）に上手の位にいたり、［徒然］訳 達人たちの中に交じって、けなされ笑われても恥ずかしいと思わず、平気で押し通して励む人は、…最終的には達人の地位に達し、

平気な顔だ＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

平家の子弟＝きんだち（君達・公達）［名］

平常のまま＝なほざりなり（等閑なり）［形動・ナリ］

平然としている＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

平凡だ＝なのめなり（斜なり）［形動・ナリ］例 思ふことの少しもなのめなる身ならましかば…［紫日記］訳 思うことが少しでも平凡な身であったなら

へただ＝あし（悪し）［形・シク］例 あしくたばかりて…［竹取］訳 へたに工夫して

へただ＝つたなし（拙し）［形・ク］例 心の愚かなるをも知らず、芸のつたなきをも知らず…［徒然］訳 心が愚かなのも知らず、芸がへたなのも知らず

へただ＝をぢなし（怯なし）［形・ク］

（心の）隔り＝ひま（隙・暇）［名］

下手な歌＝こしをれうた（腰折歌）［名］

（宮中や貴族の邸内にある女官、宮人などの）部屋＝ざうし（曹司）［名］

（時・場所が）変化していく・変化する＝うつろふ（移ろふ）［動・四］

変化をしない＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

返事する＝いらふ（答ふ・応ふ）［動・下二］例 いま一声呼ばれていらへんと…［宇治］訳 もう一回呼ばれてから返事をしようと

（普通とは違って）変だ＝あやし（怪し・奇し・異し）［形・シク］例 つひに見えず。あやしと思ふに…［増鏡］訳 とうとう現れない。変だと思っていると

変だ＝けしからず（怪しからず）［連語］例 木精などといふけしからぬ形も現るるものなり。［徒然］訳 木の精などという異様なものも現れるものである。

返答する＝いらふ（答ふ・応ふ）［動・下二］

（気が）変になりそうだ＝ものぐるほし（物狂ほし）［形・シク］

ほ

方向＝かた（方）［名］

奉公人＝をのこ（男）［名］

茫然としている＝われか（我か）［連語］ 例 いとどなよなよとわれかのけしきにて…［源氏］訳 ますますなよなよと弱々しく我を失っている様子で 類語 われかひとか〈自分なのか他人なのか判然としない・茫然自失の状態である〉 例 我か人かと身をたどる世に［古今］訳 この身が自分なのか人なのかと迷っている時ゆえ

褒美として（衣服を肩にかけて）**与える**＝かづく（被く）［動・四／下二］ 例 御衣脱ぎてかづけたまひつ。［竹取］訳（中納言は）お召し物を脱いでほうびとして与えなさった。 例 御衣ぬぎて、かづけさせたまふ。［増鏡］訳 お着物を脱いで、褒美としてお与えになった。

ほうびの品として（衣服を）**いただく**＝かづく（被く）［動・四］

ほうびの品（衣服）**を左の肩にかける**＝かづく（被く）［動・四］

方便＝たより（便り・頼り）［名］

方法＝かた（方）［名］

方法＝て（手）［名］

方法がない＝ずちなし（術なし）［形・ク］

方法がない＝よしなし（由無し）［形・ク］ 例 今さらによしなし。［大鏡］訳 今さらどうしようもない。

訪問＝せうそこ（消息）［名］

訪問する＝おとなふ（音なふ）［動・四］

訪問する＝おどろかす（驚かす）［動・四］

ほかから見ても愚かなさまだ＝をこがましし（痴がまし）［形・シク］

他と違っている様子＝こと（異・殊）［名］

他に比べてすぐれている様子＝こと（異・殊）［名］

他のせいにする＝かこつ（託つ）［動・四］

仏の戒律（＝守ルベキ規律）**を受ける**＝いむ（斎む）［動・四］

ほととぎすが本格的な夏の到来以前にひそやかに鳴くこと＝しのびね（忍び音）［名］ 例 四月二日なりしかば、まだしのびねのころにて…［大鏡］訳 四月二日だったので、まだほととぎすの初鳴きの頃で

ほどほどであっさりしている＝なほざりなり［形動・ナリ］ 例 よき人はひとへに好けるさまにも見えず、興ずるさまもなほざりなり。［徒然］訳 身分や教養のある人はやたらと風流心を持っているようには見えないで、楽しむ様子もあっさりしている。

ほどよくもてなす＝あへしらふ［動・四］

ほとんど…ない［打消を伴う］＝をさをさ［副］ 例 をさをさうち解けても罷らず…［源氏］訳 うちとけて通うこともほとんどせず

（夜明け前の）**ほの暗い頃**＝あけぐれ（明け暮れ）［名］

ほめる＝めづ（愛づ・賞づ）［動・下二］ 例 光君といふ名は、高麗人のめで聞こえて、付けたてまつりける。［源氏］訳 光君という名は、高麗の人相見がおほめ申しあげて、お付け申しあげた。 例 この姫ののたまふこと、「人々の、花、蝶やとめづるこそ、はかなくあやしけれ」［堤中］訳 この姫のおっしゃることには、「人々が、花よ、蝶よ

と言ってほめるのは、つまらなくおかしなことだ」

ほめるだけの値打ちがある＝めづらし（珍し）［形・シク］

本格的だ＝うるはし（麗し・愛し・美し）［形・シク］

本当に（その通りだ）＝げに（実に）［副］

本当にまあ［感動を表す語］＝げに（実に）［副］

ほんの形だけ＝けしきばかり（気色ばかり）［連語］

ぼんやりしている＝おぼつかなし（覚束無し）［形・ク］例 夕月夜のおぼつかなきほどに…［徒然］訳 夕月がぼんやりしている時分に

ぼんやりしている＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］

ぼんやりして頼りない＝こころもとなし（心もとなし）［形・ク］

ぼんやりと見る＝ながむ（眺む）［動・下二］例 月のあかき夜は、下格子もせでながめさせ給ひけるに…［大鏡］訳 月の明るい晩は、格子もおろさないで、月をぼんやりと見ていらっしゃったところ

ぼんやりと物思いにふける＝ながむ（眺む）［動・下二］例 夕月夜のをかしきほどに、出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。［源氏］訳 夕方の月の美しい時に、（命婦を更衣の里に）派遣なさって、そのままぼんやりと物思いにふけっていらっしゃる。

ま

まあよい＝よろし［形・シク］例 よろしう書きかへたりし…［紫日記］訳 まあまあよく書き直した（物語）対義語 わろし＜①よくない、②下品だ・みにくい＞例 友とするにわろきもの…［徒然］訳 友だちとするのによくないもの

間が悪い＝はしたなし（端なし）［形・ク］

まことに＝いと［副］

まことに＝よに（世に）［副］

まさか…（ないだろう）［「じ」を伴う］＝よも［副］例 今宵雨降れば、よもおはせじ。［落窪］訳 今夜は雨が降るので、まさかいらっしゃらないだろう。

（一段と）**まさって**＝けに（異に）［副］

まじめだ＝まめなり（忠実なり・真実なり）［形動・ナリ］

まじめだ＝まめまめし（真実真実し）［形・シク］

（男女の）**交わり**＝ちぎり（契り）［名］例 月に二たびばかりの御契りなめり。［源氏］訳 月に二度ほどの男女の交わりであるようだ。

（互いに親しく）**交わる**＝かたらふ（語らふ）［動・四］

…**ます**＝さぶらふ・さうらふ（侍ふ・候ふ）［動・四］例 さらば自害は思いとどまりさぶらひぬ。［平家］訳 それなら自害は思いとどまりました。

…**ます**＝たまふ（給ふ）［動・下二］例 「これをなん身にとりてはおもて歌と思ひたまふる」［無名抄］訳 「これを私としては代表歌だと思います」

…**ます**＝はべり（侍り）［動・ラ変］例 さくらの花の散りはべりけるを見て…［古今］訳 桜の花が散りましたのを見て 例 「御子はおはすや」と問ひしに、「一人も持ちはべらず」と答へしかば、［徒然］訳 「お子さんはいらっしゃるか」と尋ねたのに対して、「一人も持ってません」と答えたところ、

まずい＝あし（悪し）［形・シク］

まずい＝つたなし（拙し）［形・ク］

貧しい＝わびし（侘びし）［形・シク］

貧しく暮らす＝わぶ（侘ぶ）［動・上二］
ますます＝いとど［副］
ますます＝うたて［副］
ますます＝さらに（更に）［副］
ますます＝なほ（猶・尚）［副］
ますますはげしくなる＝すさぶ（荒ぶ・進ぶ・遊ぶ）［動・四］
まだ＝なほ（猶・尚）［副］
まだその時期ではない＝まだし（未し）［形・シク］
間違い＝ひがこと（僻事）［名］例 向かひ風に渡らむといはばこそ、ひがことならめ…［平家］訳 向かい風のときに渡ろうというのなら、間違いであろうが
まちがえる＝たがふ（違ふ）［動・四］
間違った行為＝ひがこと（僻事）［名］
まちがったこと＝ひがこと（僻事）［名］例 無益（むやく）のことをなして時を移すを、愚かなる人とも、僻事する人ともいふべし。［徒然］訳 役にたたないことをして時間を過ごす人を、ばかな人とも、まちがったことをする人とも言うべきである。
待ち遠しい＝おぼつかなし（覚束無し）［形・ク］例 返りごとせずはおぼつかなかりなむ。［堤中］訳 返事をしなければきっと待ち遠しいだろう。
待ち遠しい＝こころもとなし（心許無し）［形・ク］例 ちごの五十日、百日などのほどになりたる、行く末いと心もとなし。［枕］訳 赤ちゃんが生まれて五十日、百日などの時期になったのは、将来がたいそう待ち遠しい。
末日＝つごもり（晦日）［名］例 やよひのつごもりの日、雨の降りけるに、藤の花を折りて人につかはしける。［古今］訳 三月のみそかの日、雨が降っていた時に、藤の花を折って人に贈った（時に添えた歌）。
まっ正面だ＝まほなり（真面なり）［形動・ナリ］
まったく［下に打消を伴う］＝おほかた（大方）［副］例 しばしかなでて後、抜かんとするに、おほかた抜かれず。［徒然］訳 しばらく舞った後で、（壺を）抜こうとするが、まったく抜けない。
まったく＝げに（実に）［副］
全く［下に打消を伴う］＝さながら（然ながら）［副］
全く…ない［下に打消を伴う］＝さらに（更に）［副］例 うつくしげなること、さらにこの世のものに似ず。［宇津保］訳（容貌の）可愛らしいことは、全くこの世のものではないほどだ。例 眉さらに抜きたまはず、［堤中］訳 眉はまったくお抜きにならないで、
まったく［下に打消を伴う］＝たえて（絶えて）［副］例 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし［古今］訳 世の中にまったく桜がなかったならば、春の（人の）心はのどかなものだったろうになあ。
全く…ない［打消を伴う］＝つやつや［副］例 法印、あまりのあさましさに、つやつやもの申されず。［平家］訳 法印はあまりのひどさに、全くものも申すことができない。
全く…ない［下に打消を伴う］＝つゆ［副］殿におはし着きても、つゆまどろまれたまはず。［源氏］訳 御殿にご到着なさっても、全くお眠りになることもできない。
全く＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］例 むげに物参らざなるこそ…［源氏］訳 まったく何も召し上がらないようだというのは
まったく［下に打消を伴う］＝よに（世に）［副］例 我（わ）が妻はいたく恋ひらし飲む水に影（かげ）さへ見えてよに忘られず［万葉］訳 私の妻はとても（私のこと

を）恋しく思っているらしい。（私の）飲む水に面影まで映って、まったく忘れられない。

（言う）までもない＝おろかなり（疎かなり・愚かなり）［形動・ナリ］例 あさましなど言ふもおろかなり。［増鏡］訳 意外だなどとは言うまでもないことだ。

問遠になる＝かる（離る）［動・下二］

まに合わせだ＝かりそめなり（仮初めなり）［形動・ナリ］

まねをする＝もどく［動・四］

まぶしい＝まばゆし（眩し・目映し）［形・ク］

迷う＝まどふ（惑ふ）［動・四］例 道知れる人もなくてまどひいきけり。［伊勢］訳 道を知っている人もいないので、迷いながら行った。

まるで＝なほ（猶・尚）［副］

まるで…のように＝さながら（然ながら）［副］

丸見えだ＝あらはなり 例 御格子おろしてよ。あらはにもこそあれ。［源氏］訳 格子戸をおろしてしまえ。まる見えでは困る。例 すこし立ち出でつつ見渡したまへば、高きところにて、ここかしこ僧坊ども、あらはに見おろさる。［源氏］訳 少し外へ出て見渡しなさると、（そこは）高い所なので、あちこちに僧の住まいが、丸見えに見おろされる。

（たぐい）まれだ＝めづらし（珍し）［形・シク］

まれである＝かたし（難し）［形・ク］例 女の、これはしもと難つくまじきはかたくもあるかな。［源氏］訳 これこそはと何の欠点もないような女は、めったにいないものだなあ。

まれに（は）＝おのづから（自ら）［副］

まれに＝わくらばに［副］

…（て）まわる＝ありく（歩く）［動・四］例 波にこぎただよひありきて…［竹取］訳 波間に舟を漕ぎただよいまわって

間をあけて道をつける＝わく（分く・別く）［動・下二］

万一＝おのづから（自ら）［副］例 おのづから、御夢にも、まぼろしにも御覧ぜば…［宇治］訳 万一、夢の中にでも幻にでも御覧になるならば

満足しない＝あかず（飽かず）［連語］例 あかずや、ありけむ…［土佐］訳 満足しなかったのだろうか 例 飽かず、惜しと思はば、千年を過ぐすとも一夜の夢の心地こそせめ。［徒然］訳（いつまでも）満足せず、命が惜しいと思うならば、たとえ千年を過ごしても一晩の夢のような（はかない）感じがするだろう。

満足する＝あく（飽く・厭く）［動・四］

満足する＝こころゆく（心ゆく）［動・四］

み

見えなくなる＝うす（失す）［動・下二］例 白山にあへば光のうするかと…［竹取］訳 白山（＝かぐや姫）に出会ったから光も失せるのかと

見える＝みゆ（見ゆ）［動・下二］例 明石の門より家のあたり見ゆ［万葉］訳 明石の海峡から家のあたりが見える。

身勝手だ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

帝＝うち（内・内裏）［名］

帝＝うへ（上）［名］例 上渡らせたまふ御けしきなれば、まぎれて少将の君も隠れにけりとぞ。［堤中］訳 帝が（こちらに）おいでになるご様子なので、（その騒ぎに）まぎれて少将の君

も姿を隠してしまったのだ。

見苦しい＝あさまし［形・シク］例 わが形の醜く、あさましきことをあまりに心うくおぼえて…［徒然］訳 自分の顔かたちが醜く、（あきれるほど）見苦しいことをあまりにも情なく感じて

見苦しい＝あし（悪し）［形・シク］

見苦しい＝あやし（賤し）［形・シク］

見苦しい＝かたくなし（頑なし）［形動・ナリ］

見苦しい＝かたはらいたし（傍ら痛し）［形・ク］

見苦しくない＝めやすし（目安し）［形・ク］例 長くとも、四十（よそぢ）に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。［徒然］訳 長生きしたとしても、四十歳になる前くらいで死ぬのが、見苦しくないであろう。

みごとだ＝うつくし（愛し・美し）［形・シク］

みごとだ＝めでたし［形・ク］

見定める＝まもる（守る）［動・四］

短いことのたとえ＝たまのを（玉の緒）［名］

未熟だ＝かたほなり（片秀なり）［形動・ナリ］例 いまだ堅固かたほなるより、上手の中に交じりて…［徒然］訳 まだ全く未熟なうちから、上手な人の中にまじって

未熟だ＝まだし（未し）［形・シク］

水がひく＝ひる（干る・乾る）［動・上一］

水気がなくなる＝かる（枯る）［動・下二］

見すてておく＝もだす（黙す）［動・四／サ変］

みすぼらしい＝いやし（卑し・賤し）［形・シク］

みすぼらしい＝わびし（侘びし）［形・シク］

みすぼらしい様子になる＝やつる［動・下二］

みずみずしい＝なまめかし（艶かし）［形・ク］例 御額（ひたひがみ）髪のやうやう濡れゆく御そばめ、あてになまめかし。［源氏］訳 お額髪がだんだんとぬれてゆく、横から見たご様子は、上品でみずみずしい。

見せる＝みゆ（見ゆ）［動・下二］例「などか久しく見えざりつる。遠ざかる昔の名残（なごり）にも思ふを」［和泉］訳「どうして長く（姿を）見せなかったの。遠ざかっていく昔の名残にも思っているのに」

みそか＝つごもり（晦・晦日）［名］

見たい＝ゆかし（床し）［形・シク］例 ねびゆかむさまゆかしき人かなと、目とまりたまふ。［源氏］訳 成長してゆく様子が見たい人だなあと、目をおとめになる。例 若き、老いたる、さるべき人々、「ゆかしきことかな」と、ささめきあひたり。［宇治］訳 若い者も、年老いた者も、立派な人々も、「見たいものだなあ」と、ささやきあった。

見た感じがよい＝めやすし（目安し）［形・ク］

乱れている＝しどけなし［形・ク］例 ただおぼゆるに従ひてしどけなく申さむ。［大鏡］訳 ただ思い出すままに順序もなく申しあげましょう。

（心が）乱れる＝まどふ（惑ふ）［動・四］

道をつける＝わく（分く・別く）［動・下二］（草などを分けて）**道をひらいて進む**＝わく（分く・別く）［動・下二］

見つける＝みいだす（見出す）［動・四］

みっともない＝はしたなし（端なし）［形・ク］例 思ほえず、ふるさとに、いとはしたなくてありければ、［伊勢］訳 思いがけず、昔の都に、ひどく不似合いな様子で（姉妹が）いたので、

みっともない＝ひとわろし（人悪し）［形・ク］例 烏帽子のさまなどぞすこしひとわろき。［枕］訳（御嶽の参詣をすませて帰ってきた人の）烏帽子の様子が少しみっともない。

みっともない＝まさなし（正無し）［形・ク］例 声高になのたまひそ。屋の上にをる人どもの聞くに、いとまさなし。［竹取］訳 大声でおっしゃいますな。家の上にいる人たちが聞くと、とてもみっともない。例「あな、まさなや。入りたまへ」［枕］訳「まあ、みっともないこと。こちらへお入りなさい」

見つめる＝まもる（守る）［動・四］例 花のもとにはねぢ寄り立ち寄り、あからめもせずまもりて…［徒然］訳 花の下にはむりやり割り込んで近寄り、わき目もふらずにじっと見つめて

見ていられない＝まばゆし（眩し・目映し）［形・ク］

見通しがきく＝さやけし（清けし）［形・ク］

みにくい＝あし（悪し）［形・シク］

身にしみて＝せめて［副］

身のほど知らずだ＝おほけなし［形・ク］

見ばえがしなくなる＝やつる（窶る）［動・下二］

見張りをする＝まもる（守る）［動・四］

身分＝きは（際）［名］例 人の児産みたるに、男女、とく聞かまほし。よき人さらなり、えせ者、下衆のきはだになほゆかし。［枕］訳 ある人が子供を産んだ時、男か女かを、早く聞きたい。身分の高い人は言うまでもないが、つまらない者や、卑しい身分（の者）であってもやはり知りたい。

身分＝しな（品）［名］

身分＝ほど（程）［名・助］例 下衆などのほども…［枕］訳 下衆のような低い身分でも

身分が卑しい＝あし（悪し）［形・シク］

身分がいやしい＝あやし（賤し・粗し）［形・シク］

身分が高い＝あてなり（貴なり）［形動・ナリ］例 世界の男、あてなるもいやしきも、いかでこのかぐや姫を得てしがなと…［竹取］訳 世の中の男は、身分の高い者も低い者も、なんとかしてこのかぐや姫を（妻として）得たいものだと例 一人はいやしき男の貧しき、一人はあてなる男もたりける。［伊勢］訳 一人は身分が低い男で貧しい者を、（ほかの）一人は身分が高い男を（夫として）持った。

身分が高い＝やむごとなし［形・ク］例 この山にこもりゐて後、やむごとなき人のかくれたまへるもあまた聞こゆ。［方丈］訳 この山にこもって住むようになってから後、身分の高い人がお亡くなりになったということも数多く耳にする。

身分が高く教養がある＝よし（良し・善し）［形・ク］例 よき人は、あやしきことを語らず。［徒然］訳 身分が高く教養のある人は、変なことを話さない。

身分がとてもいやしい＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

身分が低い＝あやし（賤し）［形・シク］

身分が低い＝いやし（卑し・賤し）［形・シク］例 身はいやしながら、母なむ宮なりける。［伊勢］訳（彼の）身分は低いが、その母は内親王であった。例 高き、いやしき人の住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ぬれば、昔ありし家はまれなり。［方丈］訳 身分が高い人や、身分が低い人の住居は、時代がたってもなくならないものだが、これをほんとうかと調べると、昔あった家はまれだ。

身分が低い＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］
身分の高い人＝うへ（上）［名］
身分の高い人の「妻」を尊敬して呼ぶことば＝うへ（上）［名］
見舞う＝とふ（問う・訪ふ）［動・四］
見舞う＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］
身も細る思いだ＝やさし（優し・羞し）［形・シク］
みやこ＝くもゐ（雲居）［名］
都から地方へ下る＝まかる（罷る）［動・四］
宮仕えから退出して自宅にいること＝さとずみ（里住み）［名］
宮仕えしない人＝さとびと（里人）［名］
宮仕えもしないで家にばかりいる＝さとぶ（里ぶ・俚ぶ）［動・上二］
宮仕えをしばらく休んで自宅にいる人＝さとびと（里人）［名］
（人に）**見られる**＝みゆ（見ゆ）［動・下二］ 例 もの思ふと人には見えじ［万葉］ 訳 もの思いをしている人には見られまい。
魅力＝あいぎゃう（愛敬）［名］ 例 愛敬こぼるるばかりにておはする。［宇津保］ 訳 愛らしい魅力が溢れるほどでいらっしゃる。
魅力が備わる＝あいぎゃうづく（愛敬づく）［動・四］ 例 まみ、口つき、いと愛敬づき…［源氏］ 訳 目もとや口もとに、とても魅力が備わり
魅力的だ＝なつかし（懐かし）［形・シク］ 例 藤の咲きかかりて、月になびきたる、風につきてさとにほふがなつかしく…［源氏］ 訳 藤の花が咲いて枝からたれて、月の光の中でなびいて、風にのってさっと薫るのが魅力的で
（もの思いに沈みながらぼんやりと見ることもなしに）**見る**＝ながむ（眺む）［動・下二］
見る＝みいだす（見出す）［動・四］
見る＝みいる（見入る）［動・下二］
見る＝みる（見る）［動・上一］
見わたす＝ながむ（眺む）［動・下二］
身を入れて世話をする＝みいる（見入る）［動・下二］
身を入れる＝みいる（見入る）［動・下二］
（趣味などに）**身を打ちこむ**＝すく（好く）［動・四］
身を清めてつつしむ＝いむ（斎む・忌む）［動・四］
民間人＝さとびと（里人）［名］

む

無意味だ＝あぢきなし（味気無し）［形・ク］
無益だ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］
無益だ＝あぢきなし（味気無し）［形・ク］ 例 宝を費やし、心を悩ますことは、すぐれてあぢきなくぞ侍る。［方丈］ 訳 財貨を費やし、心を悩ますことはひどく無益である。
無益だ＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］
無益だ＝かひなし（甲斐無し・効無し）［形・ク］
昔＝こたい（古体）［名］
昔＝はやく（早く）［副］
昔なじみの土地や家＝ふるさと（古里・故郷）［名］ 例 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香に匂ひける［古今］ 訳 人の心はさあどうかわからないが、昔なじみの家には（梅の）花が昔のままの香りで薫っていたよ。
昔の都＝ふるさと（古里・故郷）［名］ 例 ふるさととなりにし奈良の都にも［古今］ 訳 旧都となってしまった奈良の

都にも

昔ふう＝こたい（古体）［名］例 こたいの親は、宮仕へ人はいと憂きことなりと思ひて…［更級］訳 昔ふうの親は、宮仕えの人はとてもわずらわしいことだと思って

昔ふうだ＝こたい（古体）［形動・ナリ］

むかし都のあった所＝ふるさと（古里・故郷）［名］

むごいしうちだ＝つらし（辛し）［形・ク］

むこうを見る＝みおこす（見遣す）［動・下二］

むさ苦しい＝むつかし（難し）［形・シク］

むさ苦しい＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］例 らうがはしき大路に立ちおはしまして…［源氏］訳 むさ苦しい大通りに立っていらっしゃって

無視できない＝やむごとなし［形・ク］

無情だ＝うし（憂し）［形・ク］

無情だ＝つれなし（連れ無し）［形・ク］

むしろ＝なかなか（中々）［副］例 ひたぶるの世捨て人は、なかなかあらまほしきかたもありなん。［徒然］訳 いちずに俗世間を捨てた人は、かえって望ましい面もあるだろう。

難しい＝ありがたし（有り難し）［形・ク］例 人並み並みならむこともありがたきことと思ひ沈みつるを…［源氏］訳 人並みの身になることも難しいことと沈みこんだが

難しい＝かたし（難し）［形・ク］例 鞠も、かたき所を蹴いだして後、やすく思へば…［徒然］訳 蹴鞠も、難しいところをうまく蹴当てたあと、もう安心だと思うと

むすこ＝をのこ（男）［名］

（男女が）結ばれる＝あふ（合ふ・会ふ・逢ふ）［動・四］

無造作だ＝さうなし（左右なし）［形・ク］

むぞうさだ＝しどけなし［形・ク］例 直衣ばかりをしどけなく着なす。［源氏］訳 直衣（平服）だけを、わざとむぞうさに着る。

むだだ＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］例 あだなるすさびと思ふ人…［十六夜］訳（和歌の道を）むだななぐさみごとと思う人

無駄だ＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］例 絵にかける女を見て、いたづらに心を動かすがごとし。［古今・序］訳 絵にかいてある女を見て、むだに心を動かすようなものである。例 とかくなほしけれども、つひに回らで、いたづらに立てりけり。［徒然］訳 あれこれ直したが、結局回らなくて、無駄に立ったままだったそうだ。

無駄だ＝かひなし（甲斐無し・効無し）［形・ク］例 なかなかかひなき事は聞かじ。［堤中］訳 なまじっか無駄な事は聞くまい。

むつまじい＝ねんごろなり（懇ろなり）［形動・ナリ］

むなしい＝あだなり（徒なり）［形動・ナリ］

むなしい＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］例 花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに［古今］訳 花の美しさも色あせてしまったなあ。（長雨が続き、私が）むなしく物思いをしているうちに。

むなしい＝はかなし（果無し）［形・ク］

むなしくて意味がない＝あやなし（文無し）［形・ク］

無念をはらす＝うらむ（恨む・怨む）［動・上二］

むやみだ＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］例 すずろにいひ散らすは…［徒然］訳 むやみにしゃべりまくる

のは

むやみだ＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

むやみに＝あいなし（愛なし）［形・ク］（「あいなく」の形で連用修飾語として）

むやみに＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］

むやみに＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］

むやみに…できない＝え…〈打消〉［副］例 えはしたなうも言はで見るこそ…［枕］訳 むやみに言うこともできないで見ているのは（気がかりだ。）

むやみやたら＝ひたぶるなり［形動・ナリ］例 よきあしきをいはず、ひたぶるに古きを守るは、学問の道にはいふかひなきわざなり。［玉勝間］訳 善悪を問題にしないで、むやみやたらに古い説を守るのは、学問の道では話にならないことである。

無理だ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］

無理に＝せめて［副］

無理やりだ＝あながちなり（強ちなり）［形動・ナリ］例「今夜はここに明けさせたまへ」とて、あながちにとどむれど…［雨月］訳「今夜はここで夜をお明かしください」と、無理やりに引きとどめるけれども

無論のこととして＝さるものにて（然るものにて）［連語］例 わざとの御学問はさるものにて…［源氏］訳 正式の御学問は無論のこととして

め

目新しい＝いまめかし（今めかし）［形・シク］

目新しい＝めづらし［形・シク］

明確だ＝はかばかし［形・シク］

命じる＝おほす（仰す）［動・下二］（敬語でない）

名声＝おぼえ（覚え）［名］例 小式部、これより、歌よみの世におぼえいできにけり。［十訓抄］訳 小式部は、これ以来、歌詠みの世界で名声が広まった。

明白だ＝あらはなり（顕はなり）［形動・ナリ］例 潮の近く満ちける跡もあらはに…［源氏］訳 潮が近くに満ちた跡もはっきりしていて

明白だ＝しるし（著し）［形・ク］

名誉＝おぼえ［名］

名誉＝おもておこし（面起こし）［名］

名誉をけがすこと＝おもてふせ（面伏せ）［名］

命令＝さた（沙汰）［名］

命令する＝おきつ（掟つ）［動・下二］

目が覚めている状態＝うつつ（現）［名］

目がさめやすい＝いざとし（寝聡し）［形・シク］

目がさめる＝おどろく（驚く）［動・四］

目から鼻にぬけるように機転がきく＝かどかどし（才々し）［形・シク］

召し上がる＝きこしめす（聞こし召す）［動・四］例 きたなき所の物きこしめしたれば…［竹取］訳 きたない所（＝人間世界）の物を召し上がったので

召し上がる＝たてまつる（奉る）［動・四］例「壺なる御薬たてまつれ」とて…［竹取］訳「壺にあるお薬を召し上がれ」と言って

召しあがる＝まゐる（参る）［動・四］例 心地もまことに苦しければ、物もつゆばかりまゐらず。［源氏］訳 気分もほんとうに苦しいので、食べ物も少しも召しあがらない。例 大御酒（おほみき）などまゐりたまふに…［源氏］訳 お酒など召し上がっていらっしゃるうちに

召しあがる＝めす（召す）［動・四］例 中納言、召さでもさすがに悪しかるべければ、箸取って召すよししけり。［平家］訳 中納言は、召しあがらないのもやはり失礼だろうから、箸を取って召しあがるふりをした。

珍しい＝あやし（怪し・奇し・異し）［形・シク］例 花の中にあやしきふぢの花あり。［伊勢］訳 花の中に珍しい藤の花がある。

珍しい＝ありがたし（有り難し）［形・ク］

めずらしい＝めづらし［形・シク］

目立たない姿になる＝やつる［動・下二］例 御供に人などもなく、やつれておはしけり。［源氏］訳 御供として人などもなく、目立たない姿になっておいでになった。

めだたないように姿を変える＝やつす（俏す・窶す）［動・四］

めったに［下に打消を伴う］＝をさをさ［副］

めったにない＝ありがたし（有り難し）［形・ク］例 ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。……主そしらぬ従者。［枕草子］訳 めったにないもの。舅（＝妻の父）にほめられる婿。また、姑（＝夫の母）にかわいがられるお嫁さん。……主人の悪口を言わない家来。

めったにない＝めづらし（珍し）［形・シク］

めったに…ない［下に打消を伴う］＝をさをさ［副］

目に映る＝みゆ（見ゆ）［動・下二］

目もくらむほど美しい＝まばゆし（眩し・目映し）［形・ク］

目をさまさせる＝おどろかす（驚かす）［動・四］

目をさます＝おどろく（驚く）［動・四］例 ものにおそはるる心地しておどろき給へば、火も消えにけり。［源氏］訳 何かにおそわれる感じがして、目をおさましになると、燈火も消えてしまっていた。

目を離さずに見る＝まもる（守る）［動・四］

目をはなさないでじっと見つめる＝まもる（守る）［動・四］

目をはなさないで見つめる＝まもる（守る）［動・四］

めんどうだ＝ところせし（所狭し）［形・ク］

めんどうだ＝むつかし（難し）［形・シク］例 詳しく書くべけれど、むつかし。［落窪］訳 詳しく書くのがよいけれど、めんどうだ。

面目をほどこすこと＝おもておこし（面起こし）［名］

も

もう＝いつしか（何時しか）［副］

［お（ご）］…申しあげる＝きこえさす（聞こえさす）［動・下二］例 楽府という書二巻をぞ、しどけなながら、教へたてきこえさせてはべる。［紫日記］訳 楽府［＝漢詩の一種］という書物二巻を、たどたどしいながらもお教え申しあげております。

申しあげる＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］例「『罪得ることぞ』と、常に聞こゆるを。心憂く」［源氏］訳「『（生き物をつかまえるのは）仏の罪を受けることですよ』と、いつも申しあげているのに。情けない」例 この娘の有様、問はず語りに聞こゆ。［源氏］訳 この娘の有様を、聞かれもしないのに申し上げる。

（中宮・皇太子などに）**申しあげる**＝けい

す（啓す）［動・サ変］例「よきに奏したまへ、啓したまへ」など言ひても、得たるはいとよし、［枕］訳「よろしく（天皇に）申しあげてください、（中宮に）申しあげてください」などと言っても、（官職を）得たのはたいへんよいが、

（天皇に）**申しあげる**＝そうす（奏す）［動・サ変］例 御鷹のうせたるよしを奏したまふときに、帝、もののたまはせず。［大和］訳 御鷹が行方不明になったことを申し上げなさるときに、帝は、ものも仰せにならない。例 あはれなりつること、忍びやかに奏す。［源氏］訳 しみじみと感じたことを、そっと（天皇に）申しあげる。

…**申し上げる**［補助動詞］＝たてまつる（奉る）［動・四］

…**申し上げる**＝たまふ（給ふ）

…（し）**申し上げる**＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］例 笛つかうまつり給ふ、いとおもしろし。［源氏］訳 笛をお吹き申し上げなさるのが、とても趣がある。

（お）…**申し上げる**＝つかうまつる（仕うまつる）［動・四］例 御送りつかうまつらむ。［源氏］訳 お送り申し上げよう。

申し上げる＝まうす（申す）［動・四］例 見ぬ骨のさまなりとなむ人々申す。［枕］訳 まだ見たことのない（扇の）骨の様子だと人々は申しあげる。例 童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず」［宇治］訳 子供が申しあげるには、「日が昇ったり沈んだりする所は見える。洛陽はまだ見えない」

（ご）…**申しあげる**＝まゐらす（参らす）［動・下二］

毛筆＝みづくき（水茎）［名］

（かねてからの）**目的**＝ほい（本意）［名］

目標とする＝まもる（守る）［動・四］

もぐる＝かづく（潜く）［動・四］

文字＝て（手）［名］

文字＝ふみ（文）［名］

もしかして＝おのづから（自ら）［副］

もしかすると＝ようせずは（良うせずは）［連語］例 坊にも、ようせずは、この御子の居たまふべきなめりと、一の御子の女御は思し疑へり。［源氏］訳 皇太子にも、悪くすると、この御子がおつきになりそうだと、第一皇子の母である女御は疑わしくお思いになった。

もちこたえる＝たふ（耐ふ・堪ふ）［動・下二］

勿論だ＝さうなし（左右なし）［形・ク］

もちろんだ＝さらなり（更なり）［形動・ナリ］

もちろんだ＝さらにも言はず・さらにもあらず［連語］

もったいない＝あたらし（惜し）［形・シク］

もったいない＝おほけなし［形・ク］

もったいぶっている＝ゆゑゆゑし（故々し）［形・シク］例 歌やからうたなどを、いとなだらかに、ゆゑゆゑしう言ひ続けまねぶに…［大鏡］訳 和歌や漢詩などを、たいそうすらすらと、もったいぶって話し続けるので

もったいぶる＝ゆゑだつ（故立つ）［動・四］

持っていく＝ゐる（率る）［動・上一］例 神璽・宝剣ばかりをぞ、忍びてゐて渡らせ給ふ。［増鏡］訳 神璽・宝剣だけを、秘密のうちに持っていらっしゃる。

もってのほかだ＝たいだいし（怠々し）［形・シク］例 世の中のことをも思ほし捨てたるやうになりゆくは、いとたいだいしきわざなり。［源氏］訳 政治

向きのことをもお見捨てになったようになってゆくのは、もってのほかのことである。

最も優れている＝さうなし（双なし）［形・ク］

もっともだ＝ことわり（理）［形動・ナリ］例 よく定めてつかうまつれと申すもことわりなり。［竹取］訳 よく考えて決めた上でいたせと申すのももっともである。

もっともな＝さる（然る）［連体］例「人には木の端のやうに思はるるよ」と清少納言が書けるも、げにさることぞかし。［徒然］訳「人には木の切れっ端のように（つまらないと）思われるよ」と、清少納言が書いているのも、なるほどもっともなことであるよ。

もっともらしい＝げにげにし（実に実にし）［形・シク］

もてなし＝あるじ（主・饗）［名］例 方違へに行きたるに、あるじせぬ所。［枕］訳 方違えに行ったのに、もてなしをしない家。

もてなし＝まうけ（設け）［名］例 入道、今日の御まうけ、いといかめしうつかうまつれり。［源氏］訳 入道は、今日の御もてなしをたいそう立派にいたした。

（ほどよく）**もてなす**＝あへしらふ［動・四］

もてはやす＝もてなす［動・四］例 鎌倉の海に鰹といふ魚は、かの境には、さうなきものにて、このごろもてなすものなり。［徒然］訳 鎌倉の海で鰹といっている魚は、あの土地では、無上のものとして、近ごろもてはやすものである。

（…の）**もとに**＝のがり（の許り）［連語］例 京なる薬師のがりゐて行きにけり。［徒然］訳 京都にいる医者のところへ連れて行った。

求める＝とぶらふ（訪ふ・弔ふ）［動・四］例 遠く異朝をとぶらへば…［平家］訳 遠く他国に（例を）探し求めると

もの＝かた（形）［名］

物音をたてる＝おとなふ（音なふ）［動・四］

もの思いに沈みながらぼんやりと見ることもなしに見る＝ながむ（眺む）［動・下二］

もの思いにふける＝ながむ（眺む）［動・下二］例 心もそらにながめ暮らさる。［更級］訳 ぼうっともの思いにふけって暮らすことになる。

もの思いをして、いろいろと気をもむこと＝こころづくし（心尽くし）［名］

もの悲しい＝わびし（侘びし）［形・シク］

ものごし＝けはひ［名］

物事がいよいよすすむこと＝すさび（荒び・進び・遊び）［名］

物事のきまりがつく＝やむ（止む）［動・四］

物事の事情をあきらかにする＝あきらむ（明らむ）［動・下二］

物事の処理をする＝おこなふ（行ふ）［動・四］

物事の内容＝あない（案内）［名］

物事のはじめ＝たらう（太郎）［名］

もの寂しい＝さうざうし［形・シク］

もの寂しい＝すごし（凄し）［形・ク］例 琴をすこしかき鳴らしたまへるが、われながらいとすごう聞こゆれば、［源氏］訳 琴を少しかき鳴らしなさった音が、自分ながらたいそうもの寂しく聞こえるので、例 日の入りぎはのいとすごく霧わたりたるに…［更級］訳 日が沈む頃で、たいそうもの寂しく一面に霧がかかっている時に

もの寂しい＝すさまじ（凄じ）［形・シ

ク］

ものずきだ＝すきずきし（好き好きし）［形・シク］

ものすごい＝おどろおどろし［形・シク］例 幼き人を呼び出でて、「われはいまは来じとす」など言ひおきて、出でにけるすなはちはひ入りて、おどろおどろしう泣く。［蜻蛉］訳（父は）幼い人（＝わが子）を呼び出し、「わたしはもう来ないつもりだ」などと言って出ていってしまうとすぐに、子どもがはいってきてものすごく泣く。

もの足りない＝あかず（飽かず）［連語］

もの足りない＝くちをし（口惜し）［形・シク］

もの足りない＝さうざうし［形・シク］例 よろづにいみじくとも、色好まざらん男は、いとさうざうしく、［徒然］訳 万事に優れていても、恋に夢中になれないような男は、ひどくもの足りなく、例 この酒をひとりたうべんがさうざうしければ…［徒然］訳 この酒を一人で飲むのがもの足りなくさびしいので

ものたりない＝つれづれなり（徒然なり）［形動・ナリ］

もの足りない＝ほいなし（本意無し）［形・ク］

ものなれて行きとどいている＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

物の形＝かたち（形・貌）［名］

ものの区別＝あやめ（文目）［名］

ものの道理＝ことわり（理・断り）［名］

（…ただろう）ものを＝てまし［連語］例 昼ならましかば、のぞきて見たてまつりてまし。［源氏］訳 昼間であったならば、のぞいて拝見しただろうものを。

ものを尋ねる＝とふ（問ふ・訪ふ）［動・四］

もはや＝はやく（早く）［副］

文句を言う＝むつかる（憤る）［動・四］

や

…やいなや＝ままに［連語］

やかましい＝あなかま［連語］

やかましい＝かしがまし（喧し）［形・シク］例 くつくつぼふし、いとかしがましきまで鳴くを［蜻蛉］訳 つくつくぼうしが、ひどくやかましいぐらいに鳴いているのを

やかましい＝こちたし（言痛し・事痛し）［形・ク］

やかましい＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］例 皆同じく笑ひののしる、いとらうがはし。［徒然］訳 皆がいっせいに笑い騒ぐのが、とてもやかましい。

やかましく音をたてる＝ののしる（喧る・罵る）［動・四］

役所＝つかさ（司）［名］

役所などの命令＝さた（沙汰）［名］

約束＝ちぎり（契り）［名］例 あだなる契りをかこち、長き夜をひとり明かし…［徒然］訳 あてにならない約束を恨み嘆き、秋の夜長をひとりで明かし

約束ごと＝ちぎり（契り）［名］（男女が将来のこと［＝結婚スルコトナド］を）

約束する＝かたらふ（語らふ）［動・四］

約束する＝ちぎる（契る）［動・四］

約束などして頼みにさせる＝たのむ（頼む）［動・下二］

役に立たない＝いたづらなり（徒らなり）［形動・ナリ］

役にたたない＝えうなし（要なし）［形・ク］

役人＝つかさ（司）［名］

やさしさ＝あいぎゃう（愛敬）［名］例

ものうち言ひたる、聞きにくからず、愛敬ありて［徒然］訳 ちょっとものを言ったのが、聞き苦しくなく、やさしい思いやりがあって

やせ衰える＝やつる（窶る）［動・下二］

やたらだ＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］

やたらだ＝むげなり（無下なり）［形動・ナリ］例 むげになかよくなりて、よろづのこと語る。［枕］訳 やたらに親しくなって、いろんな話をする。

やたらに＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］

やたらに…だ＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］

やってくる＝みゆ（見ゆ）［動・下二］（そうはいうものの）**やはり**＝さすがに［副］

やはり＝なほ（猶・尚）［副］例 雨に向かひて月を恋ひ、たれこめて春のゆくへ知らぬも、なほあはれに情け深し。［徒然］訳 雨に向かって（雲に隠れた）月を思い、簾（すだれ）をおろして（家の中にいて）春が過ぎていくのを知らずにいるのも、やはりしみじみとして趣がある。例 和歌こそなほをかしきものなれ。［徒然］訳 和歌はやはり興趣が深いものである。

（それはそうだが）**やはりそうばかりでもない**＝さすがなり［形動・ナリ］

破る＝こぼつ（毀つ）［動・四］

病がすすむ＝わづらふ（煩ふ）［動・四］例 昔、男、わづらひて、心地死ぬべくおぼえければ…［伊勢］訳 昔、ある男が病気になって、今にも死んでしまいそうな気持ちになったので 類語 なやむ〈①苦しむ、②病気する、③非難する〉

山がけわしい＝さがし（険し・嶮し）［形・シク］

山里＝さと（里）［名］

やましい＝うしろめたし（後ろめたし）［形・ク］

やむをえない＝さりがたし（避り難し）［形・ク］

やむをえない＝わりなし［形・ク］例 路次の煩ひとなれるこそわりなけれ。［奥の細道］訳（断りきれない餞別はさすがに捨てにくく）道中の苦労となっているのはやむをえないことだ。

ややもすると＝おのづから（自ら）［副］

やりきれない＝わびし（侘びし・侘びし）［形・シク］

やんちゃだ＝さがなし（性なし）［形・ク］

ゆ

憂うつだ＝うし（憂し）［形・ク］例 二、三日ばかりありて、あかつきがたに、門（かど）をたたくときあり。さなめりと思ふに、憂くて、開けさせねば、［蜻蛉］訳 二、三日ほどして、夜明け前に、門をたたく時があった。夫だろうとは思ったが、不愉快であるので、（門を）開けさせないでいると、

優雅＝みやび（雅び）［名］

夕方＝ゆふづくよ・ゆふづきよ（夕月夜）［名］

夕方に出てほどなく沈む月＝ゆふづくよ・ゆふづきよ（夕月夜）［名］

夕方になる＝ゆふさる（夕さる）［連語］例 夕されば野辺（のべ）の秋風身にしみてうづら鳴くなり深草（ふかくさ）の里［千載］訳 夕方になると、野辺を吹く秋風の冷たさが身にしみて、（その上）うずらの寂しい鳴き声が聞こえてくるよ、この深草の里では。

夕方になると＝ゆふされば（夕されば）［慣用句］例 夕されば小倉の山に鳴く

鹿はこよひは鳴かず寝ねにけらしも［万葉］訳 夕方になるといつも小倉の山で鳴く鹿が今夜は鳴かない。もう寝てしまったにちがいないよ。

優雅なこと＝みやび（雅び）［名］

優雅なふるまいをする＝なまめく（生めく・艶めく）［動・四］

遊戯などで楽しむこと＝あそび（遊び）［名］

優美だ＝あてなり（貴なり）［形動・ナリ］

優美だ＝いうなり（優ナリ）［形動・ナリ］例「かぐや姫のかたち、優におはすなり」［竹取］訳「かぐや姫の容貌は、優美でいらっしゃるということだ」

優美だ＝えんなり（艶なり）［形動・ナリ］例 何心なき空の気色も、ただ見る人からえんにもすごくも見ゆるなりけり。［源氏］訳 無心である空の様子も、ただ見る人それぞれによって優美にもぞっとする感じにも見えるものだ。例 なかなかに艶にをかしき夜かな。［更級］訳（月夜よりも）かえって優美で趣のある夜ですね。

優美だ＝なまめかし（生めかし・艶めかし）［形・シク］例 七夕まつるこそなまめかしけれ。［徒然］訳 七夕を祭るのは優美である。例 その子うまごまではふれにたれど、なほなまめかし。［徒然］訳 その子や孫の代まではたとえおちぶれてしまっても、それでもやはり優美である。

優美だ＝やさし（優し・羞し・恥し）［形・シク］

優美だ＝をかし［形・シク］

優美なふるまいをする＝なまめく（生めく・艶めく）［動・四］

裕福だ＝たのもし（頼もし）［形・シク］例 天竺に留志長者とて、よにたのもしき長者ありける。［宇治］訳 インドに留志長者といって、非常に裕福な金持ちがいた。

有名人となる＝ときめく（時めく）［動・四］

有名である＝おとにきく（音に聞く）［連語］

有名である＝きこゆ（聞こゆ）［動・下二］例「日本国に聞こえさせたまひつる木曾殿をば、三浦の石田の次郎為久がうちたてまつったるぞや」［平家］訳「日本国で有名でおられた木曾殿を、三浦の石田次郎為久（の郎等）がお討ち申しあげたぞ」

有名である＝なにおふ（名に負ふ）［連語］

有名である＝なにしおふ（名にし負ふ）［慣用句］

優劣を争わせる＝あはす（合はす）［動・下二］

ゆえありげだ＝ゆゑゆゑし（故々し）［形・シク］

愉快だ＝おもしろし（面白し）［形・ク］例 歌を歌ひ、笛を吹き、おもしろく遊ぶに…［今昔］訳 歌を歌い、笛を吹き、愉快に遊んでいると

行きとどいている＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］

行方不明になる＝うす（失す）［動・下二］例 御子失せ給ひぬと思しまどひ…［更級］訳 御子が行方不明になられたと、うろたえなさり

油断する＝おこたる（怠る）［動・四］

弓矢の特称＝てうど（調度）［名］

夢の吉凶を判断する＝あはす（合はす）［動・下二］

ゆわえる＝むすぶ（掬ぶ・結ぶ）［動・四］

よ

夜明け頃まで残っている月＝ありあり（有り明け）［名］例 月は、有明の、東の山ぎはにほそくて出づるほど、いとあはれなり。［枕］訳 月は、有明の月が東の山ぎわに細い形で出るころが、たいそうしみじみと感じられる。

夜明け前のほの暗い頃＝あけぐれ（明け暮れ）［名］

よい＝いみじ［形・シク］

よい折＝ついで［名］

よい機会＝ひま（隙・暇）［名］

よい時期にあって栄える＝ときめく（時めく）［動・四］

（…したら）**よいだろうか**＝てまし［連語］

用意＝いそぎ（急ぎ）［名］

用意＝まうけ（設け・儲け）［名］例 入道今日の御まうけ、いといかめしう仕うまつれり。［源氏］訳 入道は今日の（送別の宴の）ご用意を、たいへん盛大に整えてさしあげた。

用意する＝いそぐ（急ぐ）［動・四］

用意する＝さうぞく（装束）［動・四］

用意する＝したたむ（認む）［動・下二］例 御灯（みあかし）のことどもしたためはてて…［源氏］訳（仏前の）御灯（とうみょう）明のことなども用意し終えて…

用が足りず困る＝ふびんなり（不便なり）［形動・ナリ］

幼少である＝いはけなし（稚けなし）［形・ク］例 いはけなき人もいかにと思ひやりつつ…［源氏］訳 まだ幼少な人（＝光源氏）もどうであろうかと思いを馳せ、思いを馳せして

用心して＝かまへて…（な）（構へて）［副］

用心する＝こころう（心得）［動・下二］

用心する＝つつむ（慎む）［動・四］

様子＝かたち（形・容貌）［名］

様子＝けしき（気色）［名］例 かくて明けゆく空のけしき、きのふに変はりたりとは見えねど［徒然］訳 こうして夜が明けてゆく空の様子は、きのうと変わっているとは見えないけれど

ようす＝ほど（程）［名］

様子があらたまる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

様子が外に現れる＝けしきだつ（気色だつ）［動・四］

様子を表す＝けしきばむ（気色ばむ）［動・四］

様子をうかがう＝まもる（守る）［動・四］

幼稚である＝いはけなし（稚けなし）［形・ク］

…ような［伝聞・婉曲］＝らむ［助動］例 人の言ふらむをまねぶらむよ。［枕］訳 人の言うようなことをまねするとかいうことよ＜a婉曲用法、b伝聞用法＞

容貌＝かたち（形・貌）［名］例 まみ口つきいと愛敬づき、はなやかなるかたちなり。［源氏］訳 目もとや口もとに、とても魅力が備わり、ぱっと明るい容貌である。

容貌が劣っている＝かたほなり（片秀なり）［形動・ナリ］

夜があける＝あく（明く）［動・下二］例 ぬばたまの夜はあけぬらし［万葉］訳 夜があけたのにちがいない

予期＝あらまし［名］

予期しない＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］

予期する＝あらます［動・四］

予期に反する＝たがふ（違ふ）［動・四］

翌朝＝あした（朝）［名］例 とり集めたることは、秋のみぞ多かる。また野分（のわき）のあしたこそをかしけれ。［徒然］訳（趣深いものとして）集めたことがら

は、秋ばかりが多い。また台風の翌朝は情趣がある。

翌朝＝つとめて［名］例 そのつとめて、そこを立ちて…［更級］訳 その翌朝、その場所を出立して

(刃が)**よく切れる**＝とし（利し）［形・ク］

よく心にかけて＝かまへて…（な）（構へて）［副］

よく整っている＝まほなり（真面なり）［形動・ナリ］

(道徳的な面で)**よくない**＝まさなし（正無し）［形・ク］例 みるめに飽くはまさなきことぞよ。［源氏］訳 見飽きるほどいっしょにいるのは、よくないことですよ。

(あまり)**よくない**＝わろし（悪し）［形・ク］

(どうであろうか)**よくないだろう**＝いかが［副］

よこす＝おこす（遣す・致す）［動・下二／四］例 東風吹かば匂ひおこせよ梅の花［大鏡］訳 春の東風が吹いたら、（西にいる自分に）香りを送ってよこしてくれ、梅の花よ。

寄こす＝つかはす（遣はす）［動・四］

予想どおりだ＝しるし（著し）［形・ク］

予想よりも劣っていて、がっかりする＝こころおとりす（心劣りす）［動・サ変］

予想よりも実際の方が劣って感じられること＝こころおとり（心劣り）［名］

予定＝あらまし［名］例 この御幸あらましばかりにて、実にはなかりけり。［著聞］訳 この（上皇の）お出かけは御予定だけで、実際には行われなかった。

夜通し＝よすがら（夜すがら）［副］

世に言う＝いはゆる（所謂）［連体］例 今いはゆる草薙の剣なり。［書紀］訳 今、世に言う草薙の剣である。

夜が明ける前の、ほの暗い頃＝あけぐれ（明け暗れ）［名］

世の中＝よ（世・代）［名］

世の中で最高の人＝いちのひと（一の人）［名］

読みたい＝ゆかし（床し）［形・シク］

(歌などを)**詠む**＝ながむ（詠む）［動・下二］

よもや＝よも［副］（下に「じ」を伴う）

弱々しい＝かひなし（甲斐無し・効無し）［形・ク］

(病気で体が)**弱る**＝こうず（困ず）［動・サ変］

ら

来意を告げること＝せうそこ（消息）［名］

来世（の安楽）＝ごせ（後世）［名］

来世＝よ（世）［名］

来訪客＝まらうと（客人）［名］

(…た)**らしい**＝けらし［助動＋助動］

乱雑だ＝らうがはし（乱がはし）［形・シク］

り

理解する＝こころう（心得）［動・下二］例 はしるはしる、わづかに見つつ、心も得ず心もとなく思ふ源氏を、［更級］訳 とびとびに、少し見ては、（筋を）理解することもできずもどかしく思っていた源氏物語を、

理解する＝しる（知る）［動・四］

利口ぶっている＝さかし（賢し）［形・シク］

理想的だ＝あらまほし（有らまほし）［形・シク］例 家居のつきづきしくあらまほしきこそ、仮の宿りとは思へ

ど、興あるものなれ。[徒然] 訳 住まいが調和がとれていて理想的であるのは、短い人生の一時の宿とは思っても、興趣あるものだ。

(そのままにしておくのが惜しいほど)**立派だ**＝あたらし(惜し・可惜し)[形・シク] 例 例の姫君の御有様さかりに整ひて、あたらしううつくしげなり。[源氏] 訳 あの姫君の御様子は娘盛りでよく整って(独り身がもったいないほど)立派でかわいらしい。

立派だ＝あはれなり[形動・ナリ] 例 あはれなる句を作り給へるを… [源氏] 訳 立派な句をお作りになったのを

立派だ＝いたし(甚し・痛し)[形・ク]

立派だ＝いみじ[形・シク] 例 問はぬ限りは言はぬこそいみじけれ。[徒然] 訳 問わないかぎりは言わないのが立派だ。

立派だ＝うつくし(愛し・美し)[形・シク]

(言いようがないほど)**立派だ**＝えもいはず(えも言はず)[連語] 例 えもいはぬ匂ひの、さと薫りたるこそ、をかしけれ。[徒然] 訳 言いようがないほどよい匂いが、さっと薫ってくるのは、趣深い。

立派だ＝かしこし(賢し)[形・ク]

立派だ＝はづかし(恥づかし)[形・シク] 例 はづかしき人の、歌の本末問ひたるに、ふとおぼえたる、我ながらうれし。[枕] 訳 立派な人が、(私に)歌の上の句や下の句を尋ねた時に、とっさに思い出した時は、我ながらうれしい。

立派だ＝めざまし(目覚まし)[形・シク]

立派だ＝よし(良し・善し)[形・ク]

りっぱだ＝をかし[形・シク]

立派な＝さる(然る)[連体]

立派な＝さるべき(然るべき)[連語] 例 娘をばさるべき人に預けて、[源氏] 訳 娘を(婿としてふさわしい)立派な男に預けて、 例 さるべき人は、疾うより御心魂の猛く…[大鏡] 訳 立派な人は、早くから御心の様子が勇猛で

(こちらが気がひけるほど)**りっぱな人**＝はづかしき人[連語]

利発ですきがない＝らうらうじ(労々じ)[形・シク]

理非を判断する＝ことわる(理る・断る)[動・四]

理非を論じ定めること＝さた(沙汰)[名]

理法＝ことわり(理)[名]

理由＝ことわり(理・断り)[名]

理由がない＝よしなし(由無し)[形・ク]

(何という)**理由もない**＝すずろなり(漫ろなり)[形動・ナリ]

領有する＝しる(領る)[動・四] 例 春日の里にしるよしして、狩りにいにけり。[伊勢] 訳 旧都奈良の春日の里に領地を持っている縁で、鷹狩りに出かけた。

臨終＝かぎり(限り)[名] 例 かぎりの御病とても… [大鏡] 訳 臨終の御病状といっても

れ

礼儀ただしい＝ゐややかなり(礼やかなり)[形動・ナリ]

霊験＝しるし(験・徴)[名]

霊魂＝たましひ(魂)[名]

冷淡だ＝つれなし(連れ無し)[形・ク] 例 昔、をとこ、つれなかりける女にいひやりける… [伊勢] 訳 昔、男が、冷淡であった女に言い贈った(歌)

例によって＝れいの(例の)[連語]

例のあの＝ありつる［連体］

ろ

老女＝おんな（嫗）［名］
老年の男＝おきな（翁）［名］
老練だ＝らうらうじ（労々じ）［形・シク］
露骨だ＝あらはなり（顕なり）［形動・ナリ］
論じ定めること＝さた（沙汰）［名］

わ

和歌＝こと（言）［名］
若い男性＝をとこ（男）［名］
和歌の上の句と下の句とがつながらない下手な歌＝こしをれうた（腰折歌）［名］
若者＝をとこ（男）［名］
（どうしてよいか）**わからない**＝まどふ（惑ふ）［動・四］
わからない＝いぶかし（訝し・審し）［形・シク］
わからないように退出する＝ゐざる（居ざる）［動・四］
わかる＝しる（知る）［動・四］
別れにくい＝さりがたし（去り難し）［形・ク］
若々しい＝なまめかし（生めかし・艶めかし）［形・シク］
若々しく美しい様子が見える＝なまめく（生めく・艶めく）［動・四］
わけ＝ことわり（理）［名］
わけがありそうにふるまう＝ゆゑだつ（故立つ）［動・四］
わけがわからない＝あやなし（文無し）［形・ク］例 春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる［古今］訳 春の夜の闇はわけがわからない。（確かに闇のために）梅の花は、色は見えないが、香りは隠れるだろうか、いや隠れはしない。
わけがわからない＝われか（我か）［連語］例 いとどなよなよとわれかのけしきにて…［源氏］訳 ますますなよなよと弱々しく我を失っている様子で 類語 われかひとか〈自分なのか他人なのか判然としない。茫然自失の状態である〉例 我か人かと身をたどる世に［古今］訳 この身が自分なのか人なのかと迷っている時ゆえ
わけもない＝すずろなり（漫ろなり）［形動・ナリ］
わけもない＝そこはかとなし［形・ク］例 心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば…［徒然］訳 心にうつっていくどうということもないことを、とりとめもなく書きつけていると、例 そこはかと知りてゆかねど先に立つ涙ぞ道のしるべなりける［更級］訳 どこそこと見当をつけて行くわけではないが、先立つ涙が道の案内であることよ。
わけもなく＝あいなし［形・ク］〈連用形で〉例 愛敬おくれたる人などは、あいなくかたきにして…［枕］訳 不器量な人などは、わけもなく（行成を）目のかたきにして
わけを説明する＝ことわる（理る・断る）［動・四］
わざわざ＝わざと（熊と）［副］例 わざと思ひ立ちて宮仕へに立ち出でたる人の…［枕］訳 わざわざ（自分から）望んで宮仕えに出た人が、
わずらわしい＝うし（憂し）［形・ク］
煩わしい＝こちたし（言甚し・事甚し）［形・ク］
わずらわしい＝むつかし（難し）［形・シ

ク］例 このごろは、深く案じ、才覚をあらはさんとしたるやうに聞こゆる、いとむつかし。［徒然］訳 最近は、（名前を付ける時に）深く思案し、学才のほどを見せつけようとしているように思われるのは、たいへんわずらわしい。

話題にのぼったさっきの＝ありつる［連体］

わびる＝かしこまる（畏まる）［動・四］

わびること＝おこたり（怠り）［名］

悪い＝あし（悪し）［形・シク］例 良き悪しきことの目にも耳にもとまるありさまを…［源氏］訳 良いこと悪いことが目にもとまり、耳にも聞こえる様子を

悪い＝わろし（悪し）［形・シ］

悪い結果をおそれて慎まなければならないさまだ＝いまいまし（忌忌し）［形・シク］

悪くすると＝ようせずは（良うせずは）［連語］例 坊にも、ようせずは、この御子の居たまふべきなめりと、一の御子の女御は思し疑へり。［源氏］訳 皇太子にも、悪くすると、この御子がおつきになりそうだと、第一皇子の母である女御は疑わしくお思いになった。

悪くない＝よろし［形・シク］例 よろしう書きかへたりし…［紫日記］訳 まあまあよく書き直した（物語） 対義語 わろし〈①よくない、②下品だ・みにくい〉例 友とするにわろきもの…［徒然］訳 友だちとするのによくないもの

悪くはない＝けしうはあらず［連語］例 家兼もけしうは侍らぬをのこなり。［大鏡］訳 家兼もたいして悪くはない男である。

悪くはない＝よろし（宜し）［形・シク］

我を失っている＝われか（我か）［連語］例 いとどなよなよとわれかのけしきにて…［源氏］訳 ますますなよなよと弱々しく我を失っている様子で 類語 われかひとか〈自分なのか他人なのか判然としない。茫然自失の状態である〉例 我か人かと身をたどる世に［古今］訳 この身が自分なのか人なのかと迷っている時ゆえ